飯能市郷土館館報

郷土館のプロフィール

Profile 2013

活動報告書
第11号
平成25年度

飯能市郷土館

あいさつ

飯能市郷土館館報「郷土館のプロフィール」第11号をお届けします。

当館の館報は平成9年3月に創刊しました。第1号では開館から平成7年度までの6年間の事業をまとめ、それ以後、3年に1度ずつ刊行してまいりました。しかし、この発行間隔では最新のデータを掲載することができず、十分に活用できないとの考えから、平成21年度に刊行した第6号からは毎年発行することとしました。当館の実情を明らかにするとともに、また、今後の運営に役立てることを目的として、数値等のデータだけでなく、事業内容がわかるような記述、評価や課題を含めて掲載しているのが当館の館報の特徴でもあります。

本書は平成25年度の事業の結果をまとめたものです。当館はまもなく、平成26年4月で開館25周年という節目の時を迎えようとしています。これを機に、本書では、開館以来の歩みと、特にこの10年間どのような意識をもって館を運営してきたかを振り返ってみました。

さらに、これまで展示等の評価については、担当者による自己評価を掲載してきましたが、ややもすると単なる感想にとどまってしまうこともありました。そこで、今回は展示会期中に入館者に記入していただいたアンケート結果を分析し、そこから課題を浮き彫りにすることを試みました。

これらの作業は自ら行った事業の成果を検証し、改善に生かすためのものです。まだまだ不十分な点は多々ありますが、地方自治体、さらには博物館を取り巻く環境が厳しい現在において、「地域の情報センター」を目指す当館の試みの一つとして掲載しました。

今後とも市民にとって本当に必要な博物館を追及してまいりたいと思います。皆様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月

飯能市郷土館
館長　柳戸信吾

目　次

あいさつ …… 1
目　次 …… 2
沿　革 …… 3

第1章　施設

建物平面図 …… 6
面積表・施設等修繕 …… 7
常設展示の概要 …… 8
名栗くらしの展示室 …… 9

第2章　事業

飯能市郷土館この10年間の軌跡 …… 12
平成25年度の事業 …… 14
展示
（収蔵品展・特別展） …… 15
（その他の展示） …… 24
講座・学習会 …… 30
交流 …… 33
博学連携 …… 40
資料・施設の利用 …… 44
レファレンスの対応 …… 50
講師派遣 …… 51
収集 …… 52
整理・保存 …… 54
調査・研究 …… 58
刊行物 …… 60
情報発信 …… 61
事業支援 …… 62
郷土館協議会 …… 63
博物館実習 …… 64

第3章　各種データ

利用者数 …… 66
歳出予算 …… 67
図書資料寄贈機関 …… 68
飯能市郷土館条例・施行規則 …… 70

職員 …… 73
利用案内 …… 74

表紙:「飯能市郷土館」ペン・水彩　1990年　小島喜八郎画

沿　革

昭和46年３月　「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄付された1千200万円が予算化される。
昭和50年４月　飯能市総合振興計画の基本構想に郷土館建設がうたわれる。
昭和61年３月　(株)丸広百貨店より寄付された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61年６月　飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62年３月　飯能市文化財保護審議委員会から基本構想・基本計画が答申される。
昭和62年７月　(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62年10月　(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63年３月　市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元年４月　社会教育課内に郷土館準備係(係長1・係員1)が配置される。
平成元年６月　(株)タイムアートデザインによる展示工事に着手する。
平成元年12月　飯能市郷土館条例が制定される。
平成２年４月　飯能市郷土館友の会が結成される。
平成２年４月　飯能市郷土館が開館する。(常勤職員は館長、学芸員1、主事補1)
平成２年４月　開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」・「わたしの宝物 ー思い出に残る品々ー」開催。
平成２年８月　特別展「戦時中のくらし」開催。(以後10月・2月にも特別展を開催し、1年で特別展を4回開催)
平成２年８月　夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年実施)
平成２年11月　古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され、現在も自主活動を続ける。
平成３年４月　特別展「能仁寺と黒田氏」開催。(10月にも特別展を開催し、以後平成10年秋まで春・秋の年2回の特別展開催となる)
平成３年７月　友の会主催による郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成４年８月　埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ！ 古代からのメッセージⅠ」を開催。(生涯学習課と共催で平成6年までは毎年、その後は隔年で開催)
平成４年10月　特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。(平成14年秋の「うちおり」展まで)
平成５年１月　友の会主催による「まゆ玉づくり」開催、以後平成22年1月まで毎年実施(それ以後は館主催事業)
平成５年６月　開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成６年３月　『飯能の昭和史年表』発行。
平成６年４月　開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で初めて特別展の図録をつくる。
平成６年10月　特別展「ジャパン・マイセン ー瀬戸の磁器人形ー」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展を除く)
平成７年７月　常勤職員が4人(館長、学芸員2、主事補1)となる。
平成８年５月　開館以来の入館者数が20万人を突破。
平成８年８月　常設展示等企画委員会が発足し、当館の改善点すべき点をまとめる。(任期は平成10年3月まで)
平成８年10月　特別展「飯能の刀匠 ー小沢正壽を中心としてー」開催。会期中に展示図録が完売する。
平成９年３月　『飯能市郷土館館報』第1号発行。
平成10年８月　恒例の「夏休み子ども歴史教室」を「夏休み親子歴史教室」と改称して実施。
平成10年９月　「中学校社会科研究展」開催。(以後毎年実施)

平成10年11月　市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。
平成10年12月　開館以来の入館者数が30万人を突破。
平成11年３月　収蔵品展開催。(これ以降、毎年春に収蔵品展、秋に特別展という枠組になる)
平成12年１月　第Ⅰ期市民学芸員養成講座開始。
平成12年３月　博物館法に基づく登録博物館となる。
平成13年２月　第Ⅱ期市民学芸員養成講座を実施。
平成13年３月　『研究紀要』第1号発行。
平成13年５月　「郷土館だより」創刊号発行。
平成13年９月　これまでの「中学校社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小中学校社会科研究展」として開催。
平成13年10月　特別展「黎明のとき ー飯能焼・原窯からの発信ー」開催。この特別展より夜間開館を実施する。
平成14年10月　当館ホームページをインターネット上で公開し始める。
平成15年３月　『収蔵資料目録1 写真資料目録その1』発行。
平成15年７月　市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。
平成15年８月　開館以来の入館者数が40万人を突破。
平成16年２月　第Ⅲ期市民学芸員養成講座実施。
平成16年10月　入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川 ーその流域の今昔ー」開催。
平成17年１月　名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を当館が引き継ぐ。
平成17年１月　常勤職員が5人(館長1、学芸員2、主査2)となる。
平成19年３月　当館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。
平成19年４月　常勤職員5人のうち、館長以外の職員すべてが学芸員有資格者となる。
平成19年４月　開館以来の入館者が50万人を突破する。
平成19年４月　第Ⅳ期市民学芸員養成講座実施。
平成19年６月　市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。(以後、平成23年まで7回開催)
平成20年３月　『名栗の民俗(下)』、『名栗の歴史(上)』を刊行。
平成20年４月　常勤職員が4人(館長、学芸員3)となる。
平成22年３月　『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。
平成22年５月　第Ⅴ期・Ⅵ期市民学芸員養成講座実施。
平成22年10月　飯能市埋蔵文化財保護行政30周年記念特別展「大地に刻まれた飯能の歴史 ー30年の発掘調査成果からー」開催。
平成22年11月　開館以来の入館者数が60万人を突破する。
平成23年４月　飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会を設置し、旧名栗村で収集した民俗資料の保存・活用について検討を始める。(平成25年3月まで)
平成23年10月　特別展飯能戦争「飯能炎上ー明治維新・激動の6日間ー」開催。会期中に展示図録が完売し、300部増刷する。(当館発行の刊行物の増刷は初めて)
平成24年４月　当館館長に初めて学芸員有資格者が就任する。
平成24年６月　史料集活用講座「地域を学ぶ・調べる・歩く」実施。(全3回)
平成25年10月　収蔵絵画216点を精明小学校内絵画保管室に移す。(計342点を同室で保管)

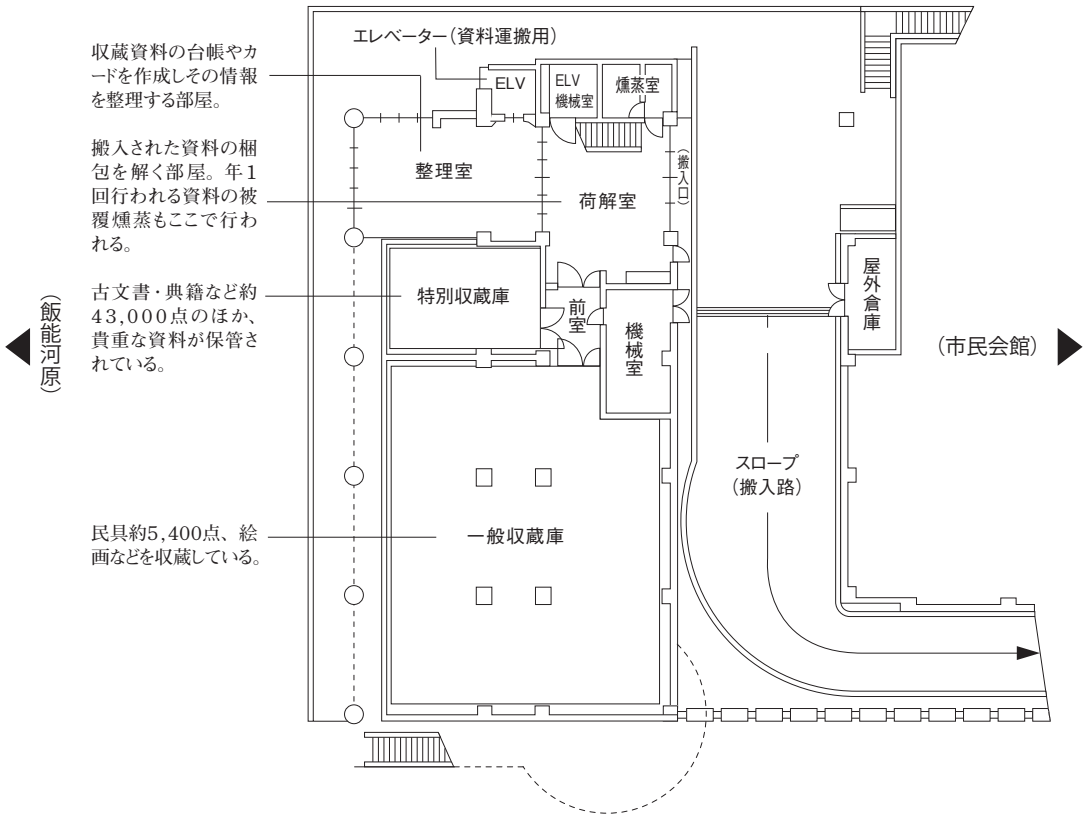
第１章

Chapter 1

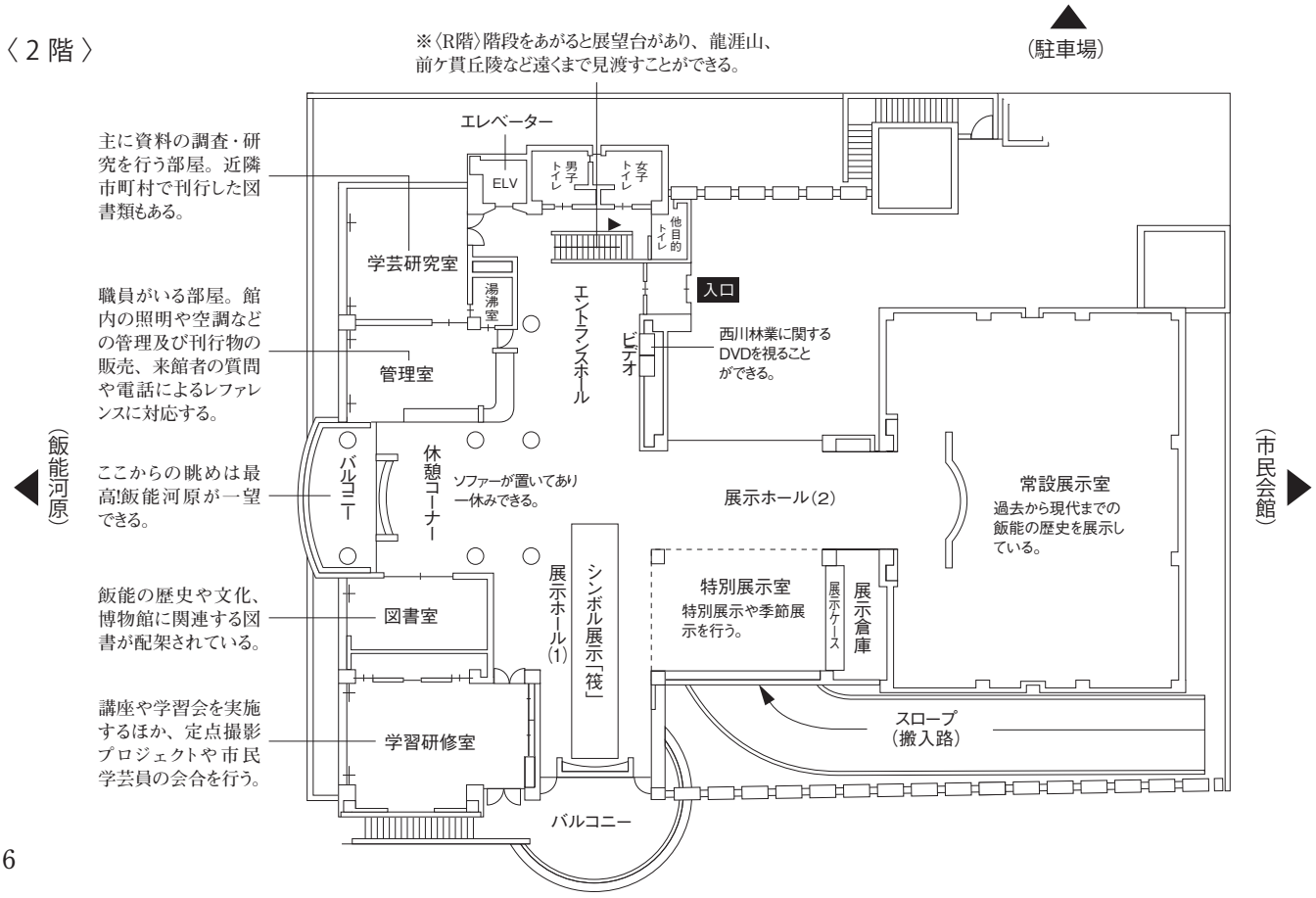
【施設】

建物平面図

〈1階〉


エレベーター（資料運搬用）
ELV
ELV 機械室
燻蒸室
整理室
荷解室
（搬入口）
特別収蔵庫
前室
機械室
屋外倉庫
（市民会館）
（飯能河原）
スロープ（搬入路）
一般収蔵庫
収蔵資料の台帳やカードを作成しその情報を整理する部屋。
搬入された資料の梱包を解く部屋。年1回行われる資料の被覆燻蒸もここで行われる。
古文書・典籍など約43,000点のほか、貴重な資料が保管されている。
民具約5,400点、絵画などを収蔵している。

〈2階〉


※〈R階〉階段をあがると展望台があり、龍涯山、前ケ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。
（駐車場）
エレベーター
ELV
男子トイレ
女子トイレ
他目的トイレ
学芸研究室
湯沸室
エントランスホール
入口
ビデオ
西川林業に関するDVDを視ることができる。
管理室
バルコニー
休憩コーナー
ソファーが置いてあり一休みできる。
展示ホール(2)
常設展示室
過去から現代までの飯能の歴史を展示している。
（飯能河原）
（市民会館）
展示ホール(1)
シンボル展示「筏」
特別展示室
特別展示や季節展示を行う。
展示ケース
展示倉庫
図書室
学習研修室
スロープ（搬入路）
バルコニー
主に資料の調査・研究を行う部屋。近隣市町村で刊行した図書類もある。
職員がいる部屋。館内の照明や空調などの管理及び刊行物の販売、来館者の質問や電話によるレファレンスに対応する。
ここからの眺めは最高!飯能河原が一望できる。
飯能の歴史や文化、博物館に関連する図書が配架されている。
講座や学習会を実施するほか、定点撮影プロジェクトや市民学芸員の会合を行う。

面 積 表

〈各階床面積一覧表〉

（単位：㎡）

室　　名	面　積
1　階	497.458
一般収蔵庫	256.094
機械室	24.375
前室	11.295
特別収蔵庫	47.205
荷解室	55.875
整理室	58.353
燻蒸室	11.424
エレベーター機械室	9.405
エレベーター	7.442
屋外倉庫	15.990
2　階	959.774
常設展示室	273.965
特別展示室	59.850
展示倉庫	20.675
展示ホール（1）	139.750
展示ホール（2）	88.128
エントランスホール	103.131
休憩コーナー	41.520
学習研修室	62.779
倉庫	10.464
図書室	28.101
管理室	38.558
風除室	7.360
湯沸室	7.848
学芸研究室	44.050
多目的トイレ	5.266
女子トイレ	10.468
男子トイレ	10.361
エレベーター	7.500
R階	40.040
階段	15.846
階段ホール	15.944
エレベーター	8.250
合　　計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用　　途	内　　訳	面　積（㎡）	割　合（%）
教育普及	展示（常設展示室・特別展示室・展示ホール）	561.693	37.5
	その他（学習研修室）	62.779	4.2
収集・保存	（一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室）	326.018	21.8
調査・研究	（学芸研究室・図書室・整理室）	130.504	8.7
管　　理	（管理室）	38.558	2.6
そ　の　他		377.72	25.2

敷地面積　3,626.12㎡　　建築面積　1,165.999㎡

施設等修繕

・駐車場看板修繕（6月）

・名栗民俗資料保管庫トイレ漏水修繕（8月）

・地下排水ピット内ポンプ取替（9月）

・展示ホール照明器具安定器取替（9月）

・収蔵庫錠前調整修繕（11月）

常設展示

常設展示には、展示ホール（1）に位置するシンボル展示「筏」と、常設展示室の展示がある。

常設展示室は、右図のように地形模型を中心に9つのテーマから構成され、飯能の歴史が旧石器時代から現代まで時代を追ってわかるようになっている。展示構成を検討する際の留意点については、当館館報第2号に掲載したのでそれを参照していただきたいが、特徴としては露出展示が多いことと、各コーナー全体の解説パネルがその時代に生きた人からの「語り」になっている点にある。

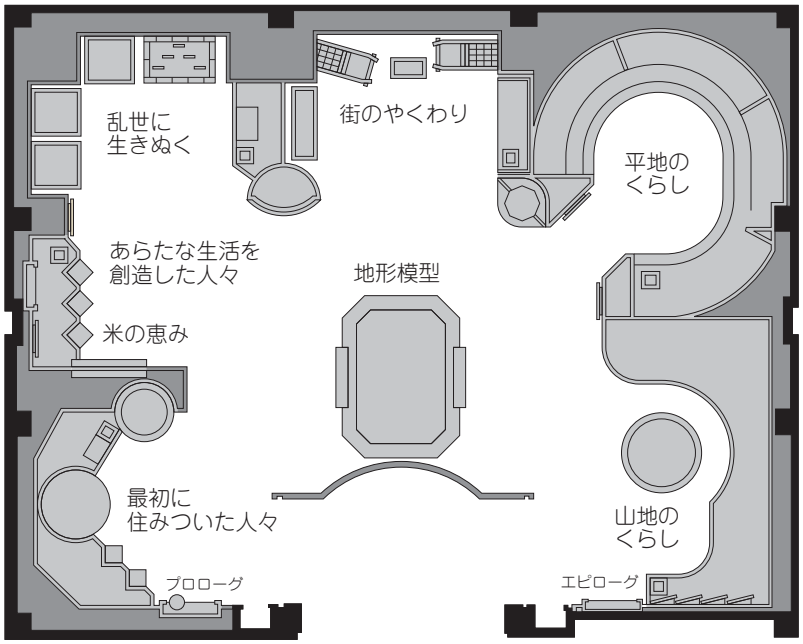
常設展示の課題であるが、内容からいえば、平成17年1月に旧名栗村と合併したにも関わらず、名栗村史編さん事業（平成21年度に完結）の成果が活かされていない点が挙げられる。

また、設備の面では以下の問題がでてきている。

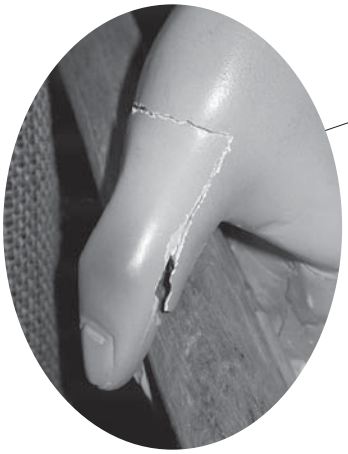
・床面のタイル敷カーペットの剥離（重量のある展示ケースを動かす際、一緒に動いてしまう）
・コルトン（内側から蛍光灯で照らしたパネル）の褪色
・展示台表面のクロスの汚れ
・地形模型の頻発するスイッチの故障と表面のひび割れ
・縄文人の皮膚の剥落

しかし、予算付けの前提となる第4次総合振興計画の実施計画では、常設展示室の展示替えは不採択が続いており、しばらくは改善の見込みがないのが現状である。

なお、前年度に引き続き平成25年度も常設展示資料の変更は行わなかった。



当館常設展示室平面図


「縄文人」左手指の劣化状態

子どもたちに人気の「縄文人」（通称:山の彦）

名栗くらしの展示室

1　開設の経緯

平成17年1月の名栗村との合併以後、元名栗村役場の建物とその中に収蔵された民俗資料が当館の管理下となった。しかし、名栗民俗資料室と名付けられたその建物は老朽化が著しく、資料を保存する環境としては劣悪の状態にあった。このため、西川広域森林組合より寄付された隣接する旧名栗村森林組合事務所の建物に資料を移動することとした。しかし、スペースの関係からすべての資料を保管することが困難であったため、保存すべき資料を選別すること、さらに保存した資料の活用方針を検討することを目的に平成23年4月1日に「飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会」(以下「検討委員会」という)を設置した。

検討委員会での結果に基づき、保存対象資料を決め、それらを旧名栗村森林組合事務所の建物に移動した。一方、多くの委員からは、展示するなどして資料を活用することを求める意見が出されていたが、適切な施設がなかった。このような中、平成24年6月11日に開催された検討委員会で、名栗地区行政センター(前名栗村庁舎)2階の名栗村史編さん事務室として古文書等を保管している部屋を半分に仕切って展示場所とし、2階ホール、ロビーも含めて展示する案が事務局より提示された。これが了承され、その後展示内容等の協議を行い、平成25年3月11日に開催された検討委員会で最終決定し、これをもって検討委員会を解散した。

その展示工事等は当該年度(平成25年度)に行われ、その名称は「名栗くらしの展示室」に決まった。なおオープンしたのは平成26年6月22日である。

2　展示構成

名栗くらしの展示室は、1階から2階に向かう階段部分の導入展示「名栗の風景」、2階ロビーに設置されたシンボル展示「西川林業」、名栗の歴史をパネルで紹介する「歴史の回廊」、元の名栗村史編さん事務室を半分に仕切った部屋に名栗の代表的な生業を紹介する「くらしの展示室」で構成されている。

「名栗の風景」は、階段の壁面に名栗地域の代表的な場所の古写真15枚をA2版サイズのパネルで展示した。

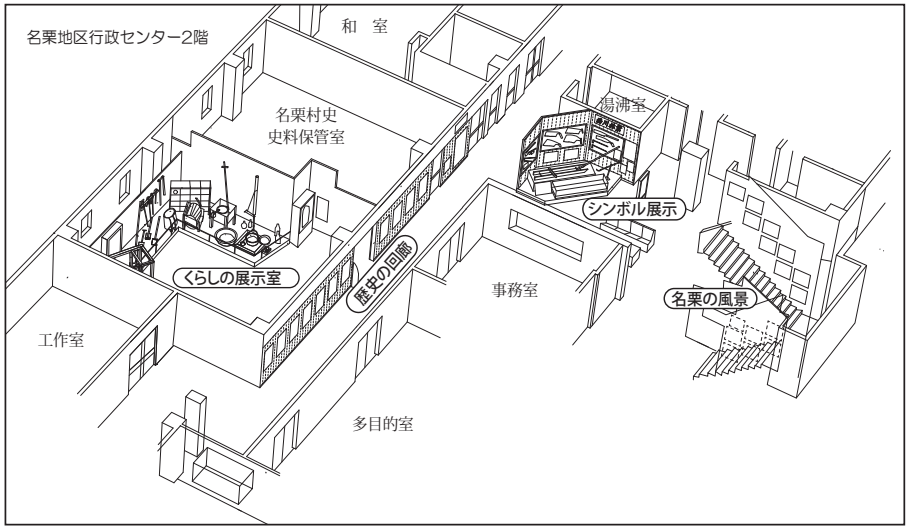
「西川林業」は幅3.7m×奥行1.7m、高さ20㎝のステージを設け、壁面は杉板張りとした。ここに、主産業だった林業の道具を「育林」、「伐採」、「搬出」、「加工」という一連の工程がわかるように展示した。

「歴史の回廊」は、廊下片側の壁を杉板貼りとし、原始・古代から飯能市との合併までの名栗の歴史を12枚のパネルで紹介した。

「くらしの展示室」は約60㎡の部屋で、壁際に幅1.0～1.6m、高さ20㎝のステージを巡らせ、シンボル展示の林業以外の主な生業であった「炭焼き」、「養蚕・機織り」、「麦づくり」のコーナーに分けて、主な道具を展示した。また、展示室入り口正面には市指定文化財である上名栗町田家阿弥陀三尊庚申講供養図像板碑をケースに入れて展示した。

3　展示室の設営

展示室の設営は、経費節減を図るため展示業者に一括で発注するのではなく、下記の3つに分けた。なお、展示室の整備は他のいくつかの事業とともに「名栗地区活性化戦略事業」として県の市町村による提案・実



名栗くらしの展示室配置図

２階ロビーに設置されたシンボル展示のステージ

施事業補助金を得て実施したものである。

①名栗くらしの展示室杉板貼等工事

実施期間　平成25年7月18日～ 9月10日

請 負 者　株式会社矢島工務店

請負代金　1,260,000円

実施内容　シンボル展示の壁面と展示ステージの設置、廊下壁面の杉板貼りおよびピクチャーレール取付。

②名栗くらしの展示室木製看板等製作委託

実施期間　平成25年9月3日～平成26年1月20日

請 負 者　社会福祉法人おぶすま福祉会

請負代金　220,500円

実施内容　立看板1基、案内板1基、掲示板1枚、コーナータイトル7枚（すべて木製）の製作。

③名栗くらしの展示室展示工事

実施期間　平成25年11月22日～平成26年2月28日

請 負 者　株式会社ムラヤマ

請負代金　4,935,000円

実施内容　「くらしの展示室」の部屋の仕切り、壁面内装、展示ステージ・展示ケース設置、照明設置。シンボル展示のソリ展示台・鋸等展示什器・展示ケースの設置、照明設置。階段部分のピクチャーレール取付。

4　展示資料の整備と設置

上記のように、業者が実施したのは、壁面の仕上げや展示台、展示ケースの設置、木製の案内板やタイトル板の製作であり、これらが完成し引き渡しを受けた段階では、解説パネルや展示資料は全く無い状態であった。展示資料の整備と設置、解説パネルの製作、設置はすべて職員の手によるものである。

資料の展示作業等は、展示工事終了後の平成26年3月から着手し、展示室開設の6月まで続いた。

5　高機の整備と体験講座の開催

「名栗くらしの展示室」は、展示を見るだけではなく、昔の道具を使用した体験を通して過去の生活を学べることを目指している。この1つとして高機は、実際に糸をかけて織れる状態で展示し、キャスターをつけた展示台ごと向かいの多目的室に移動して機織り体験ができるように整備した。この整備過程の一部を一般の人が体験、見学できるように、「はたおりを体験しませんか」という3回の連続講座を展示室のある名栗地区行政センターで開催した。

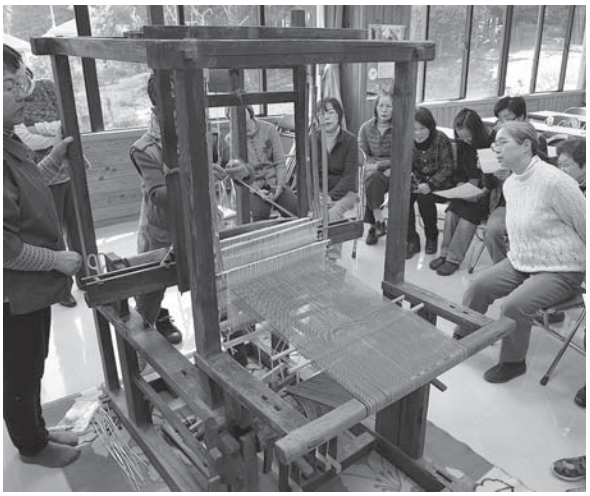
高機の整備と講座の講師は宮本八惠子氏（日本民具学会理事）に依頼し、その補助を小峰和子氏（織物作家）と大森美恵氏（入間市博物館野田双子織研究会会員）にお願いした。

講座開催前の準備として、平成25年12月3日から平成26年2月8日までのうちの5日間かけて、高機の修復、糸綜絖作り、整経、仮筬通しと機巻きなどを行った。

第1回目の講座は2月16日(日)に綜絖通しと筬通しの体験を予定していたが、前々日に降った大雪によって交通網が寸断されたため、中止とした。

第2回目は3月1日(土)に実施した。午前10時30分～12時には緯糸のクダ巻き体験を行い、18人が参加した。午後2時～4時には経糸の機掛け作業を公開し、27人が見学した。

第3回目は3月16日(日)午後2時～4時に機織りの体験を行い、16人が参加した。


講座「はたおりを体験しませんか」風景

第２章

Chapter 2

【事業】

飯能市郷土館この10年間の軌跡

1. はじめに

平成2年4月に開館した当館は、平成26年度に25年目を迎える。この節目の年に、現況を総括し、立ち位置を確認する必要があると考えた。現在の活動の枠組みは、平成15年度以降定着したものであるので、この10年ほどの歩みを中心に振り返ってみたい。

2. 活動の基礎が定まった平成10～11年度

平成2年4月に開館した際、当館が意識していたのは、市民に「郷土館」の存在を広く知ってもらうことであった。そのため特別展、企画展を数多く開催し、そのアピールに努めてきた。

開館した平成2年度は特別展を4回開催し、それ以降は毎年春と秋の年2回特別展を実施してきた。特に平成10年度春までは、市民が歴史や文化に身近に触れられる場としての当館の存在を知ってもらうため、飯能市域に関係がなくても集客力の高い内容のものも取り混ぜて開催した。

この時期、こうした事業展開を行いつつも目指していたのが、開館から続いていた展示重視の姿勢から、バランスの取れた博物館活動への移行と、収蔵資料の価値を高めることであった。前者は、調査研究活動の成果を公表する研究紀要と、資料整理の進展に支えられた収蔵資料目録に特徴づけられ、両書ともに現在に至るまで継続して発刊されている。

また、収蔵資料の質的充実は、平成9年度の市指定文化財「双木本家飯能焼コレクション」の取得とその後の継続した飯能焼の収集、市民にとっては親しみやすい写真資料の積極的な収集とその整理方法の確立、写真台紙の分析などを指している。平成19年3月の「飯能の西川材関係用具」の埼玉県有形民俗文化財の指定もその一例である。

そして、収蔵品展を春に、展示図録の発行を伴う特別展を秋に実施すること、収蔵資料目録と研究紀要を隔年で発行すること、交流事業としての定点撮影プロジェクト・市民学芸員制度の開始など、現在の当館の事業の枠組みもおおよそこの時期までに整えられた。当館が登録博物館になったのも平成12年3月のことであった。

3. 平成16年度から平成25年度までの10年間

①博物館をとりまく社会情勢の変化

しかし、この前後から、社会情勢の変化が博物館にも大きな影響を与えていく。少子高齢化による人口減少、成熟社会への移行、価値観や生活様式の多様化、地方分権社会の進展などがそれである。各地方自治体では、これに対処するため職員定数を削減し、事業評価をもとにした事業の再編・整理・統廃合をはかった。指定管理者制度の導入や外部委託を推進し、経費の節減をはかり、受益と負担の見直しが行われた。平成17年1月、飯能市と名栗村が合併したのはそのような時期であった。

②生き残るための運営方針

平成11年4月に就任した教育長の方針、平成14年の指定管理者制度の導入によって、当館は平成10年代前半、歴史博物館としての存続が危ぶまれる状況にあった。その必要性が認められなければ、予算付け、人員配置によって実質的な命脈が絶たれる可能性もあった。

そこで打ち出したのが、市役所内部に当館の存在意義を認めさせるための活動の展開である。「地域の情報センター」という看板を掲げ、平成11年に制定された文書管理規則に基づき歴史的に価値のある行政文書の収集を本格的に開始した。

特に意識したのが、市の職員に当館を利用してもらうことである。このためには、地域に関する資料や情報を収集、整備し、いつでも提供できるようになっていなければならない。「地域のことは郷土館に聞けばわかる!」と言われることをめざしたのである。その意識を定着させるために、庁内他課・所からの依頼は、例え時間が迫っていても、また少々無理があるものでも依頼されたら断らない、という姿勢を貫くこととした。本号で初めて掲載した「事業支援」(62p)は、こういった活動を指している。

③事業の展開

このような運営方針のなかで実施してきた事業のうち、特徴的な点について整理していきたい。

●特別展のテーマ選定

特別展が年１回となったことと専門職員の配置が進んだことから、資料研究の成果といえるような内容のものが提供できるようになってきた。特に近年のテーマは、地域の新たな歴史像の掘り起こしや、地域課題の解決につながることを意識して選ばれている。

例えば、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発の事故は、エネルギーを再生可能な方法によって地元で産み出し地元で使うことへの意識を人々に呼び覚ました。平成17年度の特別展「飯能の水力発電」は、かくれた地域資源に光をあてようとしたものだが、結果的にその関心に応えるものとなっていた。

また平成17年4月に本市は「森林文化都市」を宣言したが、19年度の特別展「西川林業の道具」では、西川材の生産用具を通して見た「森林文化」を提示した。さらに平成24年度の「山上の霊地」では、当市にある4つの山岳信仰の寺院を紹介し地域を見直すきっかけを示し、翌25年度の「飯能方面湖水の如し」では地域の災害史をとりあげ、市民の防災意識が高まることをめざした。

●市民学芸員活動の充実

平成11年度に開始された当館の特徴的な事業の一つで、この10年間で第Ⅲ期～第Ⅵ期の4回にわたり養成講座を実施した(詳細は34ページ参照)。市民学芸員は、本務学芸員の補助的な役割を担うのではなく、学習活動の一環として職員とは全く別の、市民学芸員だけができる領域で力を発揮していただくものである。課題はあるものの、活動分野も増えて多少なりとも充実させることができた。

●新たな成果指標の提示

行政改革に係る事業評価では、数値化したデータが極力求められる。その中で一番多く使われるのが入館者数であるが、この数字は当館の利用者の一部を表しているに過ぎない。そこでそれとは別の指標を設定し、提示することとした。

例えばレファレンス対応件数では、訊かれた内容のみならず、その手段（電話、窓口での口頭、電子メール）やそれにかかった時間なども記録し、その作業量の可視化を試みた。また、出張授業や出前講座は、当館の入館者数にはカウントされないが、その受講者は当館の利用者と考えてよい。そしてホームページのアクセス数なども合わせて「利用者数」として平成22年度分から公表するようにした。

●名栗村史編さん事業への対応

平成17年1月の名栗村との合併に伴い、名栗村史編さん事業を当館が所管することとなった。昭和62年度に完結した『飯能市史』編さん事業以来、実に17年ぶりの取り組みとなった。この事業の進展は、旧名栗村以外の飯能市域の歴史像を豊かにしただけでなく、その執筆を担当した研究者とのやりとりは、専門を超えてその研究方法の理解や史料操作の仕方の点で得るものが多かった。

なお、この10年間の運営は決して楽なものではなかった。感覚的には業務の総体量は恐らく開館当初の2倍を超えるであろう。それを乗り切りここまで生き残ることができたのは職員の意識と経験の蓄積が大きい。

開館当初は、博物館としてのノウハウも経験もなく、質よりも量をこなすだけであった。その後、歴史・民俗・考古を専門とする職員が配置され、学芸員として長く勤務することで経験を蓄積させていった。今日あるのは、それを共有化していくことによって、地方自治体が直営する歴史博物館としての対応能力を高めていった結果であることも見過ごしてはならない。

４.今後に向けて

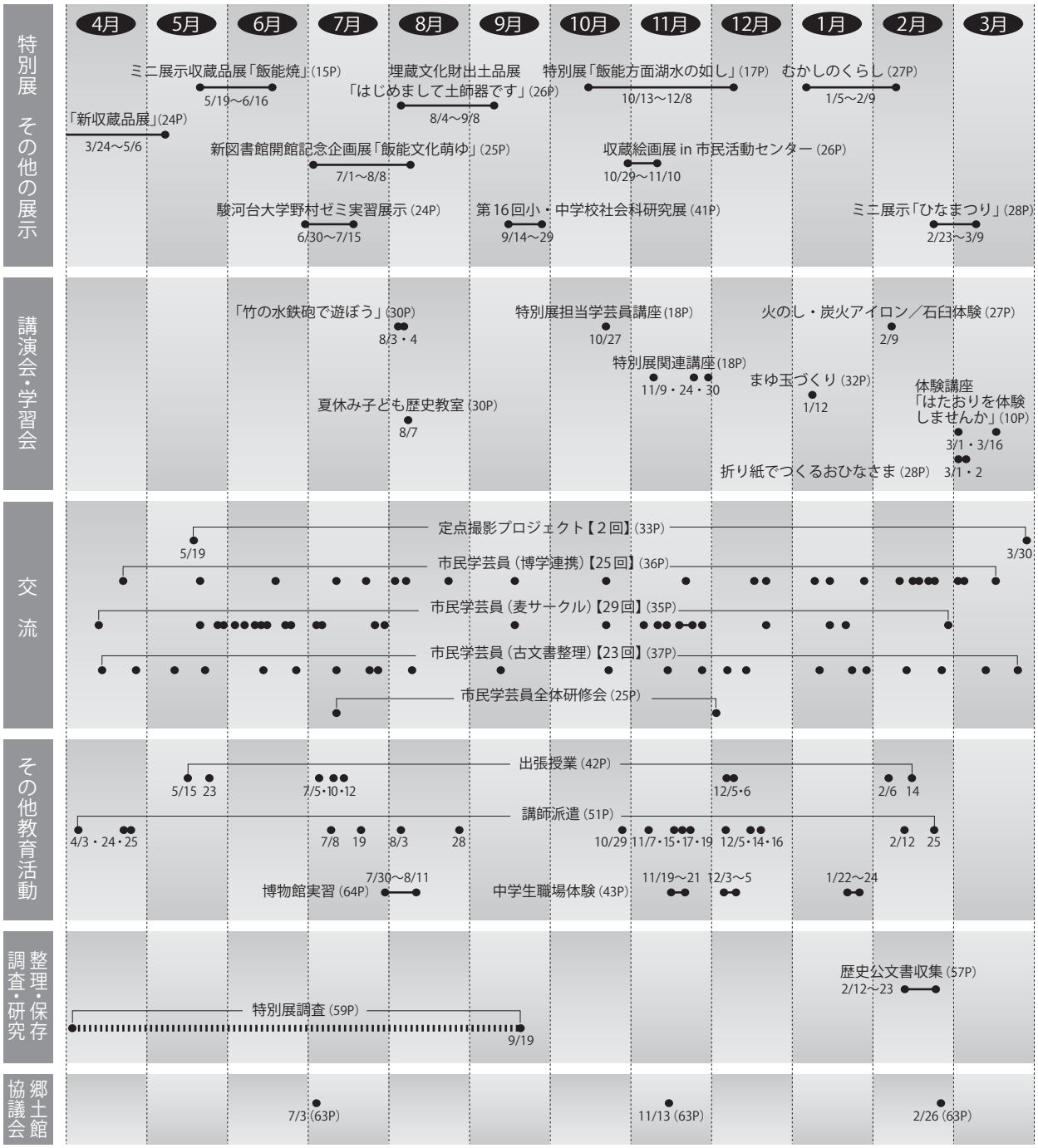
文部科学省は平成26年、国立大学の人文・社会科学系の学部などの廃止や転換を促す通達を出した。その背景には大学でも実践的な職業教育が行われるべきとの意見の強まりがある。歴史学が実学たりうるかは、地域の歴史を知ることがまちづくりや地域への愛着を高めることにつながるかどうかとパラレルの問題であり、ひいては地域の歴史博物館の存在意義の有無に行き着く。今、施設の存続を判断する際、管理コストが重視される傾向が強く、当館の存在意義をさらに確固たるものとしていくためには、現在の事業の枠組みで良いのかどうか検討する必要がある。

また、本市では、郷土史研究会など歴史学習サークルが消えつつある。地域の歴史に関心を持つ人たちは増えているようには見えず、市民学芸員制度は、それに代わって当館自らがそういう人々を育成しているともいえる。ただそれでは広がりに限界があり、どのようにしたら博物館が地域の歴史に関心をもつ人たちの集う場になりうるのかも、重要な課題となっていくであろう。

平成25年度の事業

平成25（2013）年度は、平成21年度以来4年ぶりに新収蔵品展と収蔵品展を分けて開催した。これは、平成11年度からほぼ毎年開催していた定点撮影プロジェクト写真展を当該年度実施しなかったことと関係がある。当館としては、経営的な観点から特別展示室が閉まっている期間をできるだけ少なくしたかったので、収蔵品展を独立させて後ろにずらしたわけである。

特別展は、東日本大震災以降、地域の災害の歴史を知ることが減災につながるとの認識が人々の間で広がっていることをふまえ、飯能市域の災害史をテーマとして取り上げた。また、館外における展示として、当該年度の7月1日に開館した新図書館で企画展「飯能文化萌ゆ」を、また丸広百貨店飯能店の7階にある市民活動センターを会場として収蔵絵画展を行った。教育活動では、次年度（平成26年度）の名栗くらしの展示室のオープンを控え、名栗地区行政センターで体験講座「はたおりを体験しませんか」を実施した。



収蔵品展

飯能焼

期　　間	平成25年5月19日(日)～ 6月16日(日)
開館日数	25日間
入館者数	2,142人(1日平均85.7人)
展示点数	44点
総 経 費	69,450円(入館者1人あたり32.4円)
(内　訳)	消耗品費　51,000　賃　金　18,450

1　趣　旨

収蔵品展は、毎年特定のテーマを設定し、当館に収蔵している資料を紹介する展示である。今回は飯能焼をテーマとし開催した。

当館で収蔵している飯能焼の主体を成すのは、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションである。また、骨董品として市場に出たものについても、可能な限り購入し収集してきた。これらは伝世品で保存状態も良く、古美術品としての価値も併せ持つものである。それらの中から、発掘調査の成果と照らし合わせ飯能焼であることが疑いないものを中心に展示した。

色味が地味で素朴な陶器である飯能焼だが、展示にあたっては、その深い緑と白いイッチン描きの美しさが伝わるように、“美しく見える”展示を心がけた。

2　展示の構成

展示構成は、器種ごとに分けて1から10までのコーナーを設定した。次のとおりである。

1：壺、2：小皿(卸皿を含む)、3：小鉢、4：合子蓋、5：徳利、6：小水注、7：土瓶、8：蒸器、9：花生、10：原窯出土資料で確認されていないもの(青首徳利・草葉文水注・蘭引)。

1から9については、収蔵品中より飯能焼で間違いないと考えられるものを選び、展示した。

10については器種ではなく、発掘調査では出土していないが、陶工自身の証言があるもの、あるいは出土品と特徴が一致するもの、逆に出土品に見られず疑義が生じたものを展示した。

10のうち、青首徳利は陶工自身が自作であると証言したもので、草葉文水注は出土品と特徴が一致するものである。蘭引については、従来、飯能焼と考えられていたが、発掘調査の成果から疑義が生じたものである。これらを展示したのは、飯能焼研究の現状に少し触れておく必要を感じたためである。

3　印刷物

ポスター(B2判カラー)	34枚
ちらし(A4版白黒)	240枚
リーフレット(A4判白黒2ページ)	350枚

4　評　価

初めに担当者の自己評価から述べる。反省点としては展示資料の選別に手間どってしまい、その結果、解説

飯能焼･瓢箪文徳利

文に盛り込んだ情報量が不十分なものとなってしまったことが挙げられる。主に発掘調査の成果に関し、考古学的な研究により判明したことを解説文の中に盛り込むことが多かったのだが、基本的事項の説明をもう少し丁寧にすべきであった。

次に、アンケートの評価を見てみたい。ただアンケート回答者数は31人で、展示期間中の来館者の1.5%にも満たない。集約したデータの有用性については心許なく、あくまで参考として挙げておく。

回答者は、50代以上が過半数を占め、性別では男性がやや多いが、これは当館における展示会の一般的傾向といえる。また、広報メディアを見て来たというよりは、「たまたま」入館した人が最も多く、これは、ポスター・ちらしの掲示、配布枚数が限定的だったことを考えると当然のように思われる。

展示内容の評価についてだが、「よかった」が80.7%、「ふつう」が19.3%であった。

気になるのが自由筆記による感想で、2人の方が“作品数が少ない”と書いていた。実際には展示可能な資料の95%を展示していたのだが、“もっとあるはずだ”、と思われたようだ。また、「破片なども展示して欲しかった」という人もいた。

一方で、器形や色合い、文様の美しさに言及される方が複数おり、“美しく見える”展示を目指した担当学芸員の意図が多少なりとも伝わったことを示しているのかもしれない。

以上から、本展示会については、“やや物足りない面もあるが、双木本家飯能焼コレクションを主とした飯能焼を見学できる機会として、最低限目的は果たした”とまとめられようか。

物足りなかったのは、おそらく展示全体のヴォリューム感であろう。展示点数は限りがあるため仕方がないとして、それぞれの資料について、もう少し詳細な解説が求められていたように推測する。ただ、“美しく見える”展示、つまり古美術品としての飯能焼にクローズアップするのであれば、個々の展示資料の古美術品としての位置づけについて言及されている必要があろう。しかしながら担当学芸員の扱える情報は現時点では考古学の研究成果のみである。展示の趣旨と合致した解説の作成が必ずしも出来ていなかったように思う。

作り手としては、少しばかり飯能焼の“良さ”に寄りかかってしまった展示であったかも、と反省する次第である。

○収蔵品展「飯能焼」展示資料目録

番号	資　料　名	資料番号	番号	資　料　名	資料番号
1	梅樹文壺	NT－69	23	瓢箪文徳利	NT－120
2	卸皿	NT－59	24	屋号入徳利（「丸屋」）	NT－124
3	氷梅文小皿	NT－53	25	菊花文徳利	NT－107
4	氷梅文小皿	MYO－２	26	屋号入徳利（「双本」）	NT－112
5	麦文小皿	NT－54	27	瓢箪文徳利	NT－99
6	町名入小皿（「原町」）	NT－55	28	屋号入徳利（「しまたや」）	NT－117
7	秋草文小皿	NT－56	29	瓢箪文徳利	NT－106
8	町名入小皿（「原町」）	NT－57	30	松樹文徳利	NT－100
9	麦文小皿	1998－４	31	梅花文徳利	NT－65
10	麦文小皿	1998－２	32	屋号入徳利（「市川」）	NT－68
11	麦文小皿	1998－３	33	氷梅文徳利	NT－71
12	麦文小皿	1998－５	34	小梅散らし文小水注	NT－63
13	麦文小皿	1998－1	35	梅花文小水注	NT－134
14	木草文八輪花小鉢	NT－149	36	小梅散らし文小水注	NT－95
15	松笹文八輪花小鉢	C－33	37	羽箒・五徳・火箸文土瓶	NT－37
16	桃形小鉢	NT－138	38	梅文蒸器	NT－128
17	瓢形小鉢	NT－133	39	露草文蒸器	C－６
18	波千鳥文片口小鉢	NT－137	40	花生	NT－90
19	蓋	NT－145	41	花生	NT－127
20	蓋	NT－148	42	青首徳利	Ｉ－2
21	紅葉文蓋	NT－147	43	草葉文水注	KYO－2
22	蓋（「すミよし町　□ふじの雪　［まつ本仕入］」）	NT－146	44	蘭引	NT－157

※ 番号に網掛けしてある資料は、市指定文化財双木本家飯能焼コレクション

特別展

飯能方面湖水の如し　―失われる災害の記録―

期　　間	平成25年10月13日(日)～12月8日(日)			
開館日数	49日間			
入館者数	5,860人(1日平均119.6人)			
展示点数	50点			
総 経 費	1,639,719円(入館者1人あたり279.8円)			
(内　訳)	印 刷 費 617,400	写真関係費 95,870	展示委託料 270,110	通信運搬費 237,935
	消耗品費 28,899	報 償 費 131,000	賃　　金 156,120	図 書 費 12,915
	旅　　費 52,480	通 行 料 36,990		

1　趣　旨

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、津波、地盤の液状化、建造物倒壊そして福島第一原子力発電所事故の発生など、東北地方を中心とする東日本に大きな被害をもたらし、多くの尊い命が失われた。このような大きな犠牲を2度と出さないようにするためには、まず自然災害への十分な備えが必要であることは誰も疑いのないところであろう。

その一方で、例えば古くからある寺社が津波に流されなかったことや、昭和8年の三陸津波の経験から高台に避難した地区は被災しなかった事例など、過去の災害の経験を活かすことが防災、減災につながることが明らかとなってきた。

本市域においては津波被害の危険性はないものの、過去には多数の死者を出した土砂災害や、田畑を水没させ住家を流失させた洪水などがしばしば起きていた。治水や治山事業の成果によって甚大な被害をもたらす災害はかなり減ってきているが、一方で気象庁は平成25年8月に警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波などが予想される場合に発表する「特別警報」の運用を開始するなど、かつて起きたような大災害が起こりうる可能性が高まっている。

本展示では、地域に残る災害の記憶や石碑、古文書などの記録から過去の災害を掘り起こすことによって、身近な地域で起こりうる災害の可能性を知り、市民の防災意識を高めてもらうことを目的とする。

2　展示の構成

Ⅰ　飯能市域の災害記録

これまで飯能市域で起こった様々な災害を伝える記録や石碑などを実物資料や写真で紹介した。また、本展示の前に各自治会に協力を依頼して行った「地域における災害の記憶調査」の回答を一覧にして展示した。

Ⅱ　飯能市域の災害史

近世以降、飯能市とその周辺では、大雨によって山間地では土砂災害、中流域では洪水がしばしば起

展示風景　入口部分

Ⅱ 飯能市域の災害史(関東大震災)

こっていた。このうちその被害の状況がわかるものを史料や図などで説明した。また、平成11年8月の吾野駅南側斜面崩壊の際の、地域住民の対応や平成23年の東北地方太平洋沖地震の際の本市の状況などについてもパネルで紹介した。

Ⅲ　飯能方面湖水の如し ー明治43年の大水ー

明治43（1910）年8月の大雨は、現在の市内大字南や上名栗の穴沢、湯ノ沢などで土石流をひきおこし、40人以上の死者が出た。その具体的な被害状況について写真資料や地図で解説した。また、今回の調査で見つかった当時の吾野村収入役浅見丹治による「明治四十三年之水害草稿」は、南で起きた土石流が高麗川を閉塞し、それが逆流して坂石町分を冠水させた状況を具体的に記録しており、被害の実態が明らかとなった。この内容をわかりやすく紹介するため、御茶の水美術専門学校3年の橋本のぞみ氏に8枚のイラストを描いてもらい展示するとともに、地元聖望学園高校放送部に依頼し、イラストと写真にナレーションを付けた映像を製作し会場で放映した。

Ⅲ 飯能方面湖水の如し ー 明治43年の大水 ー

Ⅳ　災害に備える　ー防災から減災へー

現在の飯能市における自然災害への備えについて具体的に知ってもらうため、実際に明治43年の水害が現代に発生した場合を想定して、取られる災害対応について本市危機管理室に回答してもらい、それをパネルで紹介した。また非常用持出品や間仕切り、トイレ用テントなど避難所設備用備品などを展示した。

Ⅴ　災害記憶の風化を留める

東日本大震災以降の、災害記憶を未来に伝えていくための様々な取り組みのうち、東日本大震災被災地における災害遺構の保存をめぐる問題を中心にとりあげ、その風化を防ぐための手段をパネルなどで紹介した。

「ドキュメント飯能方面湖水の如し」の展示

3　印刷物

ポスター	（B2判カラー）	300枚
チ ラ シ	（A4判カラー2ページ）	8,000枚
展示図録	（A4判カラー 56ページ）	800部

4　関連事業

◎担当学芸員講座

「飯能方面湖水の如し ー明治43年の“大水”ー」

日　時　10月27日（日）　午後2時～4時
講　師　尾崎泰弘（当館学芸員）
会　場　当館学習研修室
参加者　34人

◎関連講座

①「立川断層と地震」
日　時　11月9日（土）　午後2時～4時
講　師　山崎晴雄氏（首都大学東京大学院教授）
会　場　市立図書館多目的ホール
参加者　69人

②「津波常習地の生活文化」
日　時　11月24日（日）午後2時～4時

期間中の会場の様子

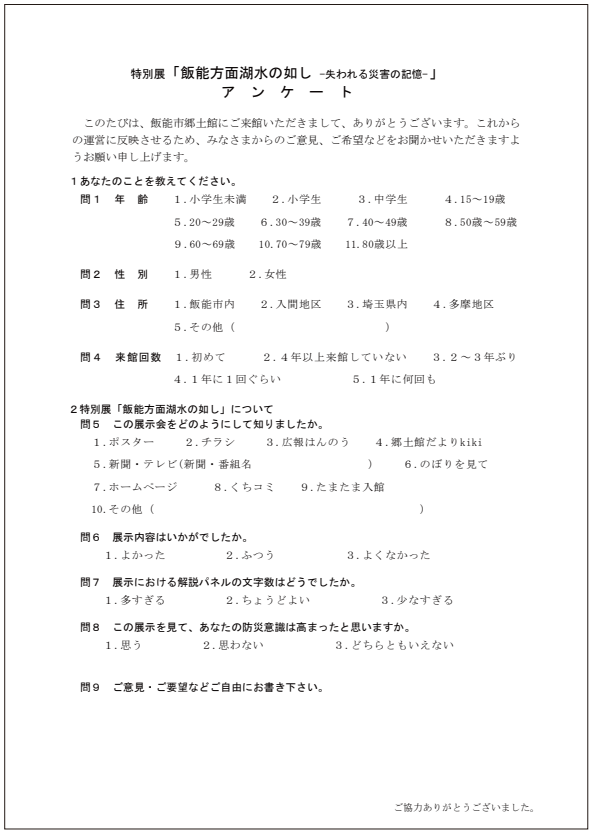
関連講座①「立川断層と地震」　山崎晴雄氏

講　師　川島秀一氏（東北大学災害科学国際研究所教授）
会　場　当館学習研修室
参加者　25人

③「災害から学ぶ危機管理」
日　時　11月30日（土）午後2時～午後4時
講　師　池田吉男氏（多賀城市市街地整備課参事）
会　場　当館学習研修室
参加者　21人

5　アンケート集計結果

当館では、展示会の会場の一部にアンケートコーナーを設置して、その集計結果を展示に対する自己評価の材料とするとともに、今後の改善に活かすことにしている。アンケートの記入率は平均的に2%ほどで、来館者の評価とするには十分な数字とはいえないものの、当館で行っている唯一の特別展に対する評価指標であり、また来館者像の概要をつかむこともできるため、その結果を今回、初めて公表することとした。



特別展「飯能方面湖水の如し -失われる災害の記憶-」
アンケート

このたびは、飯能市郷土館にご来館いただきまして、ありがとうございます。これからの運営に反映させるため、みなさまからのご意見、ご希望などをお聞かせいただきますようお願い申し上げます。

1 あなたのことを教えてください。

問1　年　齢　1.小学生未満　2.小学生　3.中学生　4.15～19歳　5.20～29歳　6.30～39歳　7.40～49歳　8.50歳～59歳　9.60～69歳　10.70～79歳　11.80歳以上

問2　性　別　1.男性　2.女性

問3　住　所　1.飯能市内　2.入間地区　3.埼玉県内　4.多摩地区　5.その他（　　）

問4　来館回数　1.初めて　2.4年以上来館していない　3.2～3年ぶり　4.1年に1回ぐらい　5.1年に何回も

2 特別展「飯能方面湖水の如し」について

問5　この展示会をどのようにして知りましたか。
1.ポスター　2.チラシ　3.広報はんのう　4.郷土館だよりkiki　5.新聞・テレビ（新聞・番組名　　）　6.のぼりを見て　7.ホームページ　8.くちコミ　9.たまたま入館　10.その他（　　）

問6　展示内容はいかがでしたか。
1.よかった　2.ふつう　3.よくなかった

問7　展示における解説パネルの文字数はどうでしたか。
1.多すぎる　2.ちょうどよい　3.少なすぎる

問8　この展示を見て、あなたの防災意識は高まったと思いますか。
1.思う　2.思わない　3.どちらともいえない

問9　ご意見・ご要望などご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

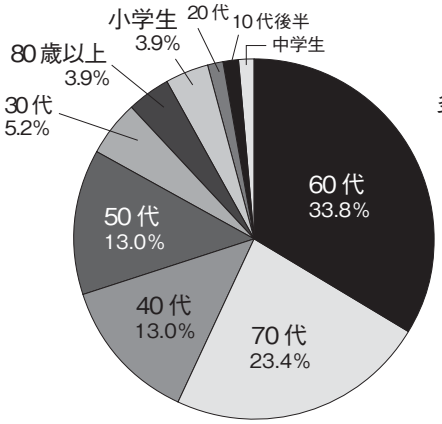
本展示で行ったアンケートの内容は上に掲げた通りである。回答数は77通でありこれは入館者の1.3%にあたる。例年の特別展と比べると記入率は低いが、アンケートの自由記入欄へ書き込んだ人の比率が75%を超えた。通常では50%ほどなので極めて高く、展示が来館者へ与えたインパクトの強さを感じることができた。

①入館者について

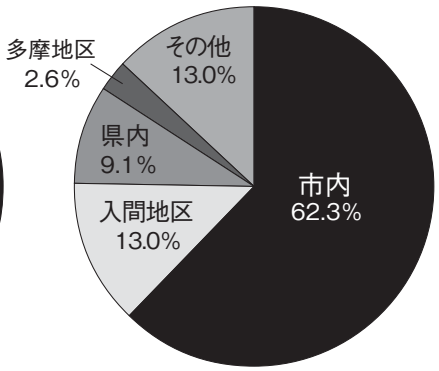
【年代】①−1

来館者を年代別に見てみると、60歳以上が半

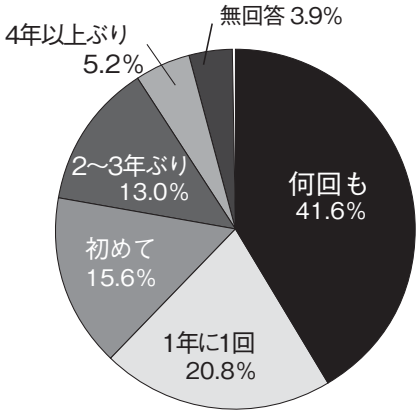
①−1 来館者の年代



①−2 来館者の居住地



①−3 来館の頻度



数を超え、20代から40代までの若い層は10%未満であるのが通常である。しかし、本展示の場合、60歳以上が6割を超えていると同時に、40歳代が13%とやや高いのが特徴である。期間中、展示室の様子を時々観察し、今回は30～ 40歳くらいの比較的若い世代が多いような印象をもったが、あながち間違っていないことが裏付けられた。

【男女比】

男女比は、どの特別展でも変わりなく男性6割、女性4割である。今回も同様の結果が出た。

【居住地】①－2

当館の場合、来館者の半数以上が市内在住である。本展示ではそれが6割を超えたが、本市周辺にあたる入間地区の比率がやや高いため、本市とその周囲から来た方で75%に達した。これはこれまでに見られない高い値といえるが、自然災害はその被害や影響が広域にわたる場合が多いのでこのような結果になったと思われる。

【来館の頻度】①－3

当館に来館する人の4割は1年に何回もおいでいただくいわゆる「リピーター」の方である。一方、初めて訪れた人は通常30%前後であるが、今回は15.6%と低かった。このことは、市内や近隣からの比率が高かったことと関係があると思われる。また、紙幅からデータは提示できないが市内在住者に限れば、リピーターは7割であるのに対し初めて来館した方は2%に過ぎず、市民の間では当館を訪れる層は固定している状況がうかがえる。

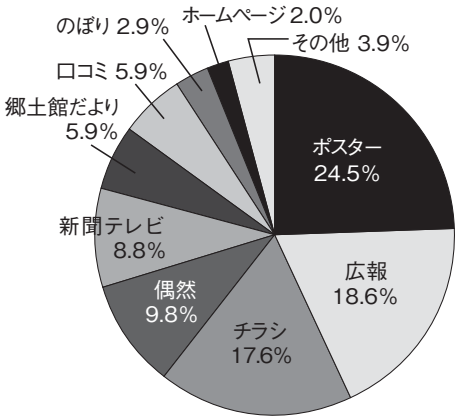
②展示について

【展示を知ったメディア】②－1

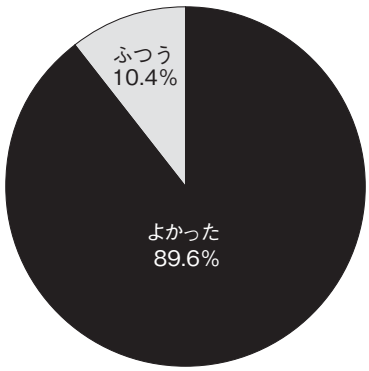
特別展「飯能方面湖水の如し」ポスター

分析結果を記す前に、本展示で行った広報活動について触れておく。今回は例年の特別展と同様、広報はんのう（自治会加入のすべての世帯に配付）の10月1日号に掲載したほか、ポスターを市内公共施設、商店街、県内博物館などに300枚配付した。また、チラシは公共施設のほか、「埼玉B級ご当地グルメ王決定戦」（10/13）やはんのう生活祭（11/16）などのイベントで当館職員や市民学芸員が手渡しをしたのに加え、駿河台大学と本市との共催事業である

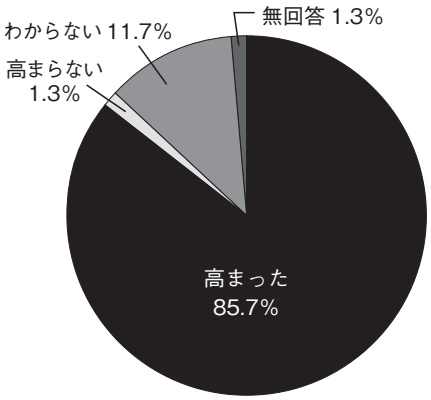
②－1 展示を知ったメディア



②－2 展示の評価



②－3 防災意識



「彩ふるさと喜楽学」などで合わせて約8,000枚を配付した。マスコミでは、東京新聞（10/19）、埼玉新聞（11/5）、朝日新聞(11/13)に記事が掲載された。

アンケートを集計すると、ポスターが25%、チラシが20%弱という比率でこれはこれまでの特別展と同様である。これを市内在住者に限って見てみると、ポスターが30%、広報はんのうが26%、チラシが16.4%となり、この3つで75%を占め、市民向けにはこれらが効果的なメディアであるということができる。

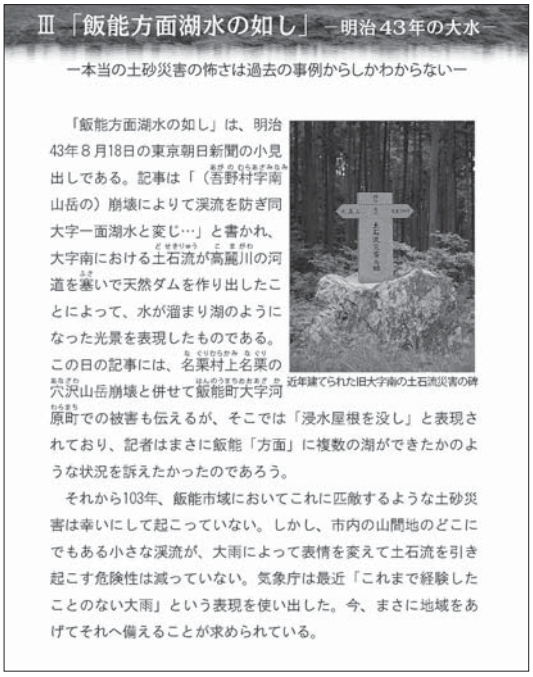
【展示の評価】②－2

展示については、「よかった」、「ふつう」、「よくなかった」の3段階の評価から選ぶようになっているが、今回は9割近くが「よかった」と回答し、これまでの特別展と比べ（通常8割ほど）高いことがわかった。これは、東日本大震災以降の、人々の災害に対する意識が高まっていることに加え、本展示が始まって間もない10月17日に伊豆大島で土石流が発生し、甚大な被害が出たことでより切実な問題としてとらえられたためと思われる。

【文字数】

今回、解説の文字数についても訊ねてみた。本展示では展示資料のキャプションは60字前後、コーナー解説が500～600字ほどになっているが、木下周一著『ミュージアムの学びをデザインする』（ぎょうせい・2009年）によると、展示解説は200字前後、資料名キャプションは30～60字程度が適当とされる。ただ、コーナー全体の概要やそれを理解するためのバックグラウンドを説明するのに200字に収めるのはかなり難しいので、この解説の長さが許容できるのかどうかを訊きたいと思ったのがこの設問であった。しかし、この問い方ではどちらを対象としているのかがわからず、設問自体が不適切であった

聖望学園放送部制作のDVDを放映するモニター



Ⅲ「飯能方面湖水の如し」－明治43年の大水－

－本当の土砂災害の怖さは過去の事例からしかわからない－

「飯能方面湖水の如し」は、明治43年8月18日の東京朝日新聞の小見出しである。記事は「（菅野村字南山岳の）崩壊によりて渓流を防ぎ同大字一面湖水と変じ…」と書かれ、大字南における土石流が高麗川の河道を塞いで天然ダムを作り出したことによって、水が溜まり湖のようになった光景を表現したものである。この日の記事には、名栗村上名栗の穴沢山岳崩壊と併せて飯能町大字河原町での被害も伝えるが、そこでは「浸水屋根を没し」と表現されており、記者はまさに飯能「方面」に複数の湖ができたかのような状況を訴えたかったのであろう。

それから103年、飯能市域においてこれに匹敵するような土砂災害は幸いにして起こっていない。しかし、市内の山間地のどこにでもある小さな渓流が、大雨によって表情を変えて土石流を引き起こす危険性は減っていない。気象庁は最近「これまで経験したことのない大雨」という表現を使い出した。今、まさに地域をあげてそれへ備えることが求められている。

近年建てられた旧大字南の土石流災害の碑

Ⅲ章全体の概要を記したパネル

たと認めざるを得ない。回答の9割が「ちょうどよい」との評価であったが、ほとんど意味のないデータになってしまい深く反省するものである。

【防災意識】②－3

本展示会の目的が市民の防災意識を高めることが目的であったため、この問いを設けた。85%が「高まった」と回答し、展示会の趣旨は理解していただけたものと考えたい。このことは自由意見欄への記述の多さにも反映されていると思われる。

(3) 自由意見

先述のとおり、アンケートの75%に自由意見欄に記入があった。このうちまずは展示に対する批判から紹介したい。

・文書だけでなく何かしら現物を見たかった。山崩れの地形、平野部の浸水状況などジオラマがあるともっとわかりやすかった。絵だけでは切迫感がない（60歳代男）。
・ビデオ以外の他の展示は、土地勘がない人にもわかるように模型を使うなどもう少し工夫がほしかった（50歳代女）。
・解説は読めない字が多かった（60歳代女）。

上の2つは単純化してしまえば予算、人員に関わる問題である。館内でもジオラマ製作の意見もなかったわけではないが、それにかけられる時間的余裕がなか

った。特にその正確性については十分な検討が必要であり、不可能であると判断した。「読めない字が多かった」という指摘は、パネルやキャプションのルビが十分ではなかったということであり、次回に活かしていきたい。

次に展示の内容に関する意見には以下のようなものがあった。

・タイムリーな企画で大変良かった（60歳代男）。
・ビデオにまとめたのがわかりやすくよかった。（中略）
・市内の学校で定期的にDVDを見せるなど今後も活用してほしい。

DVDについては他にも評価する意見が3件寄せられた。

本展示会の目的に関わる記述を紹介してみたい。

・近年の災害の状況をふまえると、どの街にも自然災害は起こりうるものとして構える必要がある。教育、啓発、訓練が一帯となって市民全体に拡がってほしい（40歳代男）。
・かつて家の近くでも水害があり、神社等が流出したことを今回初めて知りました。とても参考になる企画です（30歳代男）。
・吾野の平成11年の災害の時はよく覚えている。今日はそれよりももっと明治など過去の災害があったことをポスターで知り、来館した（30歳代女）。
・先人の記録は後世へのメッセージ、定期的に開催していただくことを望む。防災意識を風化させないためにも（40歳代男）。

展示を見に来るような方々は防災意識が元々高い人であると考えられる。それでも過去の災害を知ることで防災意識が高まることや、そのための記録が重要であるとの認識が生まれていることがわかる。災害に強いと思われている飯能市域も歴史的に見ればこれまで多くの自然災害にさらされてきており、そのことの理解は進んだようである。

6　評　価

展示に対する自己評価をまとめる前に関連講座の課題について触れておきたい。特別展の付帯事業では、通常事前に参加申込を受け付けるのが普通である。それは参加希望者の数が会場の収容可能人員と比較して適当かどうかを事前に把握しておく必要があるためである。しかしながら、今回関連講座に申し込んだ人のうち、2回目で24%、3回目で34%が欠席した。関連講座は定員に達した時点でそれ以後の申込はお断りしているため、本当に聴きたかった方の希望に沿えなかった可能性がある。これまでの経験則からすると欠席は1割程度と考えていたので、今回の結果については憂慮している。

展示についての評価であるが、関連講座でご講演を賜った東北大学災害科学国際研究所の川島秀一教授は、「津波常習地」という言葉を使われた。被災したという受動的意味あいをもつ「常襲地」とは異なり、ここには津波を生活文化の中で受け入れる積極的な意味あいが含まれている。東日本大震災で津波被害を受けた地域では、海は人々のくらしや文化と密接につながっており、過去の災害記憶が活かされなかったから被害が甚大になったと単純に言うことはできない。災害の危険性が高いからといって住んでいる場所を簡単に変えることができないのは、山間地といわれる本市域においても同様である。そうだからこそ、過去に災害があったことを知り普段から備えておくことが必要で、東日本大震災の経験を自らのものとして受けとめるとはそういうことだと思う。展示では土砂災害や水害の恐ろしさは伝えられたかもしれないが、生活文化の1つとして自然災害をとらえる視点が今回の展示会では決定的に欠けていた。このことは展示ができてからわかったことであり、反省点である。

平成24年6月の災害対策基本法の改正によって、防災意識の向上をはかるため災害教訓の伝承が住民の責務として明記された。地域に残る史料や伝承からその歴史を明かにしていくことが使命の当館は、まさにこの「災害教訓」の掘り起こしとその伝承の場面で、その存在意義がより明確化されると考えられる。今後もこうした取り組みを継続していく必要がある。

入館状況

○特別展「飯能方面湖水の如し」展示資料目録

	資　料　名	点数	所蔵者	形態	備　　考
	Ⅰ　飯能市域の災害記録				
1	架橋碑（小床）	1点		拓　本	
2	「古今稀成年代記第参号」	1点	当　館	原資料	平沼家文書 468
3	「（明治四十三年度）第二飯能尋常小学校日誌」	1点	飯能第二小学校	原資料	飯能第二小学校文書 12
4	台紙付写真「明治43年（8月）水害写真」（飯能町河原町）	1点	小山健仁氏	原資料	№5、篠原写真館撮影
5	文字情報のある写真（台紙付写真「〔明治43年8月水害・小沼橋附近〕」	1点	行田市郷土博物館	原資料	橋本家文書 1622
	Ⅱ　飯能市域の災害史				
6	寛保２年「（戊七月廿七日ゟ八月二日迄）山崩川流覚」	1点	町田洋二氏	原資料	寛保２年７月水害、町田家文書６
7	「（戊秋）大風雨荒地田畑書上帳」	1点	当　館	原資料	〃　中村家文書 2134
8	安政６年「未年日記」	1点	当　館	原資料	安政６年水害、須田家文書 16
9	「古今稀成年代記第壱号」	1点	当　館	原資料	明治 11 年水害、平沼家文書 216
10	加治村役場「土木書類綴込」	1点	当　館	原資料	明治23年水害、加治村役場文書314
11	「吾野構内土砂崩壊状況図」	1点	金子組(株)	原資料	平成11年8月吾野駅南側斜面崩壊
12	安政２年「卯日記」	1点	当　館	原資料	安政江戸地震、須田家文書 12
13	須田精道肖像画（軸装）	1点	須田晴彦氏	原資料	〃
14	安政二卯十月二日「大地震附類焼場所」	1点	当　館	原資料	〃　田中家文書２
15	「請取書之事」	1点	加藤雄一氏	原資料	〃　加藤家文書90
16	「万代御用留全」	1点	当　館	原資料	〃　浅見家文書59
17	関東大震災全地域鳥瞰図絵	1点	さいたま文学館	原資料	
18	帝都大震災画報「激震ト猛火ニ襲ワレシ上野廣小路松坂屋附近之真景」	1点	さいたま文学館	原資料	
19	帝都大震災画報「本所石原方面大旋風之真景」	1点	さいたま文学館	原資料	
20	東京大震災画報「浅草公園十二階花屋敷附近の火の海象君の避難」	1点	さいたま文学館	原資料	
21	大正十二年九月「帝都大震火災系統図」	1点	当　館	原資料	田中家文書４
22	「大正十二年度 日誌」	1点	当　館	原資料	織物協同組合文書67
23	加治村役場「罹災者調査書類」	1点	当　館	原資料	加治村役場文書728
	Ⅲ　飯能方面湖水の如し				
24	「一府五県水害図」	1点	独立行政法人防災科学技術研究所	原資料	
25	『写真タイムス第 20 号』	1点	独立行政法人防災科学技術研究所	原資料	
26	絵葉書「（明治四十三年八月十一日）大洪水の惨況」	1組	独立行政法人防災科学技術研究所	原資料	４枚組
27	絵葉書「（明治四十三年八月）稀有の大洪水」	1組	独立行政法人防災科学技術研究所	原資料	10枚組
28	絵葉書「都下稀有の大洪水」	1組	独立行政法人防災科学技術研究所	原資料	６枚組
29	絵葉書「〔明治 43 年８月水害被害状況〕」	1組	埼玉県立文書館	原資料	５枚組、飯田氏収集289
30	絵葉書「〔明治 43 年８月水害被害状況〕」	1組	埼玉県立文書館	原資料	３枚組、飯田氏収集290
31	『埼玉県水害誌』（初版）	1点	当　館	原資料	飯能第一小学校文書31
32	「洪水氾濫之図」（『埼玉県水害誌』付図）	1点	当　館	原資料	
33	「大水害記録」	1点	島田稔氏	原資料	島田家文書137
34	「名栗村水害概況図」	1点	島田稔氏	原資料	島田家文書137付図
35	甲南智徳会第一部会「大洪水記念号」	1点	吉田雄之氏	原資料	吉田家文書151
36	遭難追薦碑	1点		拓　本	
37	「（上名栗第二尋常小学校）新築校地及体操場図面」	1点	浅見欽一郎氏	原資料	浅見家文書753
38	「明治四十三年之水害草稿」	1点	浅見周一氏	原資料	
39	「水害関係書類」	1点	当　館	原資料	吾野村役場文書45
40	台紙付写真「（飯能町）河原町の被害Ⅰ」	1点	小山健仁氏	原資料	№６
41	台紙付写真「（飯能町）河原町の被害Ⅱ」	1点	小山健仁氏	原資料	№７
42	台紙付写真「（飯能町）飯能河原護岸工事」	1点	小山健仁氏	原資料	№３、金子写真館撮影
43	「水災義捐金名簿」	1点	当　館	原資料	吾野村役場文書47
44	「水害罹災者救恤金寄附褒状」	1点	豊住三芳氏	原資料	豊住三芳家1561
45	台紙付写真「秩父郡吾野村坂石町分字ワニゴ水害復旧工事」	1点	北條文男氏	複　製	№12、金子写真館撮影
	Ⅳ　災害に備える				
46	飯能市地域防災計画	1件		原資料	
47	非常用持出品	1件	飯能市危機管理室	原資料	
48	避難所設置用備品	1件	飯能市危機管理室	原資料	
	Ⅴ　災害記憶の風化を留める				
49	災害記念施設リーフレット	1件		原史料	
50	東日本大震災関連の新聞、書籍	1件	白井哲哉氏・柳戸信吾氏	原史料	

その他の展示

当館では、収蔵品展や特別展のほかにも、文化財の普及や収蔵資料の紹介などを目的として、いろいろな展示をおこなっている。ここでは、それらを紹介する。

新収蔵品展

期　　間　平成25年3月24日（日）～ 5月6日（月）
開館日数　38日間
入館者数　3,275人（1日平均86.2人）
展示点数　31点

1　趣　旨

当館では、毎年年度末から翌年度初頭にかけて、その年に寄贈を受け、購入した資料を展示する「新収蔵品展」を開催している。寄贈者を顕彰し市民に説明責任を果たすとともに、最新の収蔵資料を広く公開することを目的として行っているものである。

2　内　容

平成25年4月から平成26年3月までの間に当館の収蔵資料となった古文書やレコード、民具など31点を展示した。また、期間中協賛事業として、「飯能の“みんよう”」保存会主催の「収蔵品となったレコード・テープ・CDの音をごいっしょに聴いてみませんか」が開催された。

展示風景

駿河台大学野村ゼミ実習展示
「かわいい川みつけてみませんか」

期　　間　平成25年6月30日（日）～ 7月15日（月）
開館日数　13日間
入館者数　1,254人（1日平均96.5人）
展示点数　25点（写真を除く）

1　趣　旨

市内に所在する駿河台大学と本市との間では、平成23年11月に基本協定書を締結し、様々な分野で相互に連携して事業を行ってきているが、当該事業もその一環で、メディア情報学部の野村ゼミからの依頼により平成21年度から実施しているものである。将来学芸員をめざすゼミの学生が、博物館展示に関する学習の一環として展示会を企画し、展示の設営まですべて学生たちが担い、期間中は、学生が常時会場にいて来館者に応対している。

2　内　容

川には植物が多くみられ、魚や虫、餌を求めてやってくる鳥などの動物がやってくるほか、人々も自然や動植物に触れ、遊ぶことにより様々な体験をしている。

今回の展示では、川の風景やそこに住む生物の写真のほか模型や実物などを展示して、川をより身近に感じてもらうとともに、川で遊ぶことが環境にどのような影響を与えるのか、またその対策にはどのようなものがあり、自分たちには何ができるのかを解説した。

展示風景

新図書館開館記念企画展

「飯能文化萌ゆ －戦後の荒廃と文化活動－」

期　　間　平成25年7月1日(月)～8月8日(木)
開館日数　33日間　　展示点数　38点
会　　場　市立図書館2階多目的ホール

1　趣　旨

昭和20年の終戦後の窮乏は戦時中よりもひどく、物不足と精神的な荒廃は一層進み、人々の心は荒んでいった。「戦後の荒廃を救うには文化運動しかない」この強い意志と希望、努力により、地元の文化人であった小川文雄、吉良憲夫、野口家嗣の3人が主催し、顧問に蔵原伸二郎をむかえ、昭和22年8月に創刊されたのが月刊誌『飯能文化』である。

『飯能文化』には著名な多くの文人、芸術家等が関わり交流の輪が広がった。さらに寄稿者には小中学生、労働者、主婦など各層が加わり、まさに多くの人々を巻き込んだ一大文化運動であった。現在に続く飯能の文化活動の原点はここにあると言えよう。

文化の拠点とも言うべき新図書館開館を記念して、戦後の文化運動を多くの市民に知っていただくとともに、この原点を再確認してもらうことを意図して企画展を開催した。なお、この展示は平成2年に当館で開催した同名の特別展とほぼ同じ内容のものである。

2　内　容

入り口前のパネルに昭和20年から23年にかけての当時の社会情勢を象徴する新聞記事の見出しを何枚も貼り、時代背景を理解してもらうようにした。

室内の展示は「『飯能文化』の発行」と「『飯能文化』関係者の主な作品」の大きく2つのテーマで構成した。「『飯能文化』の発行」では、印刷に使用した活字や原稿類、誌上で募集し、優秀作品がレコード化された新民謡「飯能小唄」・「武蔵ブルース」に関する資料などを展示した。

「『飯能文化』関係者の主な作品」では、『飯能文化』に関係した棟方志功、水原秋桜子、蔵原伸二郎、石田波郷、石川信雄、樋田五峰などの著名人の作品を展示した。

なお、展示資料はすべて当館の所蔵資料である。

展示風景

3　関連事業

◎『飯能文化』をもっと知ろう!

日　時　平成25年8月7日(水)午後2時～4時
講　師　柳戸信吾(当館館長)
　　野口勲氏(野口家嗣氏ご子息)
　　「飯能の“みんよう”」保存会
会　場　飯能市立図書館2階多目的ホール
内　容　展示作品についての説明、飯能文化発行の頃の解説、飯能小唄等民謡と踊りの披露
参加者　93人

関連事業「『飯能文化』をもっと知ろう!」

埋蔵文化財出土品展

「はじめまして土師器です」

期　　間　平成25年8月4日(日)～9月8日(日)
開館日数　31日間　　**展示点数**　217点
入館者数　2,107人（1日平均68.0人）

1　趣　旨

飯能市教育委員会生涯学習課では、毎年数ヶ所の遺跡の発掘調査を行っているが、その成果は発掘調査報告書として刊行されるものの、それだけではその成果を市民に理解してもらうのは難しいのが現状である。

そこで、本展示では発掘された遺物や遺構の写真などを展示し、調査によって明らかとなったことを市民にわかりやすく伝えることを目的とする。こういった機会は、地域住民が身近な遺跡に触れることのできる絶好の機会となる。

2　内　容

12回目となる今回の出土品展は、前年度に引き続き速報性を重視して平成24年度に実施した11ヶ所の発掘調査の成果を中心に展示した。また、近年本市域では数少ない古墳時代の集落跡の調査が実施され多くの遺物が出土したことから、古墳時代にスポットを当てた展示も合わせて行った。

加えて、市民の目に触れる機会が少ない室内調査について、遺物が出土してから報告書が出来上がるまでの工程を、出土品や実際の作業の道具と共に紹介し、平成24年度に報告書を刊行した山間部の古代集落遺跡である「横道下遺跡」の室内調査成果とともに展示した。

展示風景

展示解説の様子

収蔵絵画展 －in 市民活動センター－

期　　間　平成25年10月29日（火）～ 11月10日（日）
開館日数　15日間
展示点数　16点

1　趣　旨

当館は歴史系博物館であるが、購入、寄贈など様々な経緯を経て収集された絵画が、432点収蔵されている。収蔵絵画は飯能出身や飯能に在住するなど、飯能と縁の深い画家たちの作品で、抽象画の割合が高い。

絵画は、これまでに数年に1回のペースで展示してきた。しかし、近年、市民から当館に対し、収蔵絵画を見る機会を要望する声が寄せられ、一方で市民活動センターの利用を促す、市役所内部の方針もあるため、本展示会を企画した。

2　内　容

丸広百貨店飯能店7階にある市民活動センターを利用した収蔵絵画展は、今回が初めてである。展示はギャラリーA･B･Cの3室192㎡を使って行った。

特定の画家に偏らない展示を意図し、内田晃・小島喜八郎・白木正一・早瀬龍江・富山芳男・黒田幹太郎の以上六氏の作品を展示した。

展示した作品は、基本的にこれまで当館で実施してきた収蔵絵画展で展示していないものを選んだ。その中には、白木正一氏の「難福図」(1973年)など、作品の大きさ(横幅323.2㎝)から、間近で見るよりある程度離れて見た方が鑑賞しやすい絵や、内田晃氏の「奏者(A)」「奏者(B)」など、2枚で一組となる作品も含めた。

ただ、当館の特別展示室や展示ホールにて行う際にも同じ悩みを持つのだが、収蔵絵画の大半は抽象画・シュルレアリスムの絵画である。これらの絵画は鑑賞し、直観的に何かを感じるという楽しみ方が可能ではあるものの、その作品が創作された時代的な背景や、技法、作品の位置づけなどの丁寧な解説がないと、展示として片手落ちの感は拭い去れない。美術系の学芸員がいない当館が企画する絵画の展示は、常に一定の限界が存在している。

なお、当該展示のため当館一般収蔵庫から市民活動センターへ絵画を搬入するのと合わせて、収蔵棚が完成した精明小学校内の絵画保管室へ216点の絵画を移送した。

展示風景

小学3年生見学対応展示

「むかしのくらし－民家の台所再現－」

期　　間　平成26年1月5日(日)～2月9日(日)
開館日数　31日間　　展示点数　109点
入館者数　3,364人(1日平均108.5人)

1　趣　旨

小学3年生は、社会科の郷土学習の中で「昔の人々とくらし」について学ぶこととなっており、その一環として当館の見学が組み込まれている。この展示は、この単元の学習に対応するために、平成13年度より市民学芸員とともに充実したプログラムの開発に取り組んできた。そして平成14年度からは、特別展示室内に民家の土間とカッテを模した空間を作り出し、そこで火のしの体験と副読本や学校では見ることができない昔の道具を児童に見学してもらうこととした。

また、この展示を一般の市民にも見ていただけるようミニ展示として位置付けている。さらに、近年すすめられている、昔の道具を高齢者の認知症ケアのひとつである回想法に役立てようとする試みを受けて、当館でも、平成20年度より市内や近隣に所在する高齢者の介護施設にも案内を行っている。

2　内　容

特別展示室内に農家のカッテと土間の様子を再現した。カッテには囲炉裏を作って周囲に箱膳や茶の間にある家具などを置いた。また土間にはかまど、流し場を設けて関連する道具を展示するとともに、壁面を使って農具などを掛けた。

なお、付帯事業である「火のし・炭火アイロン／石臼体験」であるが、参加者がほとんどいなかったのは、前日未明からの大雪(熊谷地方気象台の発表で午前6時の積雪量が秩父で46㎝)による。

3　関連事業

◎火のし・炭火アイロン／石臼体験

日　時　2月9日(日)　午前10時～午後3時
指導者　当館市民学芸員

会　場　当館特別展示室・休憩コーナー
内　容　小学3年生が当館見学時に体験した火のし・炭火アイロンと石臼を体験する。
参加者　2人

展示風景

ミニ展示
「ひなまつり」

期　　間　平成26年2月23日（日）～3月9日（日）
開館日数　14日間　　展示点数　14点
入館者数　2,349人（1日平均167.8人）

1　趣　旨

商店街の活性化を主な目的として、商店の店先や民家の座敷などに雛人形を展示してもらい、観光客や市民に雛飾りと街の散策を楽しんでもらう「飯能ひな飾り展」は、今回が9回目となる。参加する店や家は前年度よりやや増えて137箇所となったが、当館もその1つとして第1回目からミニ展示を開催している。当館にとっては、まちづくりに直接関わることのできる貴重な機会の1つになっている。

2　内　容

今回は主催者である飯能ひな飾り展実行委員会からの要望は特になかったため、前年度同様、資料の状況を確認して劣化が見られるものの展示は避け、前年度末から当該年度にかけて新しく収蔵した資料を中心に展示を行うこととした。

また、これに合わせて3月2日には飯能市茶道連盟の主催で「雛のお茶会」が当館学習研修室で行われた。時間は午前10時から午後3時までで（正午から午後1時までを除く）、100人が参加した。

3　関連事業

付帯事業として、恒例となっている当館市民学芸員による「折り紙でつくるおひな様」を実施した。

◎折り紙でつくるおひな様

日　時　3月1日（土）・2日（日）
　　午前10時～正午　午後1時～3時
講　師　当館市民学芸員
会　場　当館休憩コーナー
参加者　3月1日19人　2日49人

展示した御殿びな

「折り紙でつくるおひな様」

今月の一品

1　趣　旨

当館では、平成18年6月より「今月の一品」と題し、入口右側、展示台上の縦・横・高さともに60㎝のケース内に、月替わりで収蔵資料を展示している。「一品」には、一つの品と言う以外に「逸品」の意味も込めたものである。

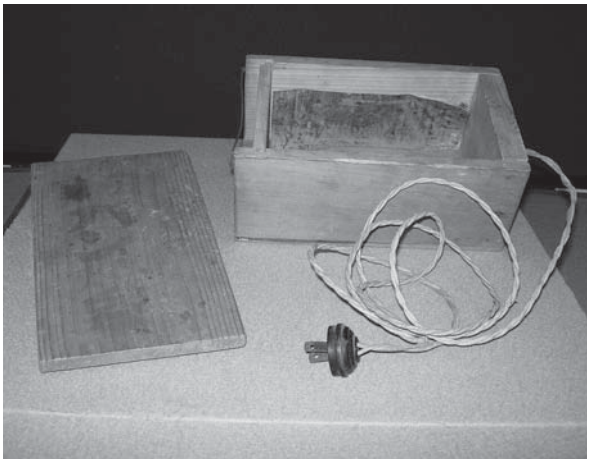
この展示は、その時期に合ったものや季節感が感じられるものを展示するなど収蔵資料の活用の場というだけでなく、最近の資料整理や調査研究活動など日ごろの地道な資料研究の成果を発表する場にもなっている。展示した資料の写真と解説はホームページにも掲載しており、ここでは過去に展示したものも見ることができる。

2　展示資料

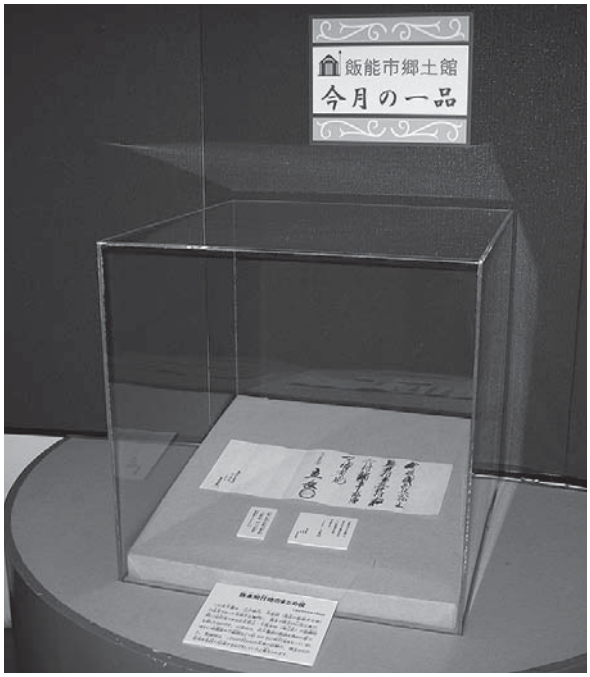
当年度展示した資料は一覧表のとおりである。

○平成25年度展示資料一覧

月	資 料 名	資料番号等	担当者
4月	牛頭天王山絵葉書	加藤樹家文書（未整理）	村上
5月	電気パン焼器	民具№3368	金子
6月	江戸時代の銭貨	民具№2554・5192・5635	村上
7月	氷かき台（氷鉋）	民具№609	金子
8月	乳児用の防空頭巾	民具№5541	村上
9月	メドキリ	民具№4647	柳戸
10月	平岡レース食堂棟のパイプ柱	（未登録）	柳戸
11月	月刊誌「飯能文化」の活字	（宮岡友三郎氏寄贈資料・未登録）	柳戸
12月	下駄スケート	民具№2254	金子
1月	写真趣味の始まり	小山次郎家文書№31	尾崎
2月	女性向けの雑誌にみる戦時中の食料事情	井上次子家文書№161・195	村上
3月	旗本知行地のまとめ役	半田実家文書№36	尾崎



5月「電気パン焼器」



3月「旗本知行地のまとめ役」展示風景

竹の水鉄砲で遊ぼう

日　　時　平成25年8月3日(土)・4日(日)
　　午前9時～11時30分　午後1時～3時30分
対　　象　子ども
会　　場　当館入口前
参加者数　8月3日　81人　　4日　98人
指 導 者　当館市民学芸員(13人)
　　博物館実習生(4人)

1　趣　旨

この体験学習会は、夏休み中の子どもの居場所づくりを目的として、中央公民館、図書館と共同で行っていた「夏休み子どもクラブ」の枠組みが平成23年度まででなくなったことを受けて、これを独立させ、子どもを対象とする事業が少ないという課題に対応したものである。参加者は水鉄炮など竹で作った玩具を作り、それを使うことで昔の手作り玩具による遊びの楽しさを知ってもらうことを目的とした。

2　内　容

竹の水鉄炮をあらかじめ10個ほど作っておき、それを使って遊んでもらったが、希望する児童には水鉄炮の製作も指導した。そのほか、竹馬、竹ぽっくり、竹トンボなどの竹のおもちゃも用意しておき、自由に遊べるようにした。

竹のおもちゃで遊ぶ親子

夏休み子ども歴史教室
「昔のお金を観察しよう」

日　　時　平成25年8月7日(水)
　　午前9時30分～12時00分
対　　象　小学生
参加者数　23人
会　　場　当館学習研修室
指 導 者　村上達哉(当館学芸員)
　　博物館実習生(4人)

1　趣　旨

平成25年度の夏休み子ども歴史教室は、“お金”に焦点を合わせた体験教室である。

お金をテーマに取り上げたのは、お金が人々の生活に必要不可欠なものであるという事以外に、人類の歴史上でも古い発明品の1つであり、時代を追うごとに変化し続けていること、現在でもその変化（硬貨・紙幣としての存在から、電脳空間内でのデータ「電子マネー」へと移行しつつある）が続いている、興味深いものだからである。

現代の子どもたちにとっては、電子マネーの形態をとるお金も当たり前の存在となりつつある。お金の歴史を紐解くことは、お金が本来どのような存在であるのかを再認識する、良いきっかけになると考え企画した。

2　内　容

夏休み子ども歴史教室は、これまでに対象を小学校低学年と高学年で分け1日ずつ別のプログラムを組むことや、対象を分けずプログラムの内容を充実させ2日間で行うなど、様々な形で実施してきた。今回は1日のみの実施とし、小学生全体を対象としつつも、低学年の児童でも出来る内容を目指した。実際に応募してきた児童も、54%が低学年であった。

○当日の進行

当日は次のような進行で行った。①「お金」についての説明、②昔のお金の観察、の順である。以下に、それぞれについて内容をまとめる。

①「お金」についての説明

学習研修室にてパワーポイントを用いて10分程度「お金」について説明し、古いお金の観察に入る前の導入部とした。お金は「国」が造ったもので、人々から信用されないと流通しないものであること、元来はモノとモノを交換する際の媒介物として成立したことを話した。

次にお金の可能性がある紀元前800年頃の貝の写真を見せ、お金に関係する「貝」の付く漢字を紹介した。加えて、中国大陸の紀元前450年頃の円銭・布銭・刀銭などの貨幣の写真も映写し、最初の頃のお金について子どもたちに説明した。

また、中国王朝の唐のお金である開元通宝をまねて、日本でも和銅開珎が造られたことにも触れ、飯能からもそう遠くない場所にある、秩父の和銅遺跡の写真を見せた。

②昔のお金の観察

最初に子どもたちを常設展示室に案内し、古代のコーナーに展示してある隆平永宝（皇朝十二銭の1つ）の実物資料を見せた。

その後、学習研修室に戻り、江戸時代・明治時代のお金と太平洋戦争の頃のお金の観察を行った。観察したお金の種類は、寛永通宝（1文「文銭」、4文「二十一波」・「十一波」）・文久永宝・宝永通宝・天保通宝・一銭銅貨（明治6～ 21年）・一銭錫貨（昭和19・20年）の8種類である。

観察は次の2つの作業を行った。1つはお金の表裏面の乾拓を採取し、鋳出されている文字を読んだり模様を確認すること、もう1つが定規を使ってお金を採寸することである。採取した乾拓は「昔のお金観察シート」に貼り付け、採寸した数値も「昔のお金観察シート」に記入する。つまり、観察の成果は「昔のお金観察シート」の完成という形で実を結ぶこととなる。

昔のお金の乾拓をとっているところ

観察にあたっては、事前に「昔のお金観察シート」（下）と、拓本用紙・乾拓用の釣鐘墨・はさみ・のり・「昔のお金観察シート」をラミネートするラミネーター及びラミネートフィルムを用意した。

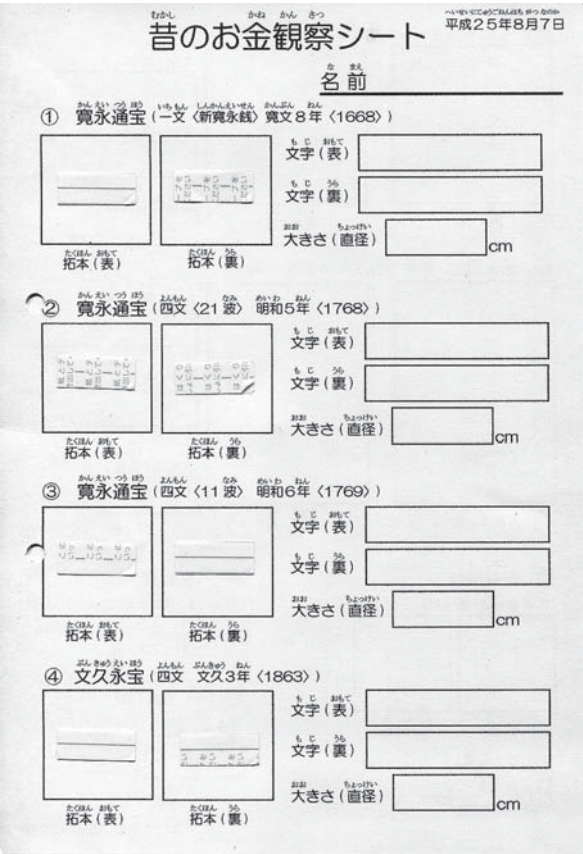
観察は、乾拓の採取→文字・模様の確認→「昔のお金観察シート」への記入→お金の採寸→「昔のお金観察シート」への記入、の順で行った。この手順を、8種類のお金それぞれで繰り返した。

最後は、子ども達が完成させた「昔のお金観察シート」をラミネートして返却し、終了とした。

3　反省点

良かった点としては、子どもたちが、意外と乾拓を採取する作業を楽しんでいたことである。正直なところ、どのくらい乾拓の採取に関心を示すかは全くわからなかったため、不安であった。しかし、楽しそうに作業する姿を見て、小学生を対象とする事業を考える上で、1つ収穫を得たように思えた。

また、「昔のお金観察シート」など、作業をするためのアイテムを用意したのは良かったと考える。作業の成果をひとつひとつ積み上げていき、最後にシートが完成して自分の仕事の経過や結果が手許に残ったことにより、



昔のお金観察シート　平成25年8月7日

名前

① 寛永通宝（一文〈新寛永銭〉寛文8年〈1668〉）
文字（表）
文字（裏）
大きさ（直径）　cm
拓本（表）　拓本（裏）

② 寛永通宝（四文〈21波〉明和5年〈1768〉）
文字（表）
文字（裏）
大きさ（直径）　cm
拓本（表）　拓本（裏）

③ 寛永通宝（四文〈11波〉明和6年〈1769〉）
文字（表）
文字（裏）
大きさ（直径）　cm
拓本（表）　拓本（裏）

④ 文久永宝（四文　文久3年〈1863〉）
文字（表）
文字（裏）
大きさ（直径）　cm
拓本（表）　拓本（裏）

「昔のお金観察シート」

子どもたちは、より達成感を感じているように見えた。

ただ、高学年の子は作業が早く終わり、低学年の子は時間がかかってしまう。それ自体はやむを得ないのだが、それに対し特に手を打つことができなかった点は反省点である。作業を早く終えた子を待たせてしまう結果となり、あまり良くなかった。

また、準備が全般的に不十分で、作業手順についてもう少し考える時間的余裕があれば、進行がもっとスムーズであっただろう。

ただ、事業全体としては、小学校低学年の児童でも意欲的に参加できるプログラムとして、一定の成果を上げられたように考える。

また、余談ではあるが、広報はんのうの夏休み子ども歴史教室参加者募集の記事を読み、「当日子どもたちに配ってほしい」とご自身の古銭コレクションの一部を寄贈して下さった市民の方がいた。お言葉に甘え、講座終了時にお土産として1人1枚ずつ配らせていただいた。子どもたちはもちろん、最後に本物の「昔のお金」を手にして大喜びである。このような市民の方からの意外な援助があったことを、ここに記しておきたい。

まゆ玉づくり

日　　時　平成26年1月12日(日)
午後1時30分～午後3時20分
対　　象　小学校低学年を中心とした児童とその保護者
会　　場　当館学習研修室
参加者数　34人
指 導 者　内野博司氏・内沼須美氏・清水里子氏・小熊絢子氏
指導補助　当館市民学芸員

1　趣　旨

本市域を含め養蚕の盛んな所では、小正月や初午などに繭の増収を祈願し、「繭玉」と呼ぶ団子を作ってツゲの木などの小枝にさして飾る行事がある。この体験学習会は、この小正月の行事を伝承していくことを目的とする。なお、当該事業は平成22年度までは、郷土館友の会で主催していたものである。

2　内　容

最初に飯能市域における繭玉づくりの様子について解説した後、その作り方を説明し、参加者全員で、米粉を蒸して団子状のものを作った。それを、エントランスホールに展示している「猪狩の大樅」に差し込んだミズキ・ツゲの枝先に、みかんと一緒に飾った。飾り付けが終わった後に全員で繭玉を食べた。

まゆ玉づくりの解説

展示ホールに完成した大きな繭玉

行政運営において、市民との協働はもはや不可欠のものとなってきている。博物館でも市民との連携が欠かせない時代となった。

当館では、市民参加活動を博物館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とする「交流」活動ととらえている。現在では、定点撮影プロジェクトと市民学芸員がこれにあたり、当館の活動において特色の一つとも言え、力を入れて取り組んでいる。

定点撮影プロジェクト

1　概要

定点撮影プロジェクトは、市民自らが、刻々と移り変わっていく「今」の時代を写真で記録し後世に残していくことを目的として平成10年度に開始した事業である。

参加者は各地域で決められた地点を定期的に撮影する（地点撮影）。撮影地点は通り・駅前・交差点など昔から写真に撮られているところや変化の激しいところ、橋や学校など地域の特徴的な建物などである。また、これとは別に、日常的な生活を写真で残すために毎年参加者で設定したテーマに沿った撮影をおこなっている（テーマ別撮影）。

撮影した写真は撮影者がフィルム台帳に内容を記録するとともに、地点撮影の場合には撮影場所、撮影目標、撮影の際の注意点などをまとめた「撮影地点カード」を作成している。地点撮影もテーマ別撮影も日常生活している人でないと本来の生活の様子は撮影できないものであり、地域の変化を示す良好な資料として当館に蓄積されている。

また、撮影した成果を紹介するための写真展を毎年開催してきた。この写真展の展示作業や解説文の執筆などは参加者が主体的におこなっていたが、展示テーマ選定の難しさや展示作業に参加できる会員が減少したことなどの理由から、当該年度は開催しなかった。

現在会員は23人が登録されているが、会員の高齢化とともに打合せ会に参加できる会員が限られてきており、会員のモチベーションの維持や新たな会員の確保が課題となっている。

2　活動の概要

昨年度、所蔵写真資料電子化事業を実施した結果、当館所蔵の写真、フィルム等がデジタル化された。この中にはこれまで定点撮影プロジェクトで撮影してきた写真も含まれ、パソコンでの検索、閲覧が可能となった。しかし、撮影地点や撮影日の記入漏れや誤記入なども多かったため、これらを修正するなどの撮影写真の整理を今年度の主活動とすることとした。

しかし、システムの不具合などの理由から、データの修正等に着手できず、写真整理は次年度に持ち越すこととした。

一方、地点撮影については4～5月にかけて各自担当箇所の撮影を行った。

写真検索システムの定点撮影検索結果表示画面

○平成25年度定点撮影プロジェクト活動一覧

回	月日	曜日	種類	内　容	参加人数
1	5/19	日	打合会	撮影写真の整理、今後の予定について	5
2	3/30	日	打合会	地点撮影の実施、今後の予定について	5

合計のべ人数 **10人**

市民学芸員

1　これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている（当館『研究紀要』第1号）。平成20年度に文部科学省が実施した社会教育調査では、市が設置する博物館のうちほぼ半数で、ボランティアの登録制度を有しているが、当館の場合は教育普及や整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点に特徴がある。

まず第Ⅰ期市民学芸員の養成は、平成12年1月の「特別展企画運営参加型」で、21人が参加した。講座の受講者は、同年秋に予定されていた特別展「飯能、戦後のくらし」の企画段階から参加し、また体験教室や展示解説などの運営にも携わった。

第Ⅱ期は、平成12年3月の「博学連携事業参加型」で、30人の参加を得て同年7月の夏休み親子歴史教室及び翌年1・2月の小学3年生見学対応に従事した。その結果、当館が提供する小学3年生の「むかしのくらし」の学習プログラムは、質、量ともに飛躍的に充実し、それ以後の小学3年生の見学対応はこの体制をベースに行われている。

第Ⅰ期、Ⅱ期と教育活動の分野での養成であったが、第Ⅲ期は西川林業の道具の基礎調査を行っていくもので、平成16年2月から養成が開始された（「民俗調査参加型」）。この調査の目標は、当館にとって長年の懸案であった西川材の生産に関わる道具を県指定文化財とすることにあり、新たに2人が市民学芸員として認定された。この養成講座には、Ⅰ・Ⅱ期の市民学芸員も参加したため一体的に活動することとなり、結果的には「民俗調査参加型」の新たな市民学芸員も小学3年生見学の対応にも従事してもらうことになった。

しかし、市民学芸員活動における参加人数の減少が、

第Ⅳ期市民学芸員認定式

小学3年生見学対応の受け入れ体制に影響を及ぼし始めたため、平成19年度には博学連携事業参加型としては2度目、通算ではⅣ期となる市民学芸員の養成講座を実施し、17人が新たに認定された。第Ⅳ期市民学芸員が加わったことにより、小学3年生見学対応は新たなプログラムが追加されるなど、内容の充実がなされたが、依然として活動を終了したいとの意向をもつ方が後を絶たず、モチベーションの維持が大きな課題として再認識された。また、現実的な問題として、再び人数の減少が、小学3年生見学対応の受け入れ体制に影響を与えることが懸念された。このため、平成22年度に再度博学連携事業参加型の市民学芸員をⅤ期として養成し、新たに11人が市民学芸員として登録された。平成25年4月現在で、博学連携事業参加型の市民学芸員は31人である。

また、当館で収蔵している地域史料のうち、古文書については多くは仮目録が作成されているだけで、冊子体の目録が公開されている史料群は非常に少なく、なかなか利用が進まない。収蔵史料の価値を高め、市民の学習需要を喚起していくためには、史料の整理を進め目録を刊行するとともに、翻刻して多くの市民が史料のもつ

○平成25年度市民学芸員全体研修会一覧

回	月日	曜日	開始時刻	テーマ	講師・担当	内容	参加人数
1	7/6	土	7：00	館外研修会	柳戸	千葉県立房総のむらの見学会	18
2	12/1	日	9：00	館外研修会	村上	山岳寺院（子ノ権現・竹寺）の参道見学会	7

合計のべ人数　**25人**

全体研修会・千葉県立房総のむら見学（7月）

麦サークル・大通の小町公園での脱穀体験の指導

情報にアクセスできるようにしておくことが不可欠である。平成22年度に養成された「古文書整理型」は、市民が学習活動を行いながら、こうした課題に獲得したスキルを活かし共に取り組んでもらおうというものである。養成の結果15人が認定されたが、平成25年4月現在で12名となっている。このうち5人が博学連携事業参加型の市民学芸員としても活躍している。

2　活動の概要

◎全体の活動

当館の市民学芸員の養成は、「博学連携」や「古文書整理」といった活動分野ごとに行われるため、ふだんはこの枠組みで活動している。この二つは定例会の日時や内容が全く異なるため、市民学芸員同士の交流がなく一体感が生まれてこない。そこで、地域の歴史や文化、あるいは博物館学に関わる研修や、他の博物館を見学する館外研修会は年2回合同で行うこととし、当該年度は34ページ表のとおり実施した。

また、平成24年度より養成分野を横断した形で、市民学芸員が実験的な活動を始めたり、当館のイメージアップをはかるなど、養成分野にこだわらずやりたいことを自由に、気軽に行える場としてのサークル活動が始まった。個々の活動については以下のとおりである。

麦サークル・1月の麦ふみ

(1) 麦サークル

毎年1月～ 2月にかけて当館に見学に来る市内の小学3年生は、体験学習プログラムの1つとして、炒った大麦を石臼で粉（麦こがし）にする作業を行う。この原料となる大麦を自分たちで栽培できないか、という提案をもとに、平成24年5月から始まったのが麦サークルの活動である。

当館西側の敷地のうち、約10m×7mの部分を畑として耕し、まず、サツマイモを植えた。サツマイモ収穫後、11月14日に大麦・小麦の種播きをした。

平成25年度に入り、麦の手入れをすすめ、6月9日に大麦を、6月21日に小麦を刈り取った。郷土館産麦の初めての収穫である。なお、大麦を刈り取った跡にはサツマイモを植えた。

6月22日には大麦の脱穀、7月3日には小麦の脱穀を足踏み脱穀機や千歯扱きを用いて行った。この後、中心市街地活性化を目的に活動している市民グループ「飯能まちなかを元気にする会」主催の「小麦についてもっと知ろう」という市民向けの学習会が7月28日に開催された。この事業の支援要請があり、当サークル員が足踏み脱穀機や千歯扱きを用いた麦の脱穀体験を指導した。

10月18日には石臼を用いて麦の製粉を行い、11月6日にはさつまいもを収穫した後に畑の手入れをし、11月19日に麦の種まきを実施した。年が明けてからは麦踏みなどを数回行った。

麦サークルの会員は10人で、平成25年度は4月12日から2月28日まで29回活動し、参加人数は延べ87人だった。

花サークル・日日草などを植え替えた花壇（6月）

麦づくりはかつて市内各地で見られたが、現在ではほとんど行われていない。また、麦を原料とした郷土料理も数多くある。伝統的な麦づくりとその加工技術の伝承、麦食文化の探求、これらを基礎とした体験学習等の教育活動の展開などは当館として今後充実させたい分野である。

(2) 花サークル

花サークルは、当館駐車場から入口へ向かう途中にある花壇に花を植えて、来館者を歓迎する雰囲気を表そうとするもので、次の生花サークルとともに当館のイメージアップに貢献していただいている。

花の苗は、6月18日に日日草やポーチュラカを、12月15日にジュリアンを植えつけた。その間水やり、枯れ花つみなど合計14日間でのべ14人の市民学芸員が参加した。

(3) 生花サークル

このサークルは、当館入口風除室にある、元々は公衆電話が設置されていた空間に生花を展示するものである。展示は1週間（火曜日の朝から日曜日まで）を単位とし、市民学芸員4人が交代で担当した。また、その脇には花材と生けた人の名前を記したキャプションを付けた。今年度は生花の傷みが早い7月中旬から9月中順は展示を行わなかった。活動した日は 69 日で、のべ 89 人である。

なお、サークル活動については、活動時にその内容をノートに記してもらい記録とした。

◎博学連携事業参加型の活動

博学連携事業参加型の活動は、小学3年生見学対応を中心とし、その他、子ども対象事業である「竹の水鉄砲で遊ぼう」の運営が主体となる。

小学3年生見学対応は、当館の博学連携事業を代表するもので、毎年1月半ばから2月半ばまでの約1ヶ月間、月曜日を除く平日のほぼ毎日行われる。市民学芸員が中心になって担うこの事業は市民学芸員抜きでは考えられない事業である。

その学習プログラムは、第Ⅱ期市民学芸員養成後に考案された形が基礎となっている。その後、第Ⅳ期市民学芸員により新しいプログラムが追加され、毎年、少しずつ改善も図られるなどして現在に至っている。このように市民学芸員は、小学3年生見学対応の進行役を果たすだけでなく、学習プログラムの考案といういわば事業のソフトウェアを作成する役割も担っている。

当館では、毎年度末の定例会で市民学芸員と協議し、次年度の活動方針を決めている。小学3年生見学対応は、

生花サークル・風除室に展示された生花（左：5月、上・中：6月、右：9月）

○平成25年度市民学芸員（博学連携）活動一覧

回	活動日	曜日	開始時間	テーマ	講師・担当	内　容	参加人数
1	4/20	土	9:30	4月例会	金子・村上	平成25年度の活動予定、内容について	8
2	5/21	火	9:30	5月例会 体験学習会	戸口正一	定例会（事務連絡）：全体研修会について、その他 体験学習会：わらぞうりづくり	9
3	6/19	水	9:30	6月定例会 研修会	村上達哉 （当館学芸員）	定例会（事務連絡）：「竹の水鉄砲を作って遊ぼう」についてなど 研修会：護符の研究について	14
4	7/9	火	9:00	体験学習会用 材料調達	金子	「竹の水鉄砲を作って遊ぼう」用の竹の調達	4
5	7/24	水	13:30	7月例会 研修会	宮内慶介 （飯能市教育委員会 生涯学習課文化財担当）	定例会（事務連絡）：館外研修会・全体研修会についてなど 研修会：「内陸部出土の製塩土器からみた関東地方縄文晩期の土器製塩」	13
6	7/24	水	15:30	体験学習会 準備	金子	「竹の水鉄砲を作って遊ぼう」の事前準備	9
7	8/3	土	9:00	当館主催事業 運営	金子	「竹の水鉄砲を作って遊ぼう」運営	9
8	8/4	日	9:00	当館主催事業 運営	金子	「竹の水鉄砲を作って遊ぼう」運営	9
9	8/24	土	8:30	館外研修会	村上	あきる野市五日市郷土館・二宮考古館における体験型事業の視察	13
10	9/18	水	9:30	9月例会	金子・村上	「竹の水鉄砲を作って遊ぼう」結果報告及び意見交換、小学3年生見学対応マニュアル、学習ノートについて	8
11	10/22	火	9:30	10月例会 研修会	尾崎・村上	研修会：特別展「飯能方面湖水の如し」展示解説 定例会：小学3年生見学対応マニュアル・学習ノートについて	12
12	11/20	水	13:30	11月例会	金子・村上	体験学習会等の日程について、小学3年生見学対応事前準備について	13
13	12/18	水	9:00	小学3年生見学 対応展示準備	尾崎・金子・村上	小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」・民家の台所設置	9
14	12/21	土	9:30	12月例会	金子・村上	小学3年生見学対応について（見学対応分担表検討）、名栗くらしの展示室関連の民具の移動についてなど	14
15	1/12	日	13:30	当館主催事業 運営	尾崎	体験学習会「まゆ玉づくり」の運営	4
16	1/15	水	9:00	小学3年生見学 対応展示準備	尾崎・金子・村上	石臼体験コーナーや昔の道具調べクイズ、紙芝居体験の会場準備	7
17	1/29	水	13:30	名栗くらしの 展示室準備	村上・尾崎	名栗民俗資料保管庫から名栗地区行政センターへの機織り機の移動	4
18	2/9	日	9:00	小学3年生見学対応 展示付帯事業運営	尾崎	「火のし・炭火アイロン／石臼体験」（10:00～15:00）運営	7
19	2/13	木	9:00	館外研修会	金子・村上	入間市博物館における小学生見学対応の視察	6
20	2/14	金	9:00	小学3年生見学 対応展示撤収	金子・村上	小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」 民家の台所撤収	1
21	2/18	火	9:30	名栗くらしの 展示室準備	館長・金子	名栗民俗資料保管庫から名栗地区行政センターへの民俗資料の移動	3
22	2/19	水	9:30	2月例会	尾崎・金子・村上	小学3年生見学対応反省会	6
23	3/1	土	9:30	当館主催事業 運営	金子	ミニ展示「ひなまつり」付帯事業「折り紙でつくるおひな様」（10:00～15:00）運営	5
24	3/2	日	9:30	当館主催事業 運営	村上	ミニ展示「ひなまつり」付帯事業「折り紙でつくるおひな様」（10:00～15:00）運営	3
25	3/18	火	9:30	3月例会	金子・村上	平成26年度の活動についてなど	6

合計のべ人数　**196人**

準備から反省会まででほぼ下半期の全てを要する一大事業のため、活動方針は主に上半期における活動についてのものとなる。平成25年度は、体験学習会として前年度に引き続き「わらぞうり作り」を行った。また、平成24年度には、当館の『研究紀要第6号』が発行されたため、当該年度では、その所収論文に関係する講義を、研修会として2回行った(6月：「護符の研究について」、7月：「内陸部出土の製塩土器からみた関東地方縄文晩期の土器製塩」)。これは、当館の学芸員などが行っている飯能市域の歴史・調査成果を講義として聴きたい、という市民学芸員の要望に応えたものである。

部会活動については、平成24年度まで部会A(休日

博学連携型・体験学習会（わらぞうり作り）

の学習体験プログラム)が存在していたのだが、休止することとした。部会Aが発案、実施していた「竹の水鉄砲で遊ぼう」を、市民学芸員の部会活動ではなく館の事業とし、また1月に実施していた「昔の遊びを体験しよう!」を中止したためである(これは参加者数の伸び悩みから、実施の意義を見直したことによる)。

平成25年度は、以上の他にも市民学芸員の力を借りる場面が多い年度であった。それは、名栗くらしの展示室設営に伴う民具の運搬である。

まず平成26年1月29日(水)に、名栗民俗資料保管庫1階に収蔵していた機織り機を、名栗地区行政センター3階第1会議室に移動した。そして2月18日(火)には、同じく名栗民俗資料保管庫1階に収蔵していた民俗資料のうち、展示する資料を名栗地区行政センター2階の名栗くらしの展示室に移動した。

この、名栗くらしの展示室設置に関連する作業の依頼については、定例会の席などで「我々に出来ることがあったら言ってほしい」と市民学芸員からの申し出があった、

博学連携型・「竹の水鉄砲で遊ぼう」準備作業

というのが背景にある。機織り機など民俗資料の移動は人手が必要な作業であり、当館としては市民学芸員のこうした力添えは、大変助かり、また大変有難いものであった。

以上のように、当館において市民学芸員の存在は非常に大きなものである。当館の利用者の中でも最も館の近くにいる存在であり、最も頼りになる存在と言っても過言ではなかろう。

◎古文書整理型（第Ⅵ期）の活動

「古文書整理（参加）型」の市民学芸員は、平成22年度に養成された第Ⅵ期にあたる。目標としては、当館で収蔵している古文書を整理したり、翻刻したりする作業に、当館学芸員と共に参加し地域への理解を深めてもらうことにある。

それを行っていくためには、くずし字を解読し古文書の内容が理解できなければならないので、養成期間に引き続き、平成23年3月から実務実習として当館所蔵文書の講読と、その背景を理解してもらうための文献輪読を行っている。また、当該年度から所蔵者の許可を得て、

古文書整理型・高山村岩田家文書の整理

古文書整理型館外研修会・三社巡見(11月)

当館寄託資料である市内高山(旧武蔵国秩父郡高山村)の岩田陽一家文書の整理、翻刻に着手した。

実務実習は、当館の歴史担当学芸員である尾崎が指導者となり、他市町村の博物館の見学や市内の巡見といった館外研修会4回を含む23回実施し(下表)、のべ236名が参加した。

○平成25年度市民学芸員(古文書整理)活動一覧

(会場)当館学習研修室(ただし、18回目のみ中央地区行政センター)

回	活動日	曜日	開始時間	内　容	参加人数
1	4/11	木	10:00	4月例会①(文久2年矢颪村御公用書写講読、年間活動計画について)	10
2	4/25	木	10:00	4月例会②(文久2年矢颪村御公用書写講読、年間活動計画について)	11
3	5/9	木	10:00	5月例会①(文久2年矢颪村御公用書写講読)	11
4	5/23	木	10:00	5月例会②(文久2年矢颪村御公用書写講読)	12
5	6/13	木	10:00	6月例会①(文久2年矢颪村御公用書写講読)	9
6	6/27	木	10:00	6月例会②(文久2年矢颪村御公用書写講読、今年度の学習成果を活かす活動について)	12
7	7/11	木	10:00	7月例会(文久2年矢颪村御公用書写講読、今年度の学習成果を活かす活動について)	10
8	7/25	木	10:00	研修会「古文書を読み解き、地域の歴史を探る」工藤宏氏(入間市博物館学芸担当主幹)	11
9	7/27	土	15:55	館外研修会(三社・我野神社川瀬祭り見学)	11
10	8/8	木	9:30	8月例会(文久2年矢颪村御公用書写講読、自主活動日について)	11
11	9/12	木	10:00	自主活動(文久2年矢颪村御公用書写翻刻)	8
12	10/24	木	10:00	研修会(特別展「飯能方面湖水の如し」展示解説)	11
13	11/14	木	8:30	館外研修会(地域めぐり・三社巡見)	10
14	11/28	木	10:00	高山村岩田陽一家文書整理	12
15	12/5	木	9:00	館外研修会(入間市博物館特別展「古文書されど古文書」見学)	11
16	12/12	木	10:00	12月例会(文久2年矢颪村御公用書写講読)	10
17	1/9	木	14:00	1月例会①(文久2年矢颪村御公用書写講読)	12
18	1/23	木	14:00	1月例会②(文久2年矢颪村御公用書写講読、高山村岩田陽一家文書翻刻)	9
19	1/30	木	14:00	自主活動(高山村岩田家文書翻刻)	8
20	2/13	木	10:00	2月例会①(文久2年矢颪村御公用書写講読、高山村岩田陽一家文書翻刻)	9
21	2/27	木	10:00	2月例会②(文久2年矢颪村御公用書写講読)	10
22	3/13	木	10:15	館外研修会(練馬区立石神井公園ふるさと文化館見学)	8
23	3/27	木	10:00	3月例会(文久2年矢颪村御公用書写講読、平成26年度の活動について)	10

合計のべ人数　**236人**

博学連携

博物館と学校教育との連携は、県内でも戸田市郷土博物館や川越市立博物館などには指導主事が配置され、積極的に行われてきた。本市においては、平成10(1998)年に告示され、平成14年度から実施された学習指導要領に基づく「総合的な学習の時間」の導入以降、出張授業の依頼が増え格段に深まったといえる。しかし、現行の学習指導要領による「総合的な学習の時間」の授業時間数の削減により、出張授業や当館に来館しての学習の数は減少して定着している状況である。これを打開するには、当館の用意できるプログラムや資料を教科学習にどれだけ活かしてもらえるかにかかっているといえよう。

なお、当館では学校への資料の貸出も行っているが、これは「収蔵資料の利用」(44 ～ 48p)に含めた。

小学3年生見学対応

戦後８度目の改訂となる現行の学習指導要領は、小学校においては平成 23 年から全面実施されている。このうち、社会科の第３学年の学習内容のうちの１つは、

（5）地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア　古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

イ　地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

ウ　地域の発展に尽くした先人の具体的事例と

定められている。

これに対応するものとして、本市では「市の人々のくらしのうつりかわり」の単元が設けられている。それを受けて当館では、例年1月から2月にかけて「むかしのくらし」展を開催し、市民学芸員とともに下記のプログラムを実施している。このうち、①常設展示見学の中の、「飯能の宝物」(国指定重要文化財「長光寺雲版」・「常楽院軍荼利明王立像」)と西川材(県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」)の解説がイに、それ以外がアに向けたものと位置づけられる。

また、本事業は市民学芸員中心で行われているが、

市民学芸員による常設展示室・紙芝居の実演

このようになったのは平成14年度からで、平成23・24年度版の社会科副読本『はんのうし』から、この部分が当館の見学プログラムに準拠した形に改められた。

さて、当該年度においては9月10日付で各小学校宛てに見学希望日や人数などを把握するための調査票を配布し、10月8日から11月8日にかけて当館にて先生方との打合せを行い、見学内容や移動手段などについて協議した。

当館までの移動手段は、平成21年度以来、市のバス２台を中心に、足りない部分を民間事業者から乗合バスを借り上げて確保している。

当日は、クラスを複数の班に分け、同時並行で行われる３つのプログラムをそれぞれが異なる順序で廻り(１つのプログラムは通常40分)、決められた時間枠の中で、すべてのプログラムが体験できるように予定を組んでいる。

３つのプログラムの内容は次のとおりである。

○常設展示見学

小学校は３つの説明・体験のうち、２つを選択することができる。１つは常設展示の「乱世に生きぬく(中世)」のコーナーにおける長光寺雲版と常楽院の軍荼利明王立像を中心とした国指定重要文化財の説明(「宝物」)、２つ目は「山地のくらし(民俗)」のコーナーにおける西川材に関する説明(林業)、３つ目が「平地のくらし(民俗)」のコーナーにおける、昔の子どもの遊びの解説と紙芝居の体験(「紙芝居」)である。

②むかしの道具さがしクイズ

これは、学習研修室に20点の民具を４箇所に分けて置き、児童には最初にそれら全てを観察したり触れたりした後、その中から洗濯、炊事、学校生活、暖房に使う道具を見つけるというクイズ形式の学習である。最後に児童に正解を伝え、道具の使い方を説明する。

③体験学習

石臼と昔のアイロンの体験を行う。

石臼体験は休憩コーナーに設置した石臼台で児童に米とこがし麦(炒った大麦)を挽いてもらい粉にする。炒った大麦は平成23年度から使い始めたが、それ以前は長らく大豆を挽いていた。

昔のアイロンの体験では、児童は特別展示室内に再現された農家の台所の一角にある板の間に上がり、火のしと炭火アイロンを体験する。アイロン体験の順番を待っている時間は、土間部分にある水場やかまど、昔の農具などの見学や背負梯子・背負かごの体験などを自由に行うことができる。

なお、当該年度は小学生の見学時に飯能市教育センターの小野所長、中村指導主事に来館していただき、プログラムの内容や市民学芸員の対応について意見をいただいた。そのほか学校の先生には見学後にアンケートの提出をお願いしており、それらをふまえて市民学芸員と反省会を行い次年度への改善に活かしている。

「学習ノート」を使って見学する児童

○平成25年度小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	常設展示選択
1	1/16(木)	美杉台小	2	72	借上バス2台	9:00	11:39	159	10	宝物・紙芝居
2	1/17(金)	精明小	1	28	市バス	9:12	11:48	156	10	宝物・紙芝居
3	1/21(火)	原市場小	1	38	市バス・庁用車	9:06	11:39	153	9	宝物・紙芝居
4	1/22(水)	双柳小	2	64	借上バス2台	9:03	11:49	166	9	宝物・紙芝居
5	1/23(木)	加治小①	2	66	借上バス2台	9:10	11:50	160	10	宝物・林業
6	1/24(金)	加治小②	1	33	借上バス	9:03	11:44	161	11	宝物・林業
		名栗小	1	8	市バス	9:05		159		林業・紙芝居
7	1/28(火)	飯能二小	1	14	市バス	9:03	11:54	171	10	宝物・紙芝居
		東吾野小	1	6	市バス	9:08		166		林業・紙芝居
8	1/29(水)	南高麗小	1	9	市バス	9:09	11:45	156	8	宝物・紙芝居
9	1/30(木)	富士見小①	1	28	市バス	9:11	11:44	153	8	林業・紙芝居
10	1/31(金)	富士見小②	2	56	市バス2台	8:49	11:24	155	10	林業・紙芝居
11	2/4(火)	飯能一小①	2	69	徒歩	9:06	11:49	163	7	宝物・林業
12	2/5(水)	飯能一小②	1	35	徒歩	8:59	11:36	157	8	宝物・林業
13	2/7(金)	西川小	1	9	市バス	8:57	11:39	162	9	宝物・紙芝居
		加治東小	1	33	市バス・庁用車	8:59		160		宝物・林業

合計 **13校**　合計児童数 **568人**　　市民学芸員のべ人数 **119人**

小中学校社会科研究展

1　趣　旨

小中学校では、夏期休業中にいろいろな教科で自由研究の課題が出される。このうち、理科や技術家庭、美術科ではその作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているのに対し、社会科には学校の外でその成果を発表する場がないのが現状である。しかし、児童生徒の地域研究の意欲は強く、中には研究の質として高いものも見受けられる。このような作品を地域の博物館で公開し、多くの人に見てもらうことは大きな教育的効果が期待できるため、平成10年度より行っているのが本事業である。

当初は中学生だけが出展していたが、平成13年度より対象を小学生まで広げ、平成22年度からは出展された研究の中から、館長賞及び学芸員賞を選ぶこととし

た。また、平成23年度より各学校において社会科の研究に該当するものかどうかを見極めるとともに、ある程度のレベル以上のものを選んで出展してもらうため、児童生徒数に応じて出展上限数を決めている。さらに今回より新たに教育長賞を設け、右に掲げた基準で選考することとした。

なお、保護者が仕事帰りに見に来ることできるようにするため、会期中の金・土曜日に開館時間を午後７時まで延長した。

２　展示概要

期　　間　平成25年９月14日（土）～ 29日（日）
開館日数　14日間
入館者数　1,292人（１日平均92.3人）
展示点数　小学生107点（107人）
うち教育長賞１点、郷土館長賞１点、学芸員賞３点
中学生 46点（46人）
うち教育長賞１点、郷土館長賞１点、学芸員賞２点

社会科の先生方による展示作業

特別賞の基準は以下のとおり。

○教育長賞
例年の館長賞の候補より特に優れ、数年に一度しか見られないようなもの。

○館長賞
学芸員賞候補作品のうち最も優れたもので、小・中学校１研究ずつ。

○学芸員賞
・地域を対象としている
・聞き取り調査やフィールドワークなどによって自らが足を使って得た情報が含まれている。
・児童・生徒ならではのユニークな視点や工夫が見られる。
・調査結果がわかりやすくまとめられている
以上に該当する作品で小・中学生合わせて計４点まで。

なお、作品が展示されたすべての児童生徒には、毎年賞状と参加賞が贈られている。

展示された作品

出張事業

市内の小中学校からの依頼により、当館学芸員が学校に出向いて授業を行う出張授業も、学校と連携した重要な事業の１つである。児童・生徒が地域学習をする中で、地域のことを専門に調査研究している学芸員から話を聞くことは、子どもたちの関心を高める効果が大きい。

授業の内容としては、これまで「総合的な学習の時間」における地域学習の導入として、地域の歴史の概要や調べ方を説明するものが多い。平成24年度には教科学習の依頼がなくなったが、当該年度は、平成23年度に発行された飯能市郷土学習資料『私の誇るふるさと飯能』を活用した授業（道徳）を初めて実施した（ただし教員とのティーム・ティーチング）。

なお、例年依頼がある授業については、児童・生徒の反応等を参考にしながら、教材を替えるなどして適宜その改善に努めている。

No.	実施日	学　校　名	学年	科目	テーマ	内　　容	担当	人数
1	5/15(水)	名栗中学校	全学年	総合	名栗地区の特徴	林業や西川材・民俗・文化などについて説明した。	村上	56
2	5/23(木)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の製作体験	縄文土器について解説をしたあと、実物を参考にしながら粘土で縄文土器を製作した。	村上	99
3	7/5(金)	加治小学校	3	総合	加治の自まんを見つけよう	加治地区の古い写真や地域にある石仏、寺社などについて解説した。	金子	98
4	7/10(水)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の焼成体験	5月23日に各自製作した土器を校庭で焼成する指導をした。	村上	99
5	7/12(金)	飯能第一小学校	5	総合	伝えよう！飯能の昔発見	総合的な学習の導入として学校周辺の「古いもの」と方言について概要を説明した。	柳戸	130
6	12/5(木)	原市場中学校	3	総合	「原市場創造計画～人のために、地球のために何ができるか～」	12人の生徒が行った原市場地区の未来をより魅力的な地域とするための提案について指導講評を行った。	尾崎	69
7	12/6(金)	飯能第一小学校	2	道徳	郷土資料「私の誇るふるさと飯能」活用授業	地域に住む人々が助け合って災害から飯能を守ってきたことを学ぶ授業で、関東大震災の際に東京の人々を助けるために行動を起こした飯能の人々について説明した。	尾崎	78
8	2/6(木)	原市場小学校	3	総合	原市場むかしむかし	原市場地区の歴史と小学校の移り変わりなどについて、「飯能郷土史かるた」などを教材に説明した。	尾崎	38
9	2/14(金)	美杉台小学校	3	総合	飯能地方の宝物や名所について	「飯能郷土史かるた」などを使いながら、飯能市の文化財について説明した。	尾崎	15

合計のべ人数　**682人**

来館しての学習

当館の学芸員が学校に出向いて行うのが出張授業であるのに対し、それとは逆に、学校の児童・生徒が特定のテーマを学習するために来館することもある。その代表的なものは毎年１～２月に実施している小学３年生見学対応であるが(40頁参照)、それ以外にも下の表のような学習を目的とした見学があった(調べ学習等のために数人で来館した見学やレファレンス等は除く)。

来館しての学習は、出張授業と比べるとより多くの収蔵資料や展示資料を活用できる利点があるが、学校から当館までの交通手段の確保に問題があり、その機会は増えていない。

No.	実施日	学　校　名	学年	科目	テーマ	内　　容	担当	人数
1	7/5(金)	南高麗小学校	3	社会	西川材に関わる学習	シンボル展示「筏」および常設展示の「山のくらし」を使って西川材の歴史を説明し、西川林業の道具についてのクイズを行った。	村上	9
2	10/8(火)	原市場小学校	3	社会	林業・原市場の文化財に関する学習	常設展示の「山のくらし」のコーナーで西川林業を、「乱世を生き抜く」のコーナーで市内の文化財の説明を行った。その後学習研修室にて原市場地区の文化財・寺社等について説明した。	村上	38

合計人数　**47人**

中学生社会体験チャレンジ

本市の中学１年生は、勤労の尊さや働く意義を学び、正しい職業観を身につけるために、市内の事業所や公共機関等で３日間、職場体験をする「中学生社会体験チャレンジ事業」に参加する。

当館でも毎年生徒を受入れ、博物館の業務を体験してもらっている。外から見ただけではわからない裏方の作業を体験することにより、その大変さや喜びを実感してもらうだけでなく、当館の役割や学芸員の仕事の内容を、本人はもちろんその保護者に伝えることにも役立っている。

No.	実施日	学　校　名	人数	内　　容
1	11/19(火)～21(木)	加治中学校	2	館内外の清掃や資料の整理、頒布図書の在庫確認など
2	12/3(火)～5(木)	飯能西中学校	2	館内外の清掃や資料の整理、小学3年生見学用学習ノート製本など
3	1/22(水)～24(金)	飯能第一中学校	2	小学3年生の見学対応や資料の整理など

合計人数　**6人**

資料・施設の利用

収蔵資料の利用（閲覧・貸し出し）

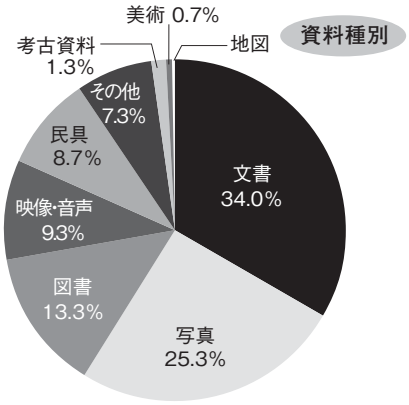
当館の収蔵資料は、当館主催の展示会や講座、学習会などに使われるほか、資料を劣化させない範囲で市民や学習サークルなどの団体に利用してもらっている。平成25年度は150件の利用があった。

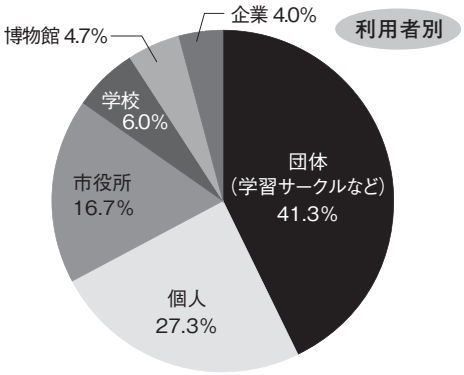
収蔵資料の利用点数は、平成14年度以降コンスタントに1年100件を超えていたが、平成24年度は10年ぶりに100件を下回った（85件）。しかし、当該年度は150件となりこの10年間では最も多い件数となった。理由としては、平成25年度は本市が昭和29年に市制施行してちょうど60年の節目の年にあたり、富士見・美杉台・名栗を除く10ヶ所の地区行政センターで、市制施行60周年記念写真展が開催された点が挙げられる。

平成16年度以降、この10年間の資料利用件数を見ると、利用されている資料の種別では、古文書を中心とする文書は4割を超え、多い年には56%に達している（平成23年度）。このうち、当館を拠点に活動している古文書同好会の利用は年間30件程度あり、継続した学習活動が資料の利用につながっていることがわかる。また、10年間でみると写真は17%、図書は19%となり、これらを合わせると資料利用の9割となる。一般的に博物館の場合、市民に資料を熟覧していただく機会は想定されていない点を考えれば、当館の資料利用件数が多いのはアーカイブズの機能によるものであり、当館の実態としては、県内では八潮市立資料館や入間市博物館などと同様「文書館機能を有する博物館」ということになる。

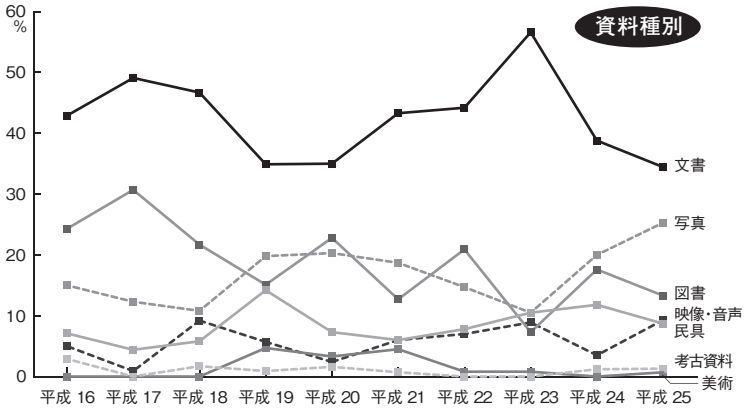
また利用者別の内訳でいえば、学習サークルなどの団体利用は10年間でみると28%を占め、全体として増加する傾向にあるのに対し、個人は逓減傾向にある。また飯能市役所の職員による利用は年度によりばらつきが見られるものの、10年間では12%、多い年では2割を超え、当館がもっている情報の行政的価値への理解が定着しつつあるように思われる。一方で、学校の利用は横ばいで、学校教育での利用の機会の増加が課題となっていることは、このことからも裏付けられる。

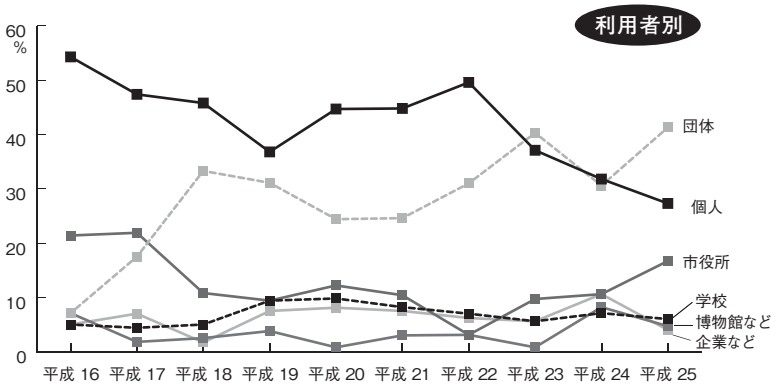
平成25年度の資料利用





10年間の資料利用





○平成25年度資料利用一覧

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	写真「〔筏流し〕」	1	株式会社ハウフルス	テレビ東京「出没！アド街ック天国」制作	4/5～5/4
2	須田家文書「酉年日記」・「庚戌年日記」	2	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/6
3	『埼玉県史 資料編5中世1』	1	個人	研究	4/9
4	中村正夫家文書「御普請書足附帳」など	5	個人	研究	4/11
5	写真「岡部運送店新春初荷風景」	1	狭山市立博物館	馬車鉄道ジオラマ作成の参考	4/11
6	『写真集清瀬の三六五日』など	3	個人	同窓会準備	4/11
7	須田家文書「酉年日記」・「庚戌年日記」	2	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/12
8	堀越家文書「流行色見本」など	15	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	4/14
9	『飯能市郷土館研究紀要第2号』など	2	個人	宮寺氏の調査	4/18
10	カセットテープ「飯能木挽き唄」	1	個人	調査	4/18～5/17
11	レコード「新飯能音頭」	1	個人	催し物準備	4/19～24
12	『伊奈氏一族の活躍』	1	個人	代官調査	4/25～5/9
13	カセットテープ「中央通り音頭」など	5	「飯能の“みんよう”」保存会	当館協賛事業開催	4/26
14	中村正夫家文書「乍恐以書付御訴訟奉申上候」	1	個人	地域研究	4/26
15	平成25年4月実施出前講座「飯能の水力発電」パワーポイントデータ	1	飯能ケーブルテレビ株式会社	「飯能日高街コロンブス」制作	4/26～5/3
16	須田家文書「庚戌年日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/27
17	足踏脱穀機	1	個人	ものづくりの参考	5/1
18	砲弾	1	自由の森学園高等学校	日本史授業の教材	5/1～9
19	『大日本近世史料』	7	個人	研究	5/4
20	須田家文書「庚戌年日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/4
21	中村正夫家文書「御普請書足附帳」など	2	個人	調査	5/9
22	須田家文書「庚戌年日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/10
23	『化粧』・『装飾古墳の世界』など	5	個人	調査	5/10
24	写真「八王寺所蔵牛頭天王坐像」など	8	個人	研究	5/10～6/7
25	「文化財時報」	1	個人	秩父市上町齋藤医院調査	5/14
26	須田家文書「庚戌年日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/18
27	「杉」・「檜」標本	2	個人	エコツアー体験西武塾開催	5/19
28	堀越家文書「借用証書」など	15	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	5/19
29	「東飯能駅写真」ほか写真パネル・解説パネルなど	42	埼玉りそな銀行飯能支店	新店舗内での展示	5/21～7/31
30	カセットテープ「飯能音頭2005」	1	個人	飯能音頭について知る	5/28～30
31	『明治の女丈夫　田中かく子の生涯』・『飯能人物誌』	2	精明郷土史研究会	人物史調査	6/1
32	須田家文書「庚戌年日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	6/1
33	須田家文書「亥日記」(コピー)	1	古文書同好会	古文書学習テキスト作成準備	6/1～5
34	所蔵絵画カード「富山芳男Ⅰ」など	2	個人	研究	6/2
35	『飯能の住民が燃えた時』	1	精明郷土史研究会	郷土史研究	6/4
36	須田家文書「亥日記」	1	古文書同好会	テキスト原本のコピーと原文書の照合	6/5
37	『月報名栗川』	1	八千代市郷土歴史研究会	研究	6/6
38	『子権現・子神一覧表』	1	八千代市郷土歴史研究会	資料収集	6/6
39	特別展「中山氏と飯能・高萩」図録PDFファイル	1	飯能市友好都市交流委員会	高萩市との交流記念誌作成	6/6～11
40	堀越家文書「火災保険申込書」など	14	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	6/9
41	カセットテープ「中央通り音頭」	1	個人	踊りのため	6/11～14
42	須田家文書「庚戌年日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	6/15

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
43	「写真でたどる飯能市の50年」写真パネル・写真データ	36	飯能中央地区行政センター	写真展準備	6/19～7/5
44	DVD「森林をつくる」	1	NPO法人西川木楽会	総会の開催	6/20～28
45	ビデオ「埼玉りそな銀行飯能支店のあゆみと飯能の今昔」	1	飯能会（埼玉りそな銀行OB会）	埼玉りそな銀行OB会で映写	6/20～7/4
46	拍子木・火のしなど	27	名郷味市実行委員会	名郷味市で展示	6/21～7/8
47	鉄瓶・炭火アイロン	2	埼玉県立飯能高等学校	中学校への出前授業	6/21～28
48	文書ファイル「所蔵写真電子化事業（緊急雇用）平成24年度」など	2	飯能市役所広報情報課	委託業務の参考資料	6/21～12/28
49	写真「上名栗第一尋常高等小学校校舎全景」	1	美杉台地区行政センター	事業PR用チラシ・センターだより作成	6/24
50	『中山の区画整理』	1	個人	調査	6/25
51	「飯能音頭/若い奥武蔵」などレコード・テープのジャケット写真	20	「飯能の“みんよう”」保存会	「飯能の“みんよう”を31曲踊ります」ポスター作成	6/30～7/31
52	炭火アイロン	1	はんのう座	芝居の小道具製作の参考	7/4
53	須田家文書「庚戌年日記」・「亥日記」	2	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	7/4
54	写真「第一飯能尋常高等小学校高等科卒業生」など	22	飯能第一小学校PTA	140周年記念事業	7/4～11/19
55	写真「市制施行」など	60	飯能中央地区行政センター	市制施行60周年記念事業開催	7/5～23
56	ビデオ「埼玉りそな銀行飯能支店のあゆみと飯能の今昔」	1	埼玉りそな銀行飯能支店	新築移転記念セミナー開催	7/5～24
57	須田家文書「庚戌年日記」・「亥日記」	2	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	7/6
58	写真「八高線ディーゼル車開通記念」など	12	飯能中央地区行政センター	市制施行60周年記念事業開催	7/8～23
59	「原市場小唄」などジャケット写真	4	「飯能の“みんよう”」保存会	「飯能の“みんよう”を31曲踊ります」ポスター・リーフレット作成	7/10～31
60	須田家文書「庚戌年日記」・「亥日記」	2	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	7/12
61	堀越家文書「年中行事」	1	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	7/14
62	砲弾	1	飯能市教育委員会	職員研修	7/19～23
63	レコード「秩父音頭・奥武蔵木挽歌」	1	「飯能の“みんよう”」保存会	音と踊りの確認	7/21～8/10
64	飯能第一小学校5年生出張授業「伝えよう！飯能の昔発見」パワーポイントデータ	1	飯能市立富士見小学校	教育課程研究協議会の資料	7/23
65	写真アルバム「市史　社寺教会編」	6	精明郷土史研究会	展示写真選定	7/27
66	千歯扱き・足踏脱穀機・唐箕など	29	飯能まちなかを元気にする会	中心市街地活性化「まちなか交流事業」開催	7/28
67	写真「飯能村絵図」	1	飯能市教育委員会生涯学習課	夏休み親子文化財めぐりの配布資料作成	7/31～8/6
68	写真「水原秋櫻子条幅」など	3	さいたま文学館	企画展「近代俳句の革命児水原秋櫻子」のポスター・図録など作成	8/9～12/1
69	堀越家文書「年中行事」	1	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	8/11
70	『統計はんのう（昭和59年度）』など	11	個人	夏休みの自由研究	8/15
71	『おらがほうの標準語』・『続おらがほうの標準語』	2	個人	夏休みの自由研究	8/22
72	平沼家文書「変事出来ニ付心得覚記」	1	個人	研究	8/23
73	中村武雄家文書「御改革取締方御教諭御請連判帳」など	20	個人	博士論文作成	8/31
74	須田家文書「亥日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/4
75	写真パネル「第一中学校体育館落成」など	12	第二区地区行政センター	市制施行60周年記念写真展開	9/4～25
76	写真「吉良蘇月句碑」など	11	さいたま文学館	企画展「近代俳句の革命児水原秋櫻子」のポスター・図録及び写真パネル作成	9/4～12/1

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
77	飯能市役所都市計画課寄託「〔ムーミン谷建設了承ニ付書状〕」など	7	飯能市役所子ども家庭課	北欧視察団のあけぼの子どもの森公園視察対応	9/6
78	須田家文書「亥日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/7
79	『ふるさと加治』	1	個人	郷土学習	9/7
80	堀越家文書「年中行事」	1	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	9/8
81	写真パネル「皇太子殿下ご夫妻来飯」など	26	吾野地区行政センター	市制施行60周年記念写真展開催	9/11～10/29
82	須田家文書「亥日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/13
83	写真「有間山にて木馬出し」など	4	NHKさいたま放送局	NHK総合テレビ「首都圏ネットワーク」制作	9/14
84	「水原秋櫻子添削投句票」など	10	さいたま文学館	企画展「近代俳句の革命児水原秋櫻子」開催	9/18～12/7
85	『加治の今昔』・「入間川の橋-2」	2	個人	郷土学習	9/19
86	須田家文書「亥日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/21
87	浅見家文書「〔関東御取締へ差出候書付綴〕」など	77	個人	調査・研究	9/27
88	『名栗村史料目録　第2集』	1	個人	調査・研究	9/27～10/31
89	須田家文書「亥日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	10/5
90	特別展『飯能炎上』図録	1	個人	エコツアーガイドの資料	10/6～12/27
91	「お月見」写真パネル	1	個人	エコツアーガイドの資料	10/9～12
92	DVD「奥武蔵“みんよう”物語」	1	個人	自治会の会合で映写	10/10～23
93	唐箕・ガーコン	4	はんのう市民環境会議	米の収穫	10/11～14
94	写真「昭和20年代の飯能駅周辺」など	2	飯能市役所広報情報課	武蔵野銀行ぶぎんレポート作成	10/14
95	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	10/18
96	須田家文書「亥日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	10/18
97	堀越家文書「年中行事」	1	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	10/20
98	森田永雲作囃子面	5	飯能市市民活動センター	飯能まつり展開催	10/23～11/6
99	写真パネル「飯能駅・間野間にバスが開通」など	7	南高麗地区行政センター	市制施行60周年記念写真展開催	10/24～29
100	写真パネル「信号機が初めて設置される」など	7	吾野地区行政センター	市制施行60周年記念写真展開催	10/25～29
101	写真パネル「市制施行」など	42	精明地区行政センター	市制施行60周年記念写真展開催	10/29～11/12
102	平沼家文書「差上申御受書之事」など	51	個人	調査・研究	10/31
103	「振武軍旗」・「振武軍廻文」など	3	埼玉県立歴史と民俗の博物館	特別展「屋根裏部屋の博物館」調査	11/6
104	カセットテープ「小沢千月民謡集（一）」・「飯能民謡」	2	個人	民謡研究	11/7
105	写真パネル「小岩井浄水場完成」など	6	第二区公民館	市制施行60周年記念写真展開催	11/7～15
106	須田家文書「亥日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	11/8
107	写真パネル「元加治村分離」など	37	加治東地区行政センター	市制施行60周年記念写真展開催	11/15～26
108	写真パネル「市制施行」など	37	原市場地区行政センター	市制施行60周年記念写真展開催	11/15～12/5
109	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	11/16
110	写真「中央通り舗装工事」など	5	飯能市役所下水道課	はんのう生活祭で展示	11/16
111	写真パネル「元加治村分離」など	37	双柳地区行政センター	市制施行60周年記念写真展開催	11/18～12/4
112	写真パネル「東吾野村の解散式」など	10	東吾野地区行政センター	市制施行60周年記念写真展開催	11/20～12/12

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
113	『WITH 50YEARS EXPERIENCE INNOVATE THRU NEXT50』など	2	個人	研究	11/23
114	『秩父甲州往還』・『名栗の歴史（上）』	2	個人	古道調査	11/27
115	シンボル展示「筏」（写真）	1	東吾野小学校	授業用の教材	11/28
116	写真「台風で被害を受けた原市場小学校」など	8	原市場小学校PTA学年委員会広報部	広報誌「せせらぎ」作成	11/30
117	写真パネル「市制施行」など	15	加治地区行政センター	市制施行60周年記念写真展開催	12/6～26
118	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	12/14
119	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	12/21
120	当館所蔵飯能焼資料カード	6	駿河台大学野村ゼミナール	ゼミ展示資料選定	12/23
121	写真「昭和29年当時の広小路付近の商店街の様子」など	3	飯能市議会広報委員会	市議会だより作成	12/25～1/31
122	昭和35年飯能市都市計画図	1	個人	大学の課題作成	12/26
123	「牛頭天王山絵葉書」	8	八王寺	八王寺の歴史を記録	1/7
124	株木遺跡出土石皿（常設展示資料）	1	飯能市教育委員会生涯学習課	資料見学対応	1/8～10
125	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	1/11
126	ひな人形	1	絹甚運営委員会	飯能ひな飾り展で展示	1/16～3/9
127	堂前遺跡出土大木式土器	1	富士見市立資料館	富士見市立水子貝塚資料館企画展「旅するモノたち」に展示	1/20～4/9
128	くだまき	1	美杉台小学校	国語授業の教材	1/24～30
129	くだまき	1	富士見小学校	国語授業の教材	1/31～2/7
130	町田家文書「御触書請印写」など	9	個人	研究	2/1
131	写真「大通りの風景」など	3	「アニッコ」編集部	「アニッコ」2014年3月号発行	2/7
132	くだまき	1	名栗小学校	国語授業の教材	2/9～21
133	『東吾野郷土誌』	1	個人	市民学芸員研修会準備	2/13～12/1
134	写真「飯能駅」など	10	個人	単行本「西武池袋線」発行	2/14～3/31
135	写真「中山信吉木碑」	1	苫小牧駒澤大学国際文化学部	研究	2/19
136	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	2/22
137	写真「機巻き」など	3	日本民具学会	第140回日本民具学会研究会「民具の保存と活用」開催	2/22～3/1
138	カセットテープ「飯能小唄」	1	個人	元気市開催	2/26～3/5
139	太織りの長着など	7	「飯能の“みんよう”」保存会	「うちおり展と機織り唄」で展示	2/28
140	「振武軍旗」・「振武軍廻文」など	3	埼玉県立歴史と民俗の博物館	特別展「屋根裏部屋の博物館」開催	3/4～5/20
141	カセットテープ「南高麗小唄」	1	“みんよう”南高麗	外観をDVDに収録	3/5～18
142	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	3/6
143	須田家文書「丑日記」（コピー）	1	古文書同好会	古文書学習テキストの印刷	3/8
144	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	3/8
145	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	3/14
146	『青年女子版』4月号	1	個人	昔の食草についての研究	3/16
147	『月報名栗川』	1	飯能市役所エコツーリズム推進室	エコツアーの参考	3/19～20
148	カセットテープ「飯能小唄・武蔵ブルース」など	2	個人	調査	3/20
149	写真「飯能松竹映画館」など	13	飯能リハビリ館	認知症患者のケア	3/20
150	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	3/29

施設の利用

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成25年度は、特別展示室・図書室の利用申請はなかった。

学習研修室は、講座・学習会や定点撮影プロジェクト、市民学芸員といった交流事業など当館の主催事業のほか、市内の小学生や市外からの団体の見学、あるいは他の市町村からの視察の対応などにも使用されている。また、飯能の歴史や地域文化の振興に関わる学習活動を行っている団体、サークルなどに貸出を行っている。年間を通してのこれら部屋の利用率(日単位)は58.7%で、最も高いのが金曜日の82%、次いで土曜日、木曜日の64%である。

○平成25年度学習研修室利用実績

利用種別 ＼ 年度		平成23(2011)年度		平成24(2012)年度		平成25(2013)年度	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数
団体等の利用	恒常的活動（学習サークル）	72	1,036	69	934	92	1,413
	見学・閲覧	9	137	8	12	16	265
	他団体の主催事業等	16	257	16	277	6	82
	小　計	97	1,430	93	1,223	114	1,760
当館の主催事業		80	1,202	77	1,487	78	1,371
合　計		177	2,632	170	2,710	192	3,131
年間利用日数		161日		147日		173日	

◎主な活動団体

古文書同好会・古文書を読む会・ずいひつの会・石仏談話会・多聞の会・飯能郷土史研究会
「飯能の“みんよう”」保存会

◎平成25年度末現在で活動している学習サークル

古文書同好会

設　立　平成３(1991)年４月
目　的　飯能市内の古文書の解読と時代背景の研究及びその活字化。
代表者　中里 和夫
会員数　16人
活　動　毎月第１土曜日・第２金曜日・第３土曜日

多聞の会(仏教美術学習会)

設　立　平成６(1994)年11月
目　的　仏像・仏画・仏教建築など広く仏教及び仏教美術について学習する。
代表者　綾部 光芳
会員数　23人
活　動　8月を除く毎月第３木曜日に例会

石仏談話会

設　立　平成７(1995)年１月
目　的　石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ。
代表者　不在
会員数　12人
活　動　第２土曜日(学習会と見学会)

飯能郷土史研究会

設　立　昭和48(1973)年７月
目　的　郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。
代表者　坂口 和子
会員数　79人
活　動　年６回の例会

「飯能の“みんよう”」保存会

設　立　平成8(1996)年
目　的　飯能地方の民踊をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。
代表者　石井 英子
会員数　26人
活　動　不定期

※平成22年に設立された古文書を読む会(会員９名)は第２・第４日曜日に活動してきたが、９月８日を以て解散し、会員の一部が古文書同好会に合流した。

レファレンスの対応

当館には、様々な問合せが寄せられる。その方法には窓口で直接質問される場合や、電話や電子メールなどがある。

内容は、観光情報や文化財の所在地といったその場で答えられるものから、資料の有無や地域の歴史掘り起こしなど回答に時間がかかるものまで様々である。このうち、その場で回答できた事例についてまとめてみると、手段は窓口が65%、電話が35%で、窓口での1件あたりの対応時間の平均は6.8分、最長30分、電話では平均5.7分、最長30分だった。照会者は大人が8割を占め、子ども(小・中学生)が11%である。内容でみてみると、本市域の歴史事象にかかわるもの(右表の「地域」)が51%、当館の「事業」に関わるものが10%、「観光」案内の類が38%であった。

また、回答に時間がかかった場合は、その経過や回答内容などを「レファレンス対応記録票」に記入している。その理由は、それが特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じような問合せがあった場合の時間や作業の無駄を省くためである。平成25年度にてレファレンス対応記録票に記入された内容は下表のとおりであるが、電子メールでの問合せが前年度の3件(9.6%)から10件(43.4%)へと飛躍的に増加している。

【照会者別】

照会者	窓口	電話	合計
一般(高校生以上)	85	28	113
子ども(小中学生)	14	1	15
職員	2	1	3
博物館	0	1	1
その他	1	5	6
総　計	102	36	138

【内容別】

照会者	窓口	電話	合計	割合
地　域	6	65	71	51.4%
事　業	8	6	14	10.1%
観　光	22	31	53	38.4%
総　計	36	102	138	

○平成25年度レファレンス対応記録一覧

No.	照会日	内　　容	回答日	照会者	手段
1	4/11	当館の展示の現状について	4/17	一般	文書
2	4/21	吾野鉱山落盤事故で亡くなった人の慰霊碑について	5/5	一般	来館
3	4/25	飯能市のシティプロモーションの歴史的背景について	5/8	市職員	E-mail
4	5/8	「山川揚庵先生碑」がなぜあの場所にあるのか、など	5/8	一般	来館
5	5/23	「水道山」の名称の由来について	5/23	市職員	電話
6	5/31	智観寺への中山氏参詣ルートについて	5/31	市職員	電話
7	6/30	能仁寺に墓のある中山照守について	7/5	一般	電話
8	7/10	飯能市内の猫の絵馬について	7/11	一般	E-mail
9	7/30	守田家の歴史を研究する方法について	7/30	大学生	E-mail
10	9/11	中山家範館跡と字名「前田」の土地の関わりについて	9/13	一般	電話
11	9/12	笠縫地区のわさび田について	9/18	一般	E-mail
12	9/13	畑トンネル、監的壕の保存、整備について	10/13	一般	E-mail
13	10/17	昭和10年代に平松に宮様が来た資料があるか	10/22	一般	電話
14	11/16	入間郡飯能町の酒「沢櫻」の醸造元について	11/16	一般	電話
15	11/28	テト馬車の飯能の出発点はどこか	11/29	一般	E-mail
16	1/2	「ボタ」について	1/5	一般	E-mail
17	1/9	八高線ガード入間川右岸で過去浸水があったかどうか	3/6	市職員	電話
18	1/20	能仁寺の関係文書について（森家関係資料）	1/23	一般	E-mail
19	1/21	能仁寺の関係文書について（黒田氏調査）	1/21	一般	E-mail
20	1/23	「飯能」の語源と萩（花木）の関わりについて	1/24	市職員	電話
21	1/28	江戸時代の飯能の産業について	2/1	一般	E-mail
22	2/18	智観寺の中山信吉木碑について	2/18	研究者	電話
23	2/27	子ノ権現・子の神神社に関係する製鉄関連遺跡の有無について	3/4	一般	文書

講師派遣

当館に対しては、市内の自治会や学習団体をはじめ、市役所の各機関などから講師派遣や原稿執筆の依頼がある。本市には、市職員や消防署の職員が市民の主催する学習会などに出向き、行政の取り組みや役立つ情報などについて話をする「学びとHANNO」出前講座があり、近年ではこの枠組みによって依頼されることが多くなってきている。この講師派遣の件数や依頼内容も、地域の文化・歴史を調査・研究する機関としての当館の存在価値を測る、バロメーターとの一つと言えよう。

件数は平成21年度までは、年７、８件であったが、平成22年度10件、平成23年度12件、平成24年度16件と着実に増えてきている。なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項(43頁)に掲載してあるため、それ以外のものについて示すと、下記のとおりとなる。

友好都市交流委員会「友好都市飯能市と高萩市」(№2)

自治会連合会名栗支部「街中の建物案内」(№13)

○平成25年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内　容	対象者	人数	会　場	担当学芸員
1	4/3(水)	15:30～17:00	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「飯能の地理と歴史」	新規採用職員	17	飯能市役所501会議室	柳戸
2	4/24(水)	15:00～15:30	友好都市交流委員会	出前講座「友好都市　飯能市と高萩市」	友好都市交流委員会会員	25	飯能市役所別館2階会議室	柳戸
3	4/25(木)	9:10～10:10	はんのう市民環境会議	出前講座「飯能の水力発電－村人が創った吾野・名栗の水力発電―」	はんのう市民環境会議会員ほか一般	20	当館学習研修室	柳戸
4	7/8(月)	19:00～20:30	飯能中央公民館	地域課題講座「飯能のまちの歴史」	一般市民	14	飯能中央地区行政センター	尾崎
5	7/19(金)	9:30～11:00	飯能第二地区民生委員・児童委員協議会	出前講座「飯能のまちの形成について」	飯能第二地区民生委員・児童委員協議会	21	飯能中央地区行政センター	尾崎
6	8/3(土)	9:15～10:00	飯能市スポーツ少年団事務局	「飯能市と高萩市のつながり」	飯能市スポーツ少年団団員(小学4～6年生男子)・保護者・指導者	32	飯能市民体育館2階会議室	柳戸
7	8/28(水)	18:30～20:00	飯能市役所互助会	水曜イブニングセミナー「飯能を知ろう! 第2弾～パワースポットあります～」	市職員	54	飯能市役所別館2階会議室	村上
8	10/29(火)	9:45～10:25	ちょっとずつの会	出前講座「飯能の水力発電」	ちょっとずつの会	8	原市場福祉センター	柳戸
9	11/7(木)	9:00～16:00	武蔵野会	「飯能市大字上名栗・下名栗を訪ねて」(講義・現地案内)	武蔵野会	39	当館学習研修室・名栗地内	柳戸
10	11/15(金)	13:30～15:00	吾野地区行政センター	「吾野地域の災害史-明治43年の“大水”を中心に-」	一般市民	15	吾野地区行政センター	尾崎
11	11/17(日)	9:00～16:00	飯能市役所互助会	水曜イブニングセミナー(番外編)「飯能のパワースポットに行ってみませんか？」	市職員	10	現地見学会(子の権現・竹寺)	村上
12	11/19(火)	10:45～11:30	ふくしの森サロンやまびこ	出前講座「飯能戦争について」	ふくしの森サロンやまびこ	18	当館学習研修室	尾崎
13	12/5(木)	13:30～15:30	飯能市自治会連合会名栗支部	街中の建物案内	飯能市自治会連合会名栗支部自治会長・副会長	26	当館・絹甚	柳戸
14	12/14(土)	10:10～11:50	社会福祉法人飯能市社会福祉協議会	飯能の歴史・文化・風土について	市民後見人養成講座受講者	49	飯能市総合福祉センター	柳戸
15	12/16(月)	9:20～10:40	駿河台大学	小規模博物館の学芸員の実状	駿河台大学博物館実習受講学生	17	駿河台大学	柳戸
16	2/6(火)	9:45～10:30	原市場小学校	出前講座「江戸時代の家族」	原市場小学校3年生	38	原市場小学校	尾崎
17	2/12(水)	18:30～20:00	飯能市役所互助会	水曜イブニングセミナー「飯能方面湖水の如し-明治43年の“大水”-」	市職員	31	市民活動センター	尾崎
18	2/25(火)	13:30～15:00	双柳公民館	「古文書にみる精明の江戸・明治」	一般市民	24	双柳公民館	尾崎

合計のべ人数 **458人**

収　集

飯能市郷土館条例第１条に規定されているとおり、当館は地域の歴史、民俗、考古に関する資料やそれに関わる情報を通して、市民が地域の歴史や文化について学習するために設置された社会教育機関である。したがって資料を収集し保存することは当館にとって重要な役割の１つであるといえる。資料の多くは市民からの寄贈によっているが、それは資料寄贈申請書（施行規則様式第５号）の提出とそれに対する資料受領書（同様式第７号）の交付によって成立し、そこで初めて当館の所蔵となる。

このほか、飯能市役所内各課・所、施設からの移管や、購入により資料が取得されることもある。このようにして収集した資料は、市民の財産として永遠に保存、管理していくために整理作業へと送られる。

なお、平成25年度に購入した資料はなかった。

寄贈資料

平成25年度に寄贈を受けた資料は下表の47件、1,252点である。

○平成25年度寄贈資料一覧

（敬称略）

番号	資　料　名	点数	寄贈者名
1	『埼玉縣飯能町市街地全図』・『埼玉縣入間郡飯能町勢一覧（昭和４年）』	2点	吉原　欣一
2	レコード「新飯能音頭」・「名栗川小唄」・「飯能小唄」・「ラヂオ体操の歌」	4点	小川　近
3	花嫁衣裳「江戸褄（黒）」・「下着（白）」・「長襦袢（赤）」・「帯」	4点	佐野　カウ
4	レコード「秩父音頭（小沢千月民謡集）」・「川越舟唄（小沢千月）」など	8点	菊池　好太郎
5	精明青年団関係資料など	3箱	双柳地区行政センター
6	テープ「飯能の民謡」（マスターテープ）など	4点	石井　英子
7	台紙付写真「出征兵士見送り」	1点	大野　哲夫
8	白子焼水甕	1点	井上　至
9	炭焼関係資料、手ノビノコなど	1式	村野　清一郎
10	市庁舎落成記念ふろしき	2点	飯能市役所議会事務局
11	写真ＣＤ-Ｒ「平成15年６月24日合併重点支援地域指定の要望、平成15年７月８日飯能市名栗村合併協議会」など	4点	飯能市役所政策企画課
12	図書『埼玉史談　第１巻　第1・5号』など	46点	双木　清
13	図書『思出草』	1点	入江　武男
14	内裏雛・鎧兜	1式	大矢　勝恵
15	北川尋常小学校校旗・吾野村青年団北川支部旗など	5点	吾野地区行政センター
16	養蚕関係文書	1式	森　清
17	図書『満蒙開拓青少年義勇軍』・『文化学院児童文学史稿』など	5点	上　笙一郎
18	絹甚ほか関係資料	1式	篠原　武治
19	卒業證書・盆など	55点	島田　稔
20	山林種苗組合入間支部文書	24箱	利根川　毅
21	「〔神明神社鳥居石垣修繕祭礼費書上綴〕」など	9点	坂本　勝
22	（飯能町）青年団陸上競技大会優勝杯	2点	小島　良男
23	槍先形尖頭器・宝篋印塔塔内納入品写真	2点	智観寺 中藤栄岳
24	紙焼き写真「〔白鬚神社棟上〕」・「〔白鬚神社前にて記念〕」など	3点	浅見　京子
25	週刊「写真報知」第壱巻第壱号	1点	坂本　勝

番号	資　料　名	点数	寄贈者名
26	御殿雛・雛飾り(7段飾り)	1式	佐野　五一
27	「天保十四年正月吉辰　卯日記」	1点	須田　晴彦
28	『むさし野』昭和23年8月号・昭和24年4月号など	2点	吉良　憲一
29	卒業証書・台紙付写真など	1式	嶋崎　季子
30	古文書・図書『飯能の灯篭絵』・飯能銀行創業二十年記念茶托など	1式	双木　利八郎
31	唐箕・ガーコン	2点	土屋　昇
32	台紙付写真「〔大相撲巡業〕」・「〔筏流し〕」など	15点	清水　尚子
33	電話機・結婚式の衣装など	1式	小林　富夫
34	佐野國太郎家(旧名栗村13区)文書	752点	佐野　まつの
35	飯能町楽影会写真展覧会陳列品目録	3点	小山　健仁
36	梯子(大・小)・セイタなど	7点	佐野　たつの
37	掛時計	1点	大窟　止男
38	支那事変従軍記念アルバム・日本赤十字社入社の書類など	1式	内田　一彦
39	大島紬(はんてん)	1点	石井　英子
40	あけぼの子どもの森公園建設に関わるトーベ・ヤンソン関係書状	10組	飯能市役所都市計画課
41	写真フィルム・フォルダ(広報担当撮影)	74箱	飯能市役所広報情報課
42	『立小便小僧』	1点	五百木　健
43	飯能名所絵葉書・飯能名勝絵葉書など	6点	滝　錬太郎
44	陣羽織	1点	須田　忠男
45	飯能郷土史かるた絵札「い」原画／飯能児童かるた	5点	飯能市立図書館
46	DVD「“みんよう”「南高麗小唄」物語」	2点	中村　千代子
47	町田昭好家(旧名栗村4区)文書	174点	町田　美智代

北川尋常小学校校旗(No.15)

山林種苗組合入間支部文書(No.20)

整理（情報化）

当館が収集した飯能市の歴史や文化に関する様々な「モノ」は、そのままでは博物館の資料とはなりえない。「整理」とは、資料についての情報を抽出し利用可能なものにする作業で、この過程では様々な記録が作成される（ドキュメンテーション）。

当館の場合、資料寄贈申請書または資料購入調書が資料を受け入れる際に作成される最初の文書である。これを起点に1点ごとに資料カードが作成される。カードの書式や与えられる資料番号は、資料の種別によって異なり、古文書・典籍を除きすべてのカードには資料写真も添付される。当館は現在も紙媒体の資料カードが基本であり、それに記載された情報の一部をPC上の目録に入力し検索の手段としている。すなわち整理作業とは、ドキュメント(document)作成を通した資料の情報化にほかならない。

長年の課題として、「もの」に付属しない地域の情報（例えば聞き取り結果や地域遺産の所在情報）を組織で共有化し引き継いでいくためのシステムづくりがあったが、当該年度より近世村を単位としたフォルダーを作り、これらについての紙ベースの情報をそこに収納するようにした。また、昨年度の所蔵写真電子化事業によって開館以来これまで撮影した写真のほぼすべてについての検索システムが完成した。それを受けて、今年度から撮影した写真はこのシステムに登録するための一元管理をしていくこととなった。

このデータの維持管理は、情報（管理）担当の学芸員が行うこととなっているが、未だ十分に機能しているとはいえない状況である。

●資料整理の概要

①民具

民具とは、一般的には人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具を指すが、当館の場合、古文書・典籍、古写真、絵画、工芸、考古に属さない資料のすべてがこの範疇で整理されている。

民具が搬入されるとまず受け入れ台帳に登録され、番号が与えられる。それが資料番号となる。そして資料名・寄贈者氏名・住所、寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りした製作時の状況や使用した時期、使い方、その大きさや材質などの情報がカードに記録される。平成25年度は34点の資料を整理した。

なお、収蔵している民具のうち、西川材生産に関係する用具448点は埼玉県有形民俗文化財に指定されている。

②古文書・典籍（文献資料）

紙に文字や記号、図像などが記録されている資料がこれに該当する。地域史料と呼ばれているものの中心を占めるものである。これらの多くは昭和49年から昭和62年まで行われた飯能市史編さん事業の過程で収集されたものである。

現在、当館では特別収蔵庫における史料の配架は史料群別となっており、所蔵文書目録のデータはエクセル(マイクロソフト社)で管理している。ただし、このデータは大部分が市史編さん事業の際に作成された仮目録であるため、平成23年度よりそれに内容についての情報や史料の劣化状況についての所見を加えてデータベースソフト（マイクロソフト社のアクセス）上で統合し、誤りを正して表記を統一する作業を行っている。この作業は、目録刊行の準備作業であるとともに、検索の精度を上げていくことにもつながる。また、それと並行して適宜、中性紙封筒、中性紙保存箱への詰め替えも行っている。

なお、当該年度は、新たに受け入れた4つの史料群と、

○平成25年度文書整理実績

史料群名	整理点数	区分	受入年度
大河原文子家（飯能・購入）	5	新	平成23（2011）
原町神明神社氏子	9	新	平成25（2013）
坂本勝家（八幡町）	1	新	平成25（2013）
小山次郎家（久下分）	3	追	平成25（2013）
中村勝家（熊本市）	4	新	平成25（2013）
合　計	22		

※新＝新規受入（未整理分）　追＝追加受入

追加で寄贈を受けた1つの史料群についてカードを作成し、目録データの入力を行った。全部で5つの史料群、22点しか整理できなかったことになる(54頁表)。

③古写真

当館で収蔵している写真資料は個人所蔵の写真を複写させていただいたものと、館で所蔵しているものの2種類に分けることができる。これらの資料はいずれも、②と同様に所蔵者(旧所蔵者)を単位に整理をおこない、写真1点ずつカードを作成し、所蔵者などからの聞き取りや他の資料から得られた被写体についての情報を記録している。

また、前年度の所蔵写真資料電子化事業により写真資料検索システムが導入されたことによって、タイトル、所蔵者、撮影年月日、撮影場所などの項目から古写真の画像データを容易に探し当てることができるようになった。

④絵画

当館では軸装や額、屏風などに仕立てられた日本画に加え、本市に在住または、ゆかりのある作家の油彩、デッサンなどの近代絵画を収蔵している。これらについては1つの作品ごとにカード化して管理している。

このうち近代絵画168点は、精明小学校の余裕教室に絵画収蔵棚を設置して絵画保管室とし、平成25年1月からここでの保管を開始した。しかし、平成24年度の予算ではすべての棚を製作できなかったため、当該年度に残りの絵画収蔵棚を作成し、平成25年10月27日に216点を新たに移送した。現在342点がここに保管されている。

当館一般収蔵庫からの絵画の搬出作業

⑤工芸

工芸資料には、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションや落合寿親の手による香合、接収刀剣類を含む日本刀などがある。日本刀については、燻蒸休館中の7月20日に手入れを行った。

⑥考古資料

当館で収蔵している考古資料は、市民から寄贈を受けた飯能焼原窯表採資料や板碑などである。なお、教育委員会生涯学習課による発掘調査で得られた考古資料は、生涯学習課が管理する施設等で保存している。

⑦その他の資料

このほかに、他の博物館、市の機関などが発行した図録、報告書、要覧などの図書類がある。これらについては発行機関別に受け入れ台帳を作成している。また、本市に関係するビデオソフトやDVD、記録映像として価値があるもの、さらにはレコードやテープ、CDといった音声資料も収蔵している。これらの資料についても台帳が作成され、利用できるようになっている。

このうち、喫緊の課題である磁気テープのデジタル化(メディア変換)はまだ着手できていない。

○カード作成もしくは目録登録済資料点数一覧

(平成26年3月現在)

民具	古文書	古写真	絵画	古美術	工芸	文学	考古	映像	レコード	テープ	図書	合 計
5,548	44,067	5,664	446	1	277	26	1,764	235	866	84	15,447	74,425

●収蔵資料目録6(民俗資料目録その2)『護符・版木など』の刊行

56ページの表にあるとおり、当館では平成14年度からほぼ隔年で5冊の収蔵資料目録を発行してきた。6冊目は、信仰に関係する資料である護符・版木および護符の印刷原版を対象にした。民俗資料目録としては2冊目となる。

本目録を作成する契機となったのは、当館の館長であった故加藤樹氏から、護符を寄贈いただいたことによる。3,475点を数え、調査の結果、代参講など講に加入していた寺社の護符を中心に、北は岩手県の中尊寺、南は宮崎県の鵜戸神宮に至る全国各地の寺社の護符が集められており、年代的には幕末から昭和40年代後半頃までのものとわかった。

加藤樹家護符が加わったことにより、当館収蔵の護符、

版木・護符の印刷原版は総数3,696点となった。かなりまとまった数になり、活用を促進するため整理する意義もあろうと考えたことから、民俗資料目録として刊行したものである。

○当館の収蔵資料目録一覧

No.	種類	タイトル	発行年月
1	写真資料目録1	写真資料目録Ⅰ　－明治～昭和前期－	平成15(2003)年3月
2	写真資料目録2	写真資料目録Ⅱ　－昭和・平成－	平成17(2005)年3月
3	民俗資料目録1	飯能の西川材関係用具	平成19(2007)年3月
4	文書目録1	武蔵国高麗郡矢颪村中村正夫家文書目録	平成21(2009)年3月
5	写真資料目録3	写真資料目録Ⅲ　－名栗地区－	平成23(2011)年3月

保　存

●新収蔵資料の燻蒸

当館では、平成15年度から新規に収集した資料をビニールシートで覆う被覆燻蒸を実施している。年1回荷解室で行い、資料はその後に収蔵庫に収納される。

平成25年度は7月11日(木)に準備として燻蒸対象物を移動し、12日(金)に養生作業を行った。16日(火)午前10時から投薬、18日(木)午前10時まで48時間燻蒸処理をし、その後排気を行った。使用薬剤はエキヒュームSで、東化研株式会社に委託して行われた。この間、7月16日(火)から19日(金)までを臨時休館とした。

また、名栗民俗資料保管庫(旧名栗村森林組合事務所)では、ブンガノンを用いての殺虫燻蒸を行った。7月25日(木)午前10時より目張り作業を行い、午前11時過ぎから投薬を開始した。翌26日(金)の午前10時から排気を開始し作業は正午過ぎに終了した。

荷解室に集められた燻蒸対象資料

●当館・名栗村史史料室の環境調査

当館では、収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象となるのは、特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・常設展示室・特別展示室・展示ホールで、昆虫生息調査50ヶ所(歩行性昆虫トラップ44・飛翔性昆虫トラップ6)、空中浮遊菌調査8ヶ所、表面付着菌調査が5ヶ所である。また名栗地区行政センター2階にある名栗村史史料保管室では、昆虫生息調査10ヶ所(歩行性昆虫トラップ９・飛翔性昆虫トラップ1)、空中浮遊菌調査２ヶ所、表面付着菌調査が1ヶ所である。

平成25年度は1回目を6月19日(水)から7月10日(水)まで、2回目を9月4日(水)から10月1日(火)までの期間で実施した。調査の結果、一般収蔵庫と名栗村史史料保管室ではチャタテムシが捕獲され、経過観察を行ったが資料への被害は確認されなかった。

●歴史公文書の収集と保存

飯能市文書管理規則第40条では「前条第1項の規定により廃棄を決定した文書のうち、歴史資料として重要であると認められるものは、主管課長が教育委員会及び庶務課長と協議のうえ、教育委員会に移管するものとする。」と規定され、飯能市教育委員会文書管理規程第41条で「前条第1項の規定により廃棄を決定した文書のうち、歴史資料として重要であると認められるものは、主管課長が郷土館長と協議のうえ、郷土館に移管するものとする。」とされており、廃棄対象文書のうち歴史資料として重要な文書の収集は当館の業務の一つとなっている。

本市では、保存期間が3・5・10・永年の文書は委託業者の倉庫に保管されており、このうち保存年限が過ぎた文書は年度初めに業者の倉庫から運び出され、各課で確認後、廃棄文書として市役所第二庁舎の一角に集められる。当館ではこれら廃棄対象となった文書から歴史資料となりそうな文書を選び出している。ただし、これは廃棄決定直後の短期間のうちに選別する作業のため、歴史公文書保存のためのあくまで一次選別である。選別した文書は株式会社ワンビシアーカイブスの倉庫に保管委託している。

平成25年度、廃棄対象となった文書は段ボール箱（高26㎝×幅33㎝×奥行21㎝）1146箱分であり、これを平成26年2月12日（水）から2月23日（日）の6日間かけて選別し、106箱分を保存した。廃棄対象文書に対する保存対象文書の割合は9.2%であった。

今後、これらの文書から二次選別をすすめ、保存すべき文書を確定することが課題となっている。

歴史公文書の収集現場

修　復

●大判地図の修復

当館では、飯能市が作成した地図のデジタル化を進め、展示会や展示図録で使う図版の作成や出張授業、出前講座などの教材づくりに供している。このうち、昭和35年7月の測量を図化した市街地を中心とする10,000分の1地図（79.5×109.3㎝）は、現在宅地化されてしまった地区の旧地形が判明する有用なものである。

その地図が、デジタル化作業の過程で破れてしまったため、クリーニング、フラットニングを施したのちにその部分を修復した。また合わせて脱酸処理を行い、中性紙のサポート用紙とともにポリエチレン製貴重資料保存袋に収納した。補修作業は有限会社東京修復保存センターに委託した。

フラットニングの作業

調査・研究

博物館が特別展などの展示や学習会、レファレンスの対応、資料の貸出利用といった教育活動を行っていくためには、調査・研究は不可欠のものである。この場合、その中心が収蔵資料に対するものであることはいうをまたないが、同時に地域博物館が「地域の情報センター」として機能していくためには、地域の歴史、文化的な事象についての調査研究を行うことも非常に重要である。

現在のところ、当館における調査研究活動は、特別展開催のための資料調査や、研究紀要の刊行に伴う単発的なものにとどまっていて、それは各学芸員の問題意識に基づいて行われる。さらに当館の存在意義を示していくためには、地域の課題や市民の興味、関心により近づいたテーマ設定が求められるように思われる。

特別展に関する調査

特別展に関する調査は、博物館にとって最も特徴的な事業である展示に直結するため、集中的に取り組むことができる。本来なら、中長期的な事業計画の視点、あるいは地域課題の観点から調査研究の内容が設定されるべきであるが、学習活動に比重を置いた活動を展開せざるを得ない現状では人員、予算もそこに向けられ、それに取り組むことができていない。これは開館以来の課題ともいえる。

平成25年度は、特別展「飯能方面湖水の如し」準備のための調査を下記のとおり実施した。特に東日本大震災で明らかとなった災害記憶を如何に後世に伝えるか、という観点から災害遺構に関する調査を意識して行った。

1/9　中央区立郷土天文館（資料調査）
3/7　さいたま文学館テーマ展「関東大震災と東日本大震災」見学
4/12　兵庫県・北淡震災記念公園見学
4/13　神戸市・人と防災未来センター見学
4/18　埼玉県立文書館（資料調査）
5/10　市立図書館（昭和の災害記録調査）
5/28　市立図書館（文化新聞災害記事写真撮影）
5/29　市立図書館（文化新聞災害記事写真撮影）
5/30　旧大字南（明治43年土砂災害調査）
6/4　大字上名栗名郷・湯ノ沢（明治43年土砂災害調査）
6/6　大字坂石町分（明治43年水害調査）
6/10　大字坂石町分（平成11年吾野駅南側土砂災害調査）・南（明治43年土砂災害調査）
6/22　旧大字南（明治43年土砂災害調査）
6/26　大字坂石（平成11年吾野駅南側土砂災害調査）
6/28　埼玉県立文書館（資料調査）
7/1　茨城県つくば市・防災科学技術研究所（資料調査）
7/2　国立国会図書館（明治43年水害関係新聞調査）
7/5　市立図書館（文化新聞災害記事写真撮影）
7/10　市立図書館（文化新聞災害記事写真撮影）
7/12　新潟県長岡市（中越地震震災遺構調査）

中越メモリアル回廊おじや震災ミュージアムそなえ館

7/13　大字南（明治43年土砂災害調査）
7/17　防災科学技術研究所（資料調査）
7/19　埼玉県立浦和図書館（文献調査）
7/22　大字中藤中郷（明治11年9月土砂災害調査）
7/29　大字北川（明治43年水害調査）
8/14　大字原市場（昭和22年カスリーン台風水害調査）
8/20　埼玉県飯能県土整備事務所（砂防ダム調査）
8/27　新宿区・震災伝承研究会事務局、埼玉県立文書館（資料調査）
8/29　行田市郷土博物館（資料調査）
8/30　大字南川（花桐地区災害調査）
9/3　宮城県多賀城市・石巻市ほか（東日本大震災調査）

9/4　宮城県女川町・南三陸町・岩手県大船渡市など（東日本大震災調査）
9/5　岩手県宮古市・宮城県気仙沼市リアス・アーク美術館（東日本大震災調査）
9/7　大字井上（災害記念碑調査）
9/8　旧大字南（明治43年水害調査）
9/17　大字赤沢（昭和22年カスリーン台風水害調査）
9/19　大字上名栗穴沢（明治43年土砂災害調査）

昭和8年津波記念碑（岩手県宮古市重茂半島里地区）

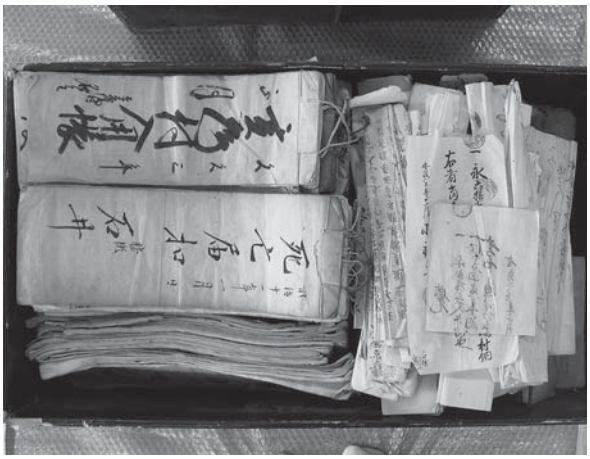
古文書詳細調査

飯能市教育委員会では、平成16年度から21年度にかけて古文書所在確認調査を行ったが、この時には全市域を回りきることができていない。そこで、当館ではその補足調査や、当館で所蔵、もしくは受託している史料の翻刻や内容分析、及び特定のテーマを設定して関係史料の調査を行ってきた。

いっぽうで山間地では、人口減少を食い止めるため地域の魅力を掘り起こし、活性化につなげようと様々な試みが行われている。こうした動きに関連して、名栗村史編さん事業に触発された形で地域の歴史をわかりやすくまとめた本を求める声が当館にも寄せられるようになってきた。それは特に地元の郷土史研究会などの団体による歴史叙述がない地区で切実であるように思われる。

こうした動きをふまえ当館では、まず原市場地区の古文書整理に重点的に取り組むこととした。それに基づき平成26年3月より池田昇氏にお願いし、受託史料である武蔵国高麗郡原市場村の石井家文書の整理及び内容分析に着手した。

そのほか当該年度は、地方史料調査会と合同で8月24日（土）・25日（日）及び3月1日（土）・2日（日）に大字飯能の曹洞宗寺院である能仁寺の文書調査を行った。


原市場村石井家文書の収納状況

地方資料調査会との能仁寺文書の調査風景

刊行物

刊行図書

特別展図録

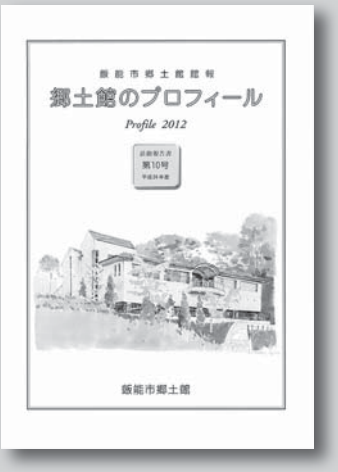
**「飯能方面湖水の如し
ー失われる災害の記憶ー」**

A4判56頁
（平成25年10月13日発行）

収蔵資料目録 6

**（民俗資料目録その2）
「護符・版木など」**

A4判102頁
（平成26年3月20日発行）



飯能市郷土館館報

**「郷土館のプロフィール」
第10号**

A4判68頁
（平成26年3月31日発行）

郷土館だより

「郷土館だより」は、当館の事業を市民により広く知ってもらうための広報誌で、平成13年5月1日に創刊されたものである。その後、年によって発行回数にばらつきがあるものの、年4回季刊で発行することを目標にしている。体裁は庁内印刷による白黒A4判4ページである。

費用の点から、自治会、町内会のご理解とご協力のもと回覧で見ていただいており、平成25年度は、第35・36号を発行した。内容は下記のとおりである。

○平成25年度の郷土館だより

号　数	発行日	内　　容
第35号 （秋号）	平成25年 10月15日	特別展「飯能方面湖水の如し」展示のみどころ／平成25年度の終了した主な事業／今後の主な事業予定(収蔵絵画展 in 市民活動センター、「むかしのくらし ー民家の台所再現ー」展、体験学習会「まゆ玉づくり」、ミニ展示「ひなまつり」など)
第36号 （春号）	平成26年 3月15日	特別展「飯能方面湖水の如し」の報告／終了した主な事業(収蔵絵画展 in 市民活動センター、「むかしのくらし」展、ミニ展示「ひなまつり」) ／ホームページ『郷土館日誌』をご覧ください／収蔵品展「小学校教師が撮影した飯能」のご案内／平成26年度の主な事業予定

インターネットの普及により、現代社会には情報があふれている。その中で当館が行っている事業や地域の歴史情報を、それを求めている人に的確に伝わるようにするためには広報戦略が不可欠である。

来館者のアンケートからは、広報「はんのう」やポスター・チラシに一定の効果が認められるものの、PR不足は否めない。今後はホームページの充実はもとより、未だ手がけていないソーシャルメディアなどの活用なども課題になっていくと思われる。

ホームページ

当館では、平成14年10月にホームページの公開を開始したが、平成25年度のものは、平成24年2月の飯能市のホームページ全面改訂に伴って大きく更新されたものである。

各月ごとのアクセス件数は右表のとおりである。内訳は紙幅の関係から掲載できなかったが、どの月も概ね「麦こがしの作り方」や「昔の麦づくり」といった麦に関わるページが多く閲覧されている。また、9月に開催された小中学校社会科研究展、1月から2月にかけて実施した小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」は、その月のアクセス件数で上位に入ってきており、小・中学生の親世代が当館のホームページから情報を得ていることが推測される。

ところで、4月・11月・1月のアクセス件数が多くなっているが、これは限られたページの閲覧が集中しているためである。例えば11月は「身近な麦」が6,845件、4月が「That's！郷土館」の中の「江戸時代人の爪」が3,230件で、他の月の最も多いページのアクセス件数が400～500件であることを考えれば異常な数字といえる。どうしてそこまで多くなるのか、理由は不明である。

平成25年度
郷土館ホームページアクセス件数

月	トップページ件数	件数（管理ページ全体）
4月	520	12,694
5月	458	10,624
6月	416	8,263
7月	569	7,251
8月	506	8,102
9月	447	8,930
10月	577	9,626
11月	505	15,957
12月	361	10,485
1月	432	11,324
2月	415	9,519
3月	429	6,581
合　計	5,635	119,356
1ヶ月平均	469.6	9,946.3

That's！郷土館

「That's！郷土館」は、地元のケーブルテレビである「飯能・日高テレビ」で毎月発行している番組表にスペースをいただき、毎回地域の歴史、文化を紹介しているものである。

連載は平成13年5月から始まっており、内容は展示資料や収蔵資料に関すること、地域の特定の歴史事象に関すること、資料の整理や調査で気付いた点など様々である。地域情報の紹介や当館の活動内容を伝える貴重な場であり、学芸員が交代で執筆している。

この番組表はケーブルテレビを視聴している家庭を中心に、飯能・日高市内の多くの箇所で配付されているが、より多くの方に読んでもらえるように平成18年4月号分から当館のホームページにも掲載している。平成25年度の掲載内容は表のとおりである。

○成25年度「That's！郷土館」掲載記事一覧

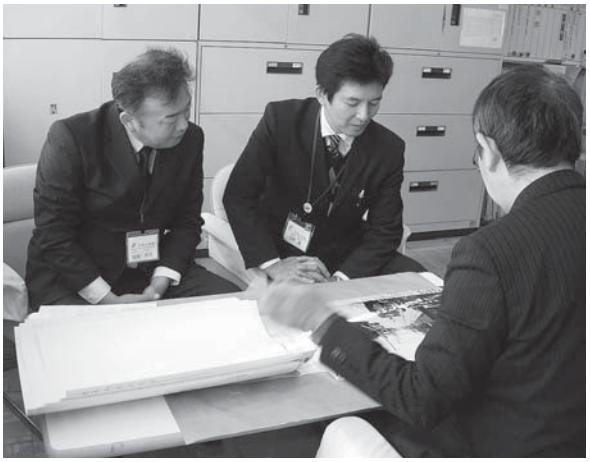
月	内　　容	担当学芸員
4月	「山上の霊地をめぐって」⑤「高貴山不動尊略縁記」にみる不動尊の開扉	村上
5月	むかし・むかしの給食は・・・	金子
6月	「山上の霊地をめぐって」⑥明治33年の子ノ権現における開帳千座護摩供	村上
7月	戦後の荒廃と月刊誌「飯能文化」の発行	館長
8月	「山上の霊地をめぐって」⑦集落を守る牛頭天王の護符	村上
9月	指定文化財になった名栗の板碑	館長
10月	「山上の霊地をめぐって」⑧「山上の霊地」－紅葉のころ－	村上
11月	小床地区の架橋碑	金子
12月	災害記憶の風化を留める地域遺産①高麗川の「大岩」（坂石町分）	尾崎
1月	災害記憶の風化を留める地域遺産②平成11年8月土砂災害の災害遺構	尾崎
2月	災害記憶の風化を留める地域遺産③災害によって甦った石仏（上名栗・湯ノ沢）	尾崎
3月	災害記憶の風化を留める地域遺産④矢川橋際に残る「蛇籠」（矢颪）	尾崎

事業支援

平成18年度から27年度までを対象とする飯能市第4次総合振興計画の基本構想では、少子高齢化の進行と総人口の減少、高度情報社会への移行といった社会情勢の変化の中で、都市の魅力を高め活力ある地域経済を確立することが重要とされる。そして本市の「魅力」アップのため、自然や歴史、文化を活用し「住みよいまち」のイメージを作り出し、地域ブランドを創造し、積極的に情報を発信して、若い世代の定住や交流人口の拡大をはかり、企業誘致などにより地域経済の活性化に努める、とする。

こうしたまちづくりの基本概念のもと、市役所内の様々な課所などが事業を行っているが、これらを行うにあたり、当館がもっている地域の歴史・文化情報が注目され始めている。これらの動きはともすると歴史文化情報資源の「使い捨て」にもつながり注意が必要であるが、一方で歴史博物館の存在意義を庁内で広く認識してもらうまたとない機会ともとらえられる。

以上の視点から、平成25年度から地域の魅力づくりにつながる事業の支援も当館の業務として位置づけ、積極的に取り組むこととした。内訳は下表のとおりである。



国際興業バス車内展示について政策企画課との打合せ

○平成25年度「事業支援」実績

	支援先	期　間	内　　容
1	埼玉りそな銀行 飯能支店	6/10～12/31	支店移転に伴い、飯能駅前通りの新店舗ロビーに飯能の古写真と現在の対比の写真を展示。　※44頁からの「収蔵資料の利用」にも掲載
2	市街地活性化推進課	6/4～	「飯能まちなかを元気にする会」への助言。具体的には、市民のくらしグループの「小麦についてもっと知ろう」への協力と活性化拠点づくりグループへの「飯能ご当地検定（仮称）」の問題・解説の監修など。
3	政策企画課	6/10～12/4	各地区行政センターで開催する市制施行60周年記念事業「写真でたどる飯能市の60年」の展示写真選定の助言、写真の提供、展示技術的支援。 中央地区行政センター（7/8～19）、第二区地区行政センター（9/4～25）、吾野地区行政センター（9/11～10/29）、精明地区行政センター（10/29～11/12）、南高麗地区行政センター（10/24～28）、原市場地区行政センター（11/15～30）、双柳地区行政センター（11/18～12/3）、東吾野地区行政センター（11/20～12/4） ※これらについては44頁からの「収蔵資料の利用」にも掲載
4	埼玉りそな銀行 ＯＢ会	6/29	当館所蔵写真を中心に埼玉銀行の今昔と飯能市街地の移り変わりをテーマとしたスライドショーを作成、会合で放映する。
5	図書館	7/1～8/8	新図書館開館記念企画展として、終戦直後の文化運動についての「飯能文化萌ゆ」を新図書館２階で展示。　※26ページに掲載
6	広報情報課	10/25	FM NACK5「GOGOMONZ」内『来て、見て、HAPPY！飯能市』の収録協力。子ノ権現を村上学芸員が紹介。
7	広報情報課	10/30	三重テレビ放送番組「ええじゃないか」収録協力で、市長が天覧山を案内するのを補佐（柳戸）。
8	政策企画課	12/1～3/31	国際興業バスでかつての外観を復刻したバスを運行するにあたり、車内に「車窓から見る懐かしの風景」と題し、写真パネル27枚を作成、展示。
9	商工観光課	1/24	観光名所解説看板（天覧山・飯能河原）の更新に伴う解説文の確認・校正
10	秘書室	2/5	林野庁職員視察用参考資料の作成（昭和初期における飯能駅周辺の材木店に関する資料）
11	市民参加推進課	2/28	「友好都市提携10周年記念誌」の写真およびキャプション等の使用、表記方法などの確認及び校正
12	政策企画課	3/12	市外から来る人に対する情報提供の素材として8/28に実施した市役所互助会イブニングセミナー「“パワースポット”あります」資料の提供

＊特に断りのないものは飯能市役所の課・室

郷土館協議会

郷土館協議会は、飯能市郷土館条例第10条に基づき、当館の運営に関する事項を調査し、審議するために置かれている。委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期：平成24年７月１日～平成26年６月30日

【委員名簿】

職名	氏　名	役　　職	備　考
会　長	柳澤　陽子	文芸飯能選考委員	
副会長	加藤　栄子	定点撮影プロジェクト会員	
委　員	山下　利明	飯能第一小学校長	
委　員	中川　佳和	吾野中学校長	
委　員	杉田　和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委　員	井上　淳治	（有）創林　代表取締役	
委　員	野村　正弘	駿河台大学教授	
委　員	保坂　裕興	学習院大学教授	
委　員	栗原　慶子	東吾野女性林研ときめ木　会長	
委　員	小槻　成克	市文化財保護審議委員会委員	

【開催状況】

第１回　平成25年7月3日（水）
午後2時～３時40分

（議　事）

報告事項

・平成24年度事業報告について

・平成25年度事業経過と今後の予定について

協議事項

・特別展「飯能の災害史」（仮称）について

第２回　平成25年11月13日（水）
午前10時～11時10分

（議　事）

報告事項

・平成25年度事業報告について

協議事項

・平成26年度事業計画について

※終了後、特別展「飯能方面湖水の如し」の展示解説を実施

第３回　平成26年2月26日（水）
午後2時～３時45分

（議　事）

報告事項

・平成25年度事業報告について

協議事項

・平成26年度事業計画について

郷土館協議会

博物館実習

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の1つとされ、登録博物館又は博物館相当施設（大学においてこれに準ずると認めた施設を含む。）における実習により修得されるものとされる。文部科学省では平成21年4月の博物館法施行規則の改正を機に「博物館実習のガイドライン」を作成しているが、登録博物館である当館としては、これを参考にしながら博物館実習を実施している。「ガイドライン」には、博物館が学芸員を始めとする博物館に関する人材を育成する責務を有していること、実習の受け入れが博物館の質の向上につながることを指摘しているが、合わせて実習を通して実習生とその周辺の人々に当館の役割や存在意義に対する理解を深めてもらうことも重要な目的の1つと考えている。

受け入れる学生は原則として、市民とみなされる世帯に属し、博物館学概論の単位を修得していることを応募の条件にしており、実習の前年度末までに申込書を受け付け、4人以内で実習生を決定している。

実施期間　平成25年7月30日（火）～8月11日（日）　12日間
実 習 生　上野満里奈・小口千絵・友成萌（以上駿河台大学）・井上茂樹（八洲学園大学）

○平成25年度博物館実習カリキュラム

	実施日	曜日	午　前	午　後
1	7月30日	火	オリエンテーション・館内案内（館長）	出土品展設営（柳戸）
2	7月31日	水	市民学芸員（麦サークル）活動体験（金子）	「竹の水鉄砲で遊ぼう」準備（金子）
3	8月1日	木	名栗くらしの展示室展示資料整備（柳戸）	
4	8月2日	金	「竹の水鉄砲で遊ぼう」準備（金子）	
5	8月3日	土	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営（金子）	
6	8月4日	日	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営（金子）	
7	8月6日	火	出土品展見学・展示説明参加（柳戸）	夏休み子ども歴史教室準備（村上）
8	8月7日	水	夏休み子ども歴史教室運営（村上）	夏休み子ども歴史教室反省（村上）
9	8月8日	木	市民学芸員（古文書整理）活動見学（尾崎）	調査　石碑拓本とり（金子）
10	8月9日	金	資料取扱・展示「飯能文化萌ゆ」展示撤去（館長）	
11	8月10日	土	信仰対象資料の整理（村上）	
12	8月11日	日	天覧山周辺巡見/講義・郷土館の現状と課題について（館長）	実習まとめ（館長）

（　）は指導者名

名栗民俗資料保管庫での資料のさび落とし作業（8/1）

第３章

Chapter 3

【各種データ】

利用者数

平成25年度

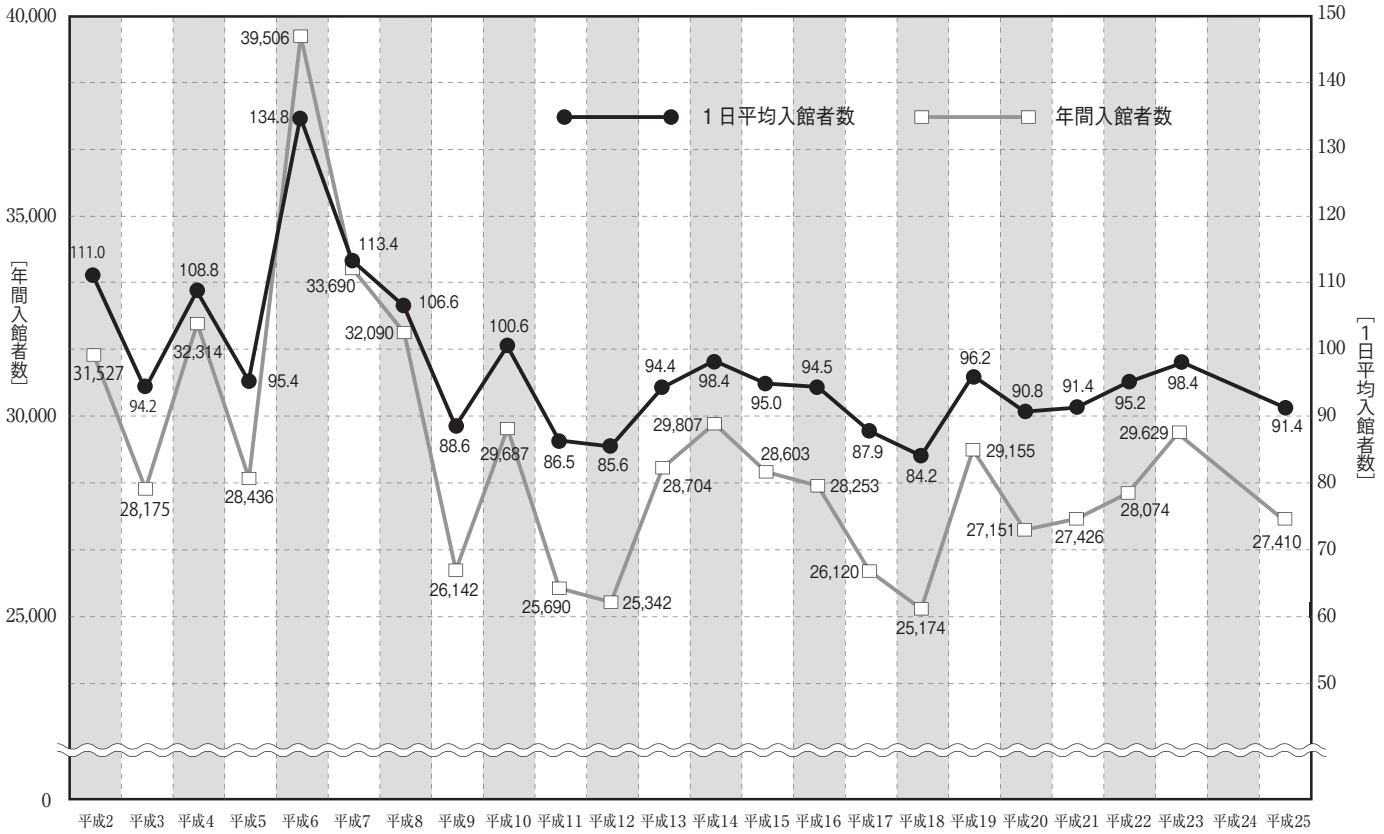
（単位：明記したもの以外は人）

月	開館日数（日）	入館者数		入館者以外の利用者数							利用者合計
		人数	1日平均	出張授業受講者数	資料利用者数	レファレンス件数	講師派遣受講者数	ホームページアクセス件数	合計	利用者合計に対する割合(%)	
4	25	1,828	73.1		16	18	62	520	616	25.2	2,444
5	27	2,449	90.7	155	14	27		458	654	21.1	3,103
6	26	2,216	85.2		21	6		416	443	16.7	2,659
7	22	1,866	84.8	327	16	8	35	569	955	33.9	2,821
8	27	2,039	75.5		6	17	86	506	615	23.2	2,654
9	25	1,931	77.2		15	7		447	469	19.5	2,400
10	27	2,677	99.1		14	7	8	577	606	18.5	3,283
11	26	3,399	130.7		14	16	82	505	617	15.4	4,016
12	23	1,608	69.9	147	6	10	92	361	616	27.7	2,224
1	23	2,564	111.5		7	6		432	445	14.8	3,009
2	23	2,258	98.2	53	10	6	93	415	577	20.4	2,835
3	26	2,575	99.0		11	10		429	450	14.9	3,025
合計	300	27,410	91.4	682	150	138	458	5,635	7,063	20.5	34,473

開館（平成２年度）から平成25年度末までの

総入館者数	694,664 人
開館日数	7,147 日
１年平均入館者数	30,202.8 人／年
１日平均入館者数	97.2 人／日

〈入館者数の推移〉



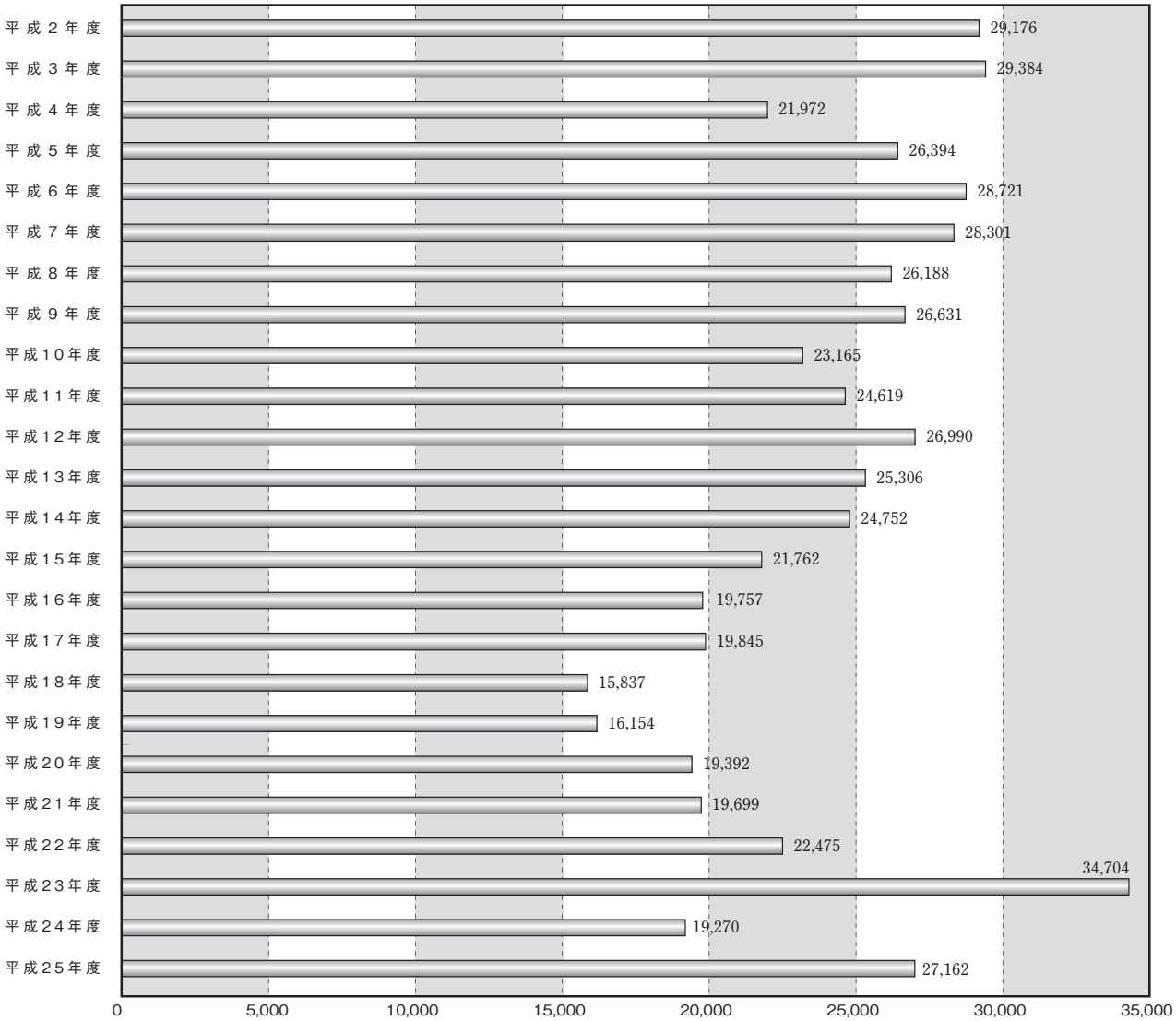
歳出予算

年度	事業名	郷土館事務費	展示・学習会開催事業	資料収集・保存事業	調査・研究事業	郷土館施設管理事業	郷土館事業費小計	名栗くらしの展示室整備事業	郷土館費合計	A（%）	B（円）	C（円）
23	予算額	3,107,000	3,997,000	7,453,000	3,838,000	16,309,000	34,704,000	0	34,704,000	0.13	419.7	1,171.3
		9.0%	11.5%	21.5%	11.1%	47.0%						
	決算額	2,758,994	3,692,341	6,231,415	3,099,788	14,223,920	30,006,458	―	30,006,458	0.12	362.9	1,012.7
	執行率	88.8%	92.4%	83.6%	80.8%	87.2%	86.5%	―	86.5%			
24	予算額	3,074,000	3,919,000	4,990,000	573,000	6,714,000	19,270,000	0	19,270,000	0.07	234.3	673.6
		13.9%	17.4%	34.3%	1.3%	33.1%						
	決算額	2,592,721	3,101,672	3,833,699	377,802	6,410,923	16,316,817	―	16,316,817	0.06	198.4	570.4
	執行率	84.3%	79.1%	76.8%	65.9%	95.5%	84.7%	―	84.7%			
25	予算額	3,516,000	3,989,000	4,821,000	225,000	7,351,000	19,902,000	7,260,000	27,162,000	0.10	332.8	991.0
		17.7%	20.0%	24.2%	1.1%	36.9%						
	決算額	3,160,359	3,515,183	3,752,644	181,209	6,813,587	17,422,982	7,017,400	24,440,382	0.09	299.4	891.7
	執行率	89.9%	88.1%	77.8%	80.5%	92.7%	87.5%	96.7%	90.0%			

当館事業費（人件費をのぞく）の
A：飯能市一般会計・決算支出済額に対する割合　B：市民１人あたり（当該年度の４月１日現在の人口）の金額　C：入館者１人あたりの金額

〈飯能市郷土館当初予算額の推移〉

単位：千円



※平成２３年度は、調査研究事業に旧平岡レース建物調査、施設管理事業に名栗史料室の整備と旧名栗村役場解体費用が加えられたため、予算が大幅に増額した。

図書資料寄贈機関

埼玉県

朝霞市博物館
跡見学園女子大学花蹊記念資料館学芸員課程
伊奈町教育委員会
入間市遺跡調査会
入間市教育委員会
入間市博物館
奥むさし駅伝競走大会実行委員会
春日部市
春日部市郷土資料館
加須市教育委員会
川口市立科学館
川越市教育委員会
川越市立博物館
行田市
行田市郷土博物館
行田市・桑名市・白河市友好都市締結１５周年記念合同企画展実行委員会
久喜市教育委員会
熊谷市
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室
熊谷市立熊谷図書館
古代の入間を考える会
高麗郡建郡1300年記念事業委員会
高麗神社社務所
埼玉県
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
埼玉県農林部林務課・埼玉県森林組合連合会
埼玉県平和資料館
埼玉県保育協議会
埼玉県立川の博物館
埼玉県立さきたま史跡の博物館
埼玉県立自然の博物館
埼玉県立文書館
埼玉県立嵐山史跡の博物館
埼玉県立歴史と民俗の博物館
さいたま市
さいたま市立博物館
さいたま文学館
埼玉民俗の会
坂石町分嚊子連百周年実行委員会
坂戸市教育委員会
さきたま魅力アップ実行委員会
サトエ記念21世紀美術館
狭山古文書勉強会
駿河台大学
駿河台大学メディア情報学部2013年度野村ゼミナール
精明郷土史研究会
草加市教育委員会
租税大学校税務情報センター租税史料室
鶴ヶ島市遺跡調査会
鉄道博物館
戸田市立郷土博物館
新座市教育委員会
日本工業大学工業技術博物館
鳩山町教育委員会
飯能絵画連盟
飯能市
飯能市教育委員会
飯能市役所環境部環境緑水課
飯能市役所総合政策部政策企画課
飯能市役所総務部市民税課
飯能市役所総務部庶務課庶務統計担当
飯能市役所秘書室
飯能市立各小中学校
飯能日高テレビ
日高市教育委員会
富士見市立難波田城資料館
富士見市立水子貝塚資料館
ふじみ野市上福岡歴史民俗資料館
ふじみ野市教育委員会
平成23年度埼玉県民俗文化財を活かした観光振興地域活性化実行委員会
平成24年度埼玉県民俗文化財を活かした観光振興地域活性化実行委員会
三郷市
宮代町教育委員会
宮代町郷土資料館
毛呂山町遺跡調査会
毛呂山町教育委員会
吉川市
吉見町教育委員会
立正大学博物館
蕨市立歴史民俗資料館

東京都

板橋区教育委員会
板橋区立郷土資料館
エヌ・ティ・ティ都市開発㈱
大田区立郷土博物館

科学博物館後援会
学習院大学
学習院大学史料館
学校法人日本橋女学館他
葛飾区郷土と天文の博物館
神奈川大学日本常民文化研究所
北区教育委員会
国立科学博物館
駒澤大学大学院史学会
財団法人渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
首都圏形成史研究会
新宿区
杉並区立郷土博物館
杉並区立郷土博物館分館
台東区教育委員会
台東区教育委員会生涯学習課文化財担当
台東区立下町風俗資料館
立川市教育委員会
たましん歴史・美術館歴史資料室
中央区教育委員会・中央区立郷土天文台
調布市遺跡調査会
(財)伝統文化活性化国民協会
東京科学博物館
東京国立博物館
東京書房
東京都
東京都江戸東京博物館
独立行政法人国立国際医療研究センター他
豊島区
日貿出版社
日本エディタースクール出版
日本博物館協会
練馬区立石神井公園ふるさと文化館
農文協
八王子市
八王子市郷土資料館
八王子市総合政策部市史編さん室
パルテノン多摩
東村山市教育委員会他
日の出町教育委員会
フジ・テクノシステム
(財)府中文化振興財団府中市郷土の森博物館
福生市教育委員会
文化環境研究所
文化庁
町田市教育委員会
瑞穂町教育委員会
三井不動産レジデンシャル(株)他
港区教育委員会
港区立港郷土資料館
武蔵大学学芸員過程
武蔵村山市教育委員会
明治大学
明治大学学芸員養成課程
明治大学学術・社会連携部博物館事務室

その他

茨城県立歴史館
岩宿博物館
各務原市歴史民俗資料館
君津市立久留里城址資料館
国立歴史民俗博物館
寒川町
下関市立考古博物館
高萩市
高萩市教育委員会
高萩市経営戦略部市長室
高萩市市長室
田原市教育委員会
田原市教育委員会文化振興課
田原市博物館
地域に遺る文化財を活用した地域振興事業実行委員会
土浦市立博物館
津山郷土博物館
流山市教育委員会
流山市立博物館
韮山町
韮山町史刊行委員会
野田市郷土博物館
野田市古文書仲間
秦野市教育委員会
秦野市教育委員会生涯学習部生涯学習課文化財班
平塚市博物館
藤沢市文書館
防災科学技術研究所
松岡藩藩校「就将館」・高萩市教育委員会生涯学習課
松代文化施設等管理事務所(真田宝物館)
松代文化施設等管理事務所
松戸市立博物館
山口県立山口博物館
横浜開港資料館

飯能市郷土館条例

平成元年12月27日　条例第33号

（設置）
第1条　郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料（以下「資料」という。）の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館（以下「郷土館」という。）を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。
（業務）
第2条　郷土館は、次に掲げる業務を行う。
(1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
(2) 資料の調査及び研究に関すること。
(3) 資料の展示及び利用に関すること。
(4) 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
(5) その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。
（管理）
第3条　郷土館は、飯能市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が管理する。
（職員）
第4条　郷土館に、館長その他必要な職員を置く。
（休館日）
第5条　郷土館の休館日は、次のとおりとする。
(1) 月曜日（この日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）である場合を除く。）
(2) 休日の翌日（この日が日曜日又は休日である場合を除く。）
(3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで
2　教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。
（利用時間）
第6条　郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。
（利用の制限）
第7条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。
(1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
(2) その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。
（使用料）
第8条　郷土館の使用料は、無料とする。
（損害賠償）
第9条　郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。
（郷土館協議会）
第10条　郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会（以下「協議会」という。）を置く。
（協議会の組織）
第11条　協議会は、委員10人以内をもって組織する。
2　委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。
(1) 学校教育及び社会教育の関係者
(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
(3) 学識経験者
（平24条例17・一部改正）
（委員の任期）
第12条　委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（会長及び副会長）
第13条　協議会に、会長及び副会長を置く。
2　会長及び副会長は、委員の互選により定める。
3　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
4　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
（協議会の会議）
第14条　協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。
2　協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。
3　協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（庶務）
第15条　協議会の庶務は、郷土館において処理する。
（委任）
第16条　この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。
附　則
（施行期日）
1　この条例は、平成2年4月1日から施行する。
（飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正）
2　飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和44年条例第8号）の一部を次のように改正する。
〔次のよう〕略
附　則（平成24年条例第7号）
（施行期日）
1　この条例は、平成24年4月1日から施行する。
（経過措置）
2　この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市郷土館条例の規定により任命された委員とみなす。

飯能市郷土館条例施行規則

平成2年3月31日　教委規則第5号

（趣旨）

第1条　この規則は、飯能市郷土館条例（平成元年条例第33号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（職員）

第2条　飯能市郷土館（以下「郷土館」という。）に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

（職務）

第3条　館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2　学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3　その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

（施設の利用及び許可）

第4条　学習研修室、特別展示室及び図書室（以下「学習室等」という。）は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2　学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3　学習室等（図書室を除く。）を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書（様式第1号）を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4　館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書（様式第2号）を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

（郷土館資料の利用及び許可）

第5条　郷土館の資料（以下「資料」という。）は、学術上の研究のため、利用することができる。

2　資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書（様式第3号）を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3　館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書（様式第4号）を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

（施設、資料利用許可の取消し等）

第6条　館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

（資料の寄贈及び寄託）

第7条　館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2　資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書（様式第5号）を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書（様式第6号）を館長に提出するものとする。

3　館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書（様式第7号）を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書（様式第8号）を交付するものとする。

4　寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5　館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

（委任）

第8条　この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附　則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附　則（平成4年教委規則第7号）

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附　則（平成10年教委規則第6号）

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附　則（平成13年教委規則第5号）

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附　則（平成15年教委規則第9号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附　則（平成17年教委規則第20号）

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

様式第1・3・5・6号（次頁）、様式第2・4・7・8号（省略）

様式第１号（第４条関係）

飯能市郷土館施設利用許可申請書

飯能市郷土館長　殿　　平成　年　月　日

申請者
団体名
住所
氏名
電話番号　（　）

下記のとおり施設を利用したいので申請します。

利用責任者	住所			
	氏名		電話番号	（　）
利用目的				
利用日時	平成　年 月　日　時　分 ～ 月　日　時　分			
利用施設	□学習研修室	男　人　女　人　計　人		
	□特別展示室	展示品（　　）　点		
利用備品	□スライド映写機　□ビデオ機器　□展示パネル □展示ケース　□展示台　□その他（　）			
その他特記事項				

※ □内は、該当するところに✓印をつけてください。

様式第１号　施設利用許可申請書

様式第５号（第７条関係）

担当	館長

第　号

飯能市郷土館資料寄贈申請書

平成　年　月　日

（あて先）飯能市郷土館長

申請者
住所
氏名
電話番号（　）　－

下記のとおり資料を寄贈したいので申請します。

記

資料名	数量	備考

様式第５号　資料寄贈申請書

様式第３号（第５条関係）

担当	館長

飯能市郷土館資料利用許可申請書

（あて先）飯能市郷土館長　　年　月　日

申請者
団体名
住所
氏名
電話番号（　）　－

下記のとおり郷土館資料を利用したいので申請します。

利用目的				
利用期間	年　月　日から　年　月　日まで			
利用場所	館内・館外（　　）			
利用方法				
利用資料	分類番号	資料名	数量	備考
輸送方法	館外利用のみ（　　）			
利用責任者				
特記事項				

返却日	受領者
／	

様式第３号　資料利用許可申請書

様式第６号（第７条関係）

第　号

飯能市郷土館資料寄託申請書

年　月　日

（あて先）飯能市郷土館長

申請者
住所
氏名
電話番号（　）　－

次のとおり資料を寄託したいので申請します。

記

寄託期間	年　月　日から　年　月　日まで		
寄託資料	資料名	数量	備考

様式第６号　資料寄託申請書

職　員

平成25年度

館　長	柳戸　信吾
主　査(学芸員)	尾崎　泰弘
主　任(学芸員)	金子　聡子
主　任(学芸員)	村上　達哉
臨　時(資料整理･展示準備)	
	石田　朋子
	入子美佐子
臨　時(事務)	加藤　　緑
臨　時(施設管理)	野口　　修

● **定点撮影プロジェクト会員**(敬称略)

秋元重信　浅見彰夫　大野哲夫　小沢弘美
加藤栄子　加藤寛之　加藤実生　加藤安夫
加藤良夢　金子仙太郎　鴨下栄太郎
菊池好太郎　菊池偉夫　久下文男　関根貴志
髙橋　忠　田川富美江　田中　勉　中島滋雄
糠信　兌　萩原昭平　宮川貞男　吉田　豊
(以上23名)

● **市民学芸員**(敬称略)

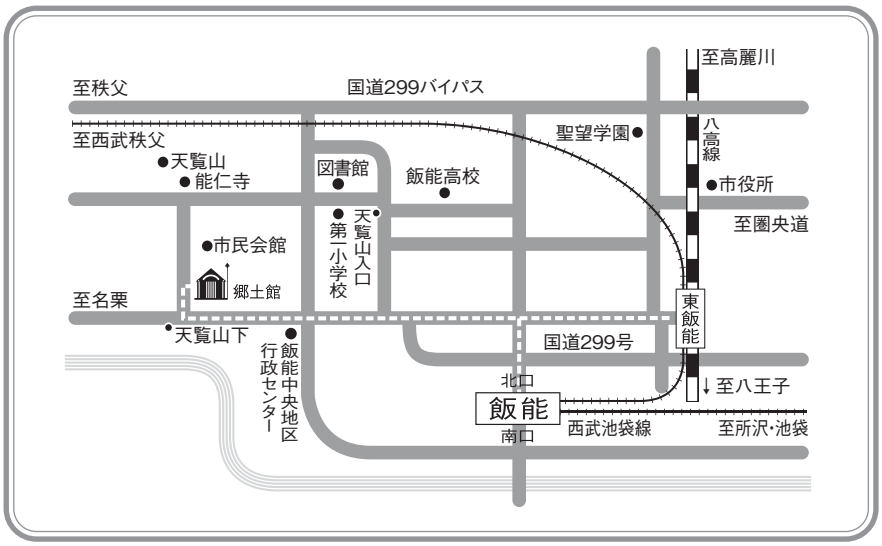
池田勝造　石原紀子　伊藤孝文　伊藤美津江
宇津木繁生　大木有子　大野さく子　大野正一
影山理恵　久津輪社　功力英雄　小林茂樹
小林豊子　小山紗希　坂本利二　佐々木初江
佐藤浩一　篠宮敏次　嶋崎季子　清水芙美子
須田正史　関根秀俊　遠山光保　冨澤武男
仲舘祐子　中野和子　中山　功　双木幸三
西久保治子　根立範子　長谷川志保子
原田恵子　福嶋信子　松田早苗　柳戸淳吉
山川貞治　山岸忠義　和島和恵　渡邊雅子
(以上39名)

利用案内

●開館時間：午前9時～午後5時
●休　館　日：月曜日、祝日の翌日（ただしこの日が休日の場合は開館）
　　年末年始（12月28日～1月4日）
●入　館　料：無料

交通案内

●最寄インター：圏央道狭山日高ICより約20分
●最寄駅：西武池袋線飯能駅下車　北口より徒歩約15分
　　または、国際興業バス　北口ロータリー2番乗り場より名栗車庫行き、
　　西武飯能日高行き等（名栗方面行き）「天覧山下」下車



飯能市郷土館館報　郷土館のプロフィール
第11号
平成27年3月31日発行

発行　飯能市郷土館
〒357-0063　埼玉県飯能市大字飯能258-1
TEL（042）972-1414　FAX（042）972-1431
E-mail:kyodokan@city.hanno.lg.jp
http://www.city.hanno.saitama.jp/0000001734.html

制作　（有）クレバラー・デザインスタジオ
〒357-0044　埼玉県飯能市川寺106-4
TEL（042）974-5260

1　版　　型　　A4版
2　紙　　質　　（表紙）マットコート紙　菊判 111 kg
　　（本文）クリームキンマリ菊判 62.5 kg
3　印刷方法　　オフセット印刷1色刷り（本文）68 ページ
4　印刷内容　　モノクロ写真　87 枚
5　スクリーン線数　175 線
6　製　　本　　無線綴じ
※表紙絵：小島喜八郎氏

小さな発見　新たな出会い　大きな喜び
飯能市郷土館
埼玉県飯能市大字飯能 258-1
TEL (042) 972-1414　FAX (042) 972-1431